公益財団法人
蘭島文化振興財団

2020 年度
年報

令和 2 年度

GARDEN ISLAND SHIMOKAMAGARI

展示事業一覧・沿革・目次

2020（令和２）年度展示事業一覧

特別展

会場：蘭島閣美術館

特別展	はしもとみお彫刻展 海からはじまるいきものたち

会場：三之瀬御本陣芸術文化館

秋季特別展	京都近代日本画の精華

蘭島閣美術館

所蔵品展Ⅰ	花ひらく芸術ー院展の作家を中心にー
所蔵品展Ⅱ	水の表現ー絵画から工芸まで
所蔵品展Ⅲ	画家たちのまなざし–広島の画家たちが描いた世界– 同時開催 ふるさとの絶景六選
所蔵品展Ⅳ	旅した画家たちが魅せられた世界

蘭島閣美術館別館

所蔵品展Ⅰ	童画の登場ー大正・昭和初期の新メディアー
所蔵品展Ⅱ	裸婦を描いてー寺内萬治郎の世界ー
所蔵品展Ⅲ	寺内萬治郎の歩み（１）

三之瀬御本陣芸術文化館

所蔵品展Ⅰ	三岸節子　花より花らしく 同時開催 須田国太郎の見つめた自然
所蔵品展Ⅱ	須田国太郎と能 ー芸に魅せられた画家たちー
所蔵品展Ⅲ	池田栄廣の世界 同時開催 須田国太郎の描く生き物
所蔵品展Ⅳ	須田国太郎の黒 –Suda’s black– 画家たちの黒

松濤園

陶磁器館

所蔵品展Ⅰ	色絵磁器の変遷
所蔵品展Ⅱ	やきもの動物園
所蔵品展Ⅲ	海を渡った伊万里たち
所蔵品展Ⅳ	磁器の魅力　中国磁器から伊万里へ

御馳走一番館

所蔵品展Ⅰ	朝鮮通信使と異文化交流
所蔵品展Ⅱ	朝鮮通信使が見た日本
所蔵品展Ⅲ	朝鮮通信使と船の旅
所蔵品展Ⅳ	朝鮮通信使と饗応

沿革

設立経緯と現況

下蒲刈島は、広島県の中部島地域に位置し、古くから海上交通の要衝として栄え、江戸時代には幕府が海駅を設置し西国大名や朝鮮通信使の寄港地として重要な位置を占めていました。

現在、蘭島閣美術館を中心として立地する下蒲刈島の文化施設群は、下蒲刈町政時代の 1986（昭和 61）年、下蒲刈町長竹内弘之氏（故人）が提唱した「活力ある個性豊かな町づくり」という町政指針にその端を発しています。

その指針のもと、下蒲刈町では 1986（昭和 61）年から 1988（昭和 63）年までの３年間の間に移動美術展を招致するなどし、地域住民の文化理解を促し、その後の美術館施設建設に向けた気運を高める活動をおこなってきました。1988（昭和 63）年度の下蒲刈町予算編成における「教育文化の振興」指針に基づき、同年、美術館・図書館・資料館建設の調査費が計上されるに至り、1991（平成３）年度に「文化と歴史の町」と「ガーデンアイランド構想（全島庭園化構想）」を下蒲刈町の新たな町づくりの基本方針として整備が進められ、蘭島閣美術館を始めとする中核文化施設と庭園などの整備を進めてきました。現在に至るまでに約 3,700 点のコレクションを収集し、美術・歴史・環境を含めたさまざまな文化施設が誕生しました。

町政から財団運営へ

全国的な市町村合併の流れの中、下蒲刈町は 2003（平成 15) 年、呉市と合併しました。その前年の 2002（平成 14）年４月に第１回呉市・下蒲刈町合併協議会が開催されました。市政移行準備とともに、財団法人蘭島文化振興財団の設立準備も進められ、2002（平成 14）年 10 月１日に財団法人蘭島文化振興財団が設立されます。合併により、町政時代の建造物、コレクションはすべて呉市所管となりました。続いて、2004（平成 16）年には三之瀬御本陣芸術文化館が開館します。これにより、ハード面の文化施設の建設がすべて終了しました。2003（平成 15）年から 2005（平成 17）年の３年間は、財団法人蘭島文化振興財団*1 が呉市からの管理運営受託、そして、2006（平成 18）年から 2009（平成 21）年の４年間、財団法人蘭島文化振興財団は呉市との協定により下蒲刈島の文化施設群「蘭島文化振興施設」の指定管理者として運営管理をおこなってきました。以降、2020（令和２）年度現在、第３期目の指定管理者として、管理運営をおこなっています。

*1　2012（平成 24）年４月１日、公益財団法人へ移行。

公益財団法人蘭島文化振興財団の役割

当財団は、地域文化の振興を目指した諸事業をおこなうとともに、地域文化に関する教育普及活動の推進を図り、市民の文化振興と地域社会の健全な発展に寄与することを目的とします。（定款第３条）目的達成のための事業（定款第４条）は、①蘭島閣美術館、蘭島閣美術館別館、三之瀬御本陣芸術文化館における芸術文化振興事業②昆虫の家における自然環境保全啓発事業③松濤園における芸術文化振興事業④白雪楼、春蘭荘・松藾亭・煎茶室における芸術文化振興事業⑤その他この法人の目的を達成するために必要な事業、以上５事業からなっています。

公益財団法人蘭島文化振興財団が指定管理する蘭島文化振興施設

2020（令和２）年度、当財団が管理運営する蘭島文化振興施設は、①蘭島閣美術館、②蘭島閣美術館別館、③三之瀬御本陣芸術文化館、④松濤園、⑤白雪楼、⑥昆虫の家「頑愚庵」、⑦春蘭荘、松藾亭及び煎茶室です。

□沿革

1991（平成３）年	蘭島閣美術館開館
1994（平成６）年	松濤園開館
1996（平成８）年	白雪楼開館
1997（平成９）年	蘭島閣美術館別館開館
1998（平成 10）年	昆虫の家「頑愚庵」開館
2001（平成 13）年	第１回ギャラリーコンサート開催
2001（平成 13）年	蘭島閣美術館開館 10 周年「須田国太郎展」開催
2002（平成 14）年	第１回呉市・下蒲刈町合併協議会開催（以後５回）
	蘭島文化振興財団設立事前説明会開催
	呉市・下蒲刈町合併協定調印式（小笠原臣也呉市長と竹内弘之下蒲刈町長による調印式）
	蘭島文化振興財団設立事前説明会開催
	蘭島文化振興財団設立許可申請
	蘭島文化振興財団設立許可
	蘭島文化振興財団登記申請
	財団法人蘭島文化振興財団設立
2003（平成 15）年	韓国鎮海市長他、松濤園など視察
	韓国からムクゲの苗 100 本寄贈受ける
	下蒲刈町、呉市と合併
	松濤園入場者 20 万人
	第 1 回朝鮮通信使再現行列開催
2004（平成 16）年	三之瀬御本陣芸術文化館開館
	三之瀬御本陣芸術文化館開館記念特別展「福田平八郎展」開催
	松濤園開館 10 周年記念特別展「朝鮮通信使の道のり展ー交流の足跡ー」開催
	『松濤園開館 10 周年記念呉市・鎮海市友好姉妹都市提携 5 周年記念古伊万里名品図録』発刊
2005（平成 17）年	「21 世紀の日韓こども通信使」下蒲刈島訪問
2009（平成 21）年	竹内弘之理事長死去
	渡辺理一郎理事長就任
2010（平成 22）年	年中無休から火曜日休館の実施へ
	ギャラリーコンサート 10 周年
2011（平成 23）年	蘭島閣美術館開館 20 周年
2012（平成 24）年	公益財団法人化
	朝鮮通信使再現行列 10 周年
2014（平成 26）年	松濤園開館 20 周年
	三之瀬御本陣芸術文化館開館 10 周年
2015（平成 27）年	ギャラリーコンサート 15 周年
2019（平成31/令和元）年	渡辺理一郎理事長退任
	海生泰定理事長就任
	三之瀬御本陣芸術文化館開館 15 周年
	松濤園開館 25 周年
2020（令和２）年	新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館
	期間：３月９日［月］～2020（令和２）年度５月 10 日［日］
	白雪楼、春蘭荘、松藾亭は５月 19 日［火］まで臨時休館

目次

■目次	■展示事業一覧	2 p
	■沿革	3 － 4 p
	■目次	5 p
■事業カレンダー	■2020（令和２）年度事業カレンダー	6 － 8 p
■特別展事業	■蘭島閣美術館　特別展	10－15p
	■三之瀬御本陣芸術文化館　秋季特別展	16－20p
■展示公開事業	■蘭島閣美術館 所蔵品公開事業	22－33p
	■蘭島閣美術館別館 所蔵品公開事業	34－39p
	■三之瀬御本陣芸術文化館 所蔵品公開事業	40－51p
	■松濤園 陶磁器館 所蔵品公開事業	52－64p
	■松濤園 御馳走一番館 所蔵品公開事業	65－73p
	■通年展示	75－78p
	■公開スペース一覧	79－85p
■その他の公開	■インターネット	88－89p
	■資料貸出	90p
	■画像提供	91p
	■資料閲覧	92p
■普及事業・市民サービス・財団事業	■普及事業　ギャラリートーク・講演会・ワークショップ	94－96p
	■市民サービス	97－98p
	■財団事業	99－102p
■運営データ	■収集・保存・整理	104p
	■協力・広報	105p
	■入館者数	106p
	■関係法規	107－110p
■利用案内	■利用案内	111 － 113p
■奥付	■奥付	114p

2020（令和２）年度 事業カレンダー

月	特別展事業（会場）	蘭島閣美術館	蘭島閣美術館別館	三之瀬御本陣芸術文化館
4	**新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館** **期間：前年度３月９日［月］～2020（令和２）年度５月 10 日［日］** **・白雪楼、春蘭荘、松籟亭は５月 19 日［火］まで臨時休館**			
5		5月 20 日［水］－7月 20 日［月］ 所蔵品展Ⅰ 花ひらく芸術 －院展の作家を中心に－	2月５日［水］－８月 24 日［月］ 所蔵品展Ⅰ 童画の登場 －大正・昭和初期の新メディア－	4月８日［水］－８月３日［月］ 所蔵品展Ⅰ 三岸節子 花より花らしく／ 須田国太郎の見つめた自然
6				
7		7月 22 日［水］－９月７日［月］ 所蔵品展Ⅱ 水の表現－絵画から工芸まで		
8				8月５日［水］－９月 22 日［火･祝］ 所蔵品展Ⅱ 須田国太郎と能 －芸に魅せられた画家たち－
9	9月 12 日［土］－ 11 月 23 日［月･祝］ 特別展 はしもとみお彫刻展 海からはじまる いきものたち （会場：蘭島閣美術館） 9月 26 日［土］－ 11 月９日［月］ 秋季特別展 京都近代日本画 の精華 （会場：三之瀬御本陣 芸術文化館）		8月 26 日［水］－ 12 月 21 日［月］ 所蔵品展Ⅱ 裸婦を描いて －寺内萬治郎の世界－	
10				
11		11 月 27 日［金］－２月１日［月］ 所蔵品展Ⅲ 画家たちのまなざし －広島の画家たちが描いた世界－ ／ふるさとの絶景六選		11 月 12 日［木］－１月 25 日［火］ 所蔵品展Ⅲ 池田栄廣の世界／ 須田国太郎の描く生き物
12			12 月 23 日［水］－５月 10 日［月］ 所蔵品展Ⅲ 寺内萬治郎の歩み（１）	
1				1月 27 日［水］－４月 19 日［月］ 所蔵品展Ⅳ 須田国太郎の黒－ Suda’s black － 画家たちの黒
2		2月３日［水］－４月 12 日［月］ 所蔵品展Ⅳ 旅した画家たちが魅せられた世界		
3				

月	松濤園　陶磁器館	松濤園　御馳走一番館	ギャラリートーク	ワークショップ
4	**新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館** **期間：前年度３月９日［月］～2020（令和２）年度５月 10 日［日］** **・白雪楼、春蘭荘、松藾亭は５月 19 日［火］まで臨時休館**			
5	４月８日［水］－７月 13 日［月］ 所蔵品展Ⅰ 色絵磁器の変遷	４月８日［水］－７月 13 日［月］ 所蔵品展Ⅰ 朝鮮通信使と異文化交流		
6				
7	７月 15 日［水］－９月 28 日［月］ 所蔵品展Ⅱ やきもの動物園	７月 15 日［水］－９月 28 日［月］ 所蔵品展Ⅱ 朝鮮通信使が見た日本		
8				
9				
10	９月 30 日［水］－１月 11 日［月］ 所蔵品展Ⅲ 海を渡った伊万里たち	９月 30 日［水］－１月 11 日［月］ 所蔵品展Ⅲ 朝鮮通信使と船の旅		□10 月 24 日［土］、10 月 25 日［日］ 三之瀬御本陣芸術文化館 ミニ屏風をつくってみよう！
11				
12				
1	１月 13 日［水］－４月５日［月］ 所蔵品展Ⅳ 磁器の魅力 中国磁器から伊万里へ	１月 13 日［水］－４月５日［月］ 所蔵品展Ⅳ 朝鮮通信使と饗応		
2				□２月７日［日］、３月７日［日］ 三之瀬御本陣芸術文化館 ひっかきお絵かき　缶バッジプラス＋
3				

月	講演会	イベント	ギャラリーコンサート	その他・備考
4	**新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館** **期間：前年度３月９日［月］～2020（令和２）年度５月 10 日［日］** **・白雪楼、春蘭荘、松籟亭は５月 19 日［火］まで臨時休館**			
5				
6				
7		□７月 22 日［水］～９月７日［月］ 蘭島閣美術館　美術館ことばあつめ		
8		□８月 26 日［土］～12 月 21 日［日］ 蘭島閣美術館別館　海いろ空いろ絵かき島		
9				
10		□10 月 31 日［土］、11 月１日［日］ 蘭島閣美術館　シルエットクイズ	□10 月 17 日［土］ ベイノロホール（第 238 回）	
11		□11 月 27 日［金］～２月１日［月］ 蘭島閣美術館　クイズラリー	□11 月 21 日［土］ ベイノロホール（第 239 回）	□11 月 20 日［金］ ミニコンサート （会場：蒲刈中学校体育館）
12		□12 月 26 日［土］～５月９日［日］ 蘭島閣美術館別館　島の美術館ピアノ	□12 月 19 日［土］ ベイノロホール（第 240 回）	
1				
2				
3				

特別展

蘭島閣美術館特別展・三之瀬御本陣芸術文化館秋季特別展

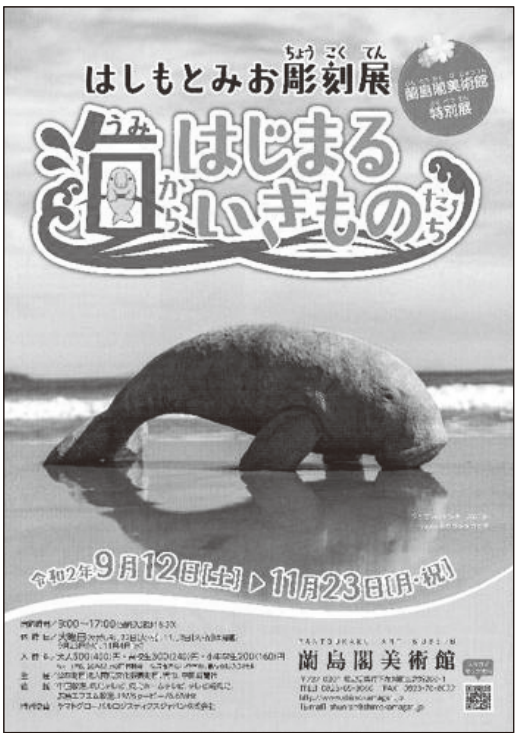
特別展　はしもとみお彫刻展
海からはじまるいきものたち

会期　2020（令和２）年９月 12 日（土）～ 11 月 23 日（月･祝）
会場　蘭島閣美術館
主催　公益財団法人蘭島文化振興財団、呉市、中国新聞社
後援　中国放送、広島テレビ、広島ホームテレビ、テレビ新広島、広島エフエム放送、ＦＭちゅーピー 76.6MHz
特別協賛　ヤマトグローバルロジスティクスジャパン株式会社

関連行事
●シルエットクイズ
2020（令和２）年 10 月 31 日（土）、11 月１日（日）
●来館者 5000 人達成記念セレモニー
2020（令和２）年 11 月７日（土）午後１時 30 分から
●来館者 7500 人達成記念セレモニー
2020（令和２）年 11 月 23 日（月）午後３時から

おもな関連記事、番組など
○「延期の彫刻展９月 12 日から」中国新聞、2020（令和２）年６月 14 日　○「動物の細部木彫で表現　蘭島閣美術館特別展あす開幕」中国新聞、2020（令和２）年９月 11 日　○「呉の蘭島閣美術館で特別展開幕」中国新聞、2020（令和２）年９月 13 日　○「ミュージアムで会いましょう」中国新聞、2020（令和２）年 10 月 11 日　○「はしもとみお彫刻展　海からはじまるいきものたち　上」山下裕子　中国新聞、2020（令和２）年 10 月 21 日　○「はしもとみお彫刻展　海からはじまるいきものたち　中」山下裕子　中国新聞、2020（令和２）年 10 月 22 日　○「はしもとみお彫刻展　海からはじまるいきものたち　下」山下裕子　中国新聞、2020（令和２）年 10 月 23 日　○「ファミリーくれ」11 月号、中国新聞　○「寄稿　呉・蘭島閣美術館で彫刻展」はしもとみお　中国新聞、2020（令和２）年 11 月５日　○「木彫の息吹伝えて 5000 人」中国新聞、2020（令和２）年 11 月８日　○「ギャラリー」読売新聞、2020（令和２）年９月 11 日　○「おでかけ案内版」『リビングひろしま』９月 18 日号、広島リビング新聞社　○「イベント」『ひろしま県民情報』第 758 号、読売新聞　○「ART」『くれえばん』５月号、株式会社 SA メディアラボ　○「ART」『くれえばん』９月号、株式会社 SA メディアラボ　○「今月の展覧会」『月刊 MOE』11 月号、株式会社白泉社　○「アートコーナー」『Wink 広島』11 月号、株式会社アスコン　○「エンタメ navi ！」『TJ Hiroshima』11 月号、株式会社アドプレックス　○「安芸灘だより」2020（令和２）年 10 月号Ｎｏ．204、下蒲刈まちづくりセンター　○「市政だよりくれ」９月号、呉市　○「市政だよりくれ」10 月号、呉市　○「市政だよりくれ」11 月号、呉市　○広町国道 185 号線沿いデジタルサイネージ、株式会社グランド　○JR 呉駅デジタルサイネージ、株式会社明宣社

○「くれワンダーランド Journey」中国放送、2020（令和２）年９月 18 日放送
○「イマナマ！」RCC テレビ、2020（令和２）年 10 月 15 日放送
○「一文字弥太郎の週末ナチュラリスト朝ナマ！」中国放送、2020（令和２）年 10 月 17 日放送



展示風景

展示風景

印刷物
●ポスターＢ２判　700 部
●チラシＡ４判（両面刷り）15,000 部

目的
本展は、木材により親しみを持ってもらうため、はしもとみおを紹介する展覧会として開催した。はしもとみおは、木から新たな命を彫りだす「動物肖像彫刻家」として活躍している。中学生の時、兵庫県尼崎市の自宅で阪神淡路大震災を体験した彼女は「失われた美しかった命の形を残していく、そのような仕事を目指す」ことを決意し、彫刻の道を志すようになった。東京造形大学美術学科彫刻専攻領域に学び、卒業後は愛知県立芸術大学大学院美術研究科彫刻領域で研鑽を重ね、現在は三重県いなべ市の自宅兼アトリエで制作活動をおこなっている。クスノキを削り、彩色を施した動物たちは、それぞれの特徴が巧みに表現されており、彼らの性格や飼い主の愛情までを反映しているかのように生き生きとしている。本展ではこうしたはしもとみおが生み出した動物たちを通して、命の尊さと生きることのすばらしさを来館者に感じ取ってもらう機会になればと企画した。

展示内容
（１）世界中のどうぶつたち大集合
本コーナーでは、チベットヒグマのシュウ（三重県度合郡大紀町の大内山動物園で飼育されている）をモデルに制作された作品をメインに、たくさんの動物彫刻を展示した。チベットヒグマは未確認生物とされているヒマラヤの雪男「イエティ」の正体ともいわれており、体長は 150 センチから 160 センチ、体重は 100 キロから 120 キロもある大型のヒグマである。展示作品もチベットヒグマの実際の大きさに近づけるために複数の木材を組み合わせ、毛の厚みや質感を伝えられるようにカシュ―塗料を何度も塗り重ねて制作された。はしもとみおは、動物たちの肖像彫刻家として、世界のどこかで生きている、あるいは生きていた動物の、個体差や個性を丹念に観察し、その姿を肖像画のように彫刻で再現してきた。本コーナーでは、制作の中で重要な役割を果たすスケッチや道具もあわせて紹介した。

（２）ジュゴンのセレナと海のいきものたち
本展の企画にあたり作家は、当館が海沿いにあることから海をテーマとし、その主役として鳥羽水族館で飼育されているジュゴンをモデルに「ジュゴンのセレナ」を制作した。これまで作家は犬や猫など体表が毛で覆われた哺乳類を数多く創作してきたが、本展では体表がつるっとした印象の海獣や魚の制作に挑戦している。「ジュゴンのセレナ」は 140 センチの大作のため軽量化と亀裂防止のため内刳（うちぐり）が施され、その内部には作家の願いを込めて、胎内仏として小さなジュゴンが納められた。セレナと並ぶ海のいきものとして配した作品「ウミガメのカメキチ」は鳥羽水族館でともに飼育されているウミガメを彫ったものである。この２頭の友情を題材とした絵本があるほどの人気で、本展でも２頭が仲良く見つめあうように配置を工夫した。

（３）相島の猫たちと犬のドンくん
はしもとみおは、2014（平成 26）年から翌年にかけて「猫の島」という愛称で親しまれ猫がたくさん暮らす島、福岡県相島へ取材に出かけた。作家はそこでたくさんの猫と出会い、その記録を自作の野良猫カードに残している。現在カードは 41 枚あり、猫たちと出会った日付や名前、特徴とともにボールペンでその姿を克明に描いている。本コーナーでは、野良猫カードとともにカードをもとにして彫られた猫の連作 15 点を紹介した。猫は等間隔に配置するのではなく、猫たちが過酷な野良猫生活の中で自由を謳歌する一コマを捉えたような展示を心がけた。あわせて愛知県瀬戸市に住む犬の作品「ドン（座る）」を猫の監視役として配置した。顔がもこもことしたドンは足をくずしたリラックスしたポーズで猫たちを見つめており、作家の優しいまなざしが感じられる展示となった。

（４）小さな彫刻たち～日本犬彫刻図鑑を中心に～
本コーナーでは 2019（令和元）年に制作された日本犬彫刻 24 点を中心に紹介した。本作は、特定の地方に生息する固有の犬を作家が調査し、天然記念物に指定されている日本犬以外にも、各地方に数多く生息していた地犬たちを彫刻で復元し蘇らせたシリーズである。本作の中には、現在姿を見ることができない日本犬も多数制作され、各地方の気候に順応し外貌が変化した様子が細やかに表現されていた。展示では、作家が作成した日本犬の生息地を記した地図を設置し、全国の日本犬の小型彫刻を配置し紹介した。

（５）ひだまりの月くんと仲間たち
本コーナーでは、作家が大学生の時に出会いそれ以来ずっと彫刻やスケッチのモデルをこなしてくれた愛犬の「月くん」を中心に、類人猿の連作やマヌルネコなどたくさんの動物彫刻やスケッチを紹介した。月くんは、胸の模様が月に似ていることから名づけられた。彫刻の「月（モデル）」の表面は平のみが使用され、粗めだが躍動感にあふれ、瞳に漆を入れることで、キラキラと輝く目はまるで生きているかのようにこちらを見つめている。モデルが生き生きとしている瞬間を見極め制作された彫刻作品からは、彫刻ではあるが声をかければ今にもこちらに駆け出してきそうな生命の気配が感じられた。

（６）宇宙とクドリャフカ
1957（昭和 32）年 11 月３日、旧ソビエト連邦が打ち上げた宇宙船スプートニク２号に搭乗していたのはクドリャフカという犬だった。はしもとみおは、彫刻「クドリャフカ」の制作にあたり、歴史の中に登場する動物をモデルとした復元彫刻に挑戦している。本コーナーでは、資料を見ながら試行錯誤を繰り返したことがうかがえる試作品やスケッチ等を、あわせて紹介した。試作品のクドリャフカ（彩色前の小型彫刻も含める）７点は、どの作品も宙を見上げるように上向きに作られ、宇宙服も細部まで再現されていた。宇宙をイメージした展示コーナーとするため、照明を暗くし、オーナメントをショーケースの壁面全体に多数展示することで空間を作り、そこに宇宙服を着たクド

リャフカを配置した。地球に帰ることができなかったクドリャフカだが、地上から月を見上げる姿をイメージして制作されたスケッチや彫刻には、生命の輝きを内に湛えているようにその瞳は強く表現されていた。

はしもとみおのこれまでの展示全般では、手で作品に触れ木のぬくもりや感触を体験してもらうことを大切にしてきたが、本展では新型コロナウイルス感染症の影響を考慮して、作品に触れることは中止にした。しかし、会場では制作風景や作品解説の動画を上映し来館者に展覧会を楽しんでもらえるように工夫した。

（山下裕子）

特別展 「はしもとみお彫刻展　海からはじまるいきものたち」 出品リスト

No.	作家名	作品名	制作年	材質技法	寸法（縦×横）㎝	所蔵
（1）世界中のどうぶつたち大集合						
1	はしもとみお	シュウ	2015（平成 27）年	紙・水彩	103.0×72.8	
2	はしもとみお	アンテロープ	2012（平成 24）年	紙・水彩	21.5×29.2	
3	はしもとみお	リクガメ	2012（平成 24）年	紙・水彩	20.0×29.0	
4	はしもとみお	トラ	2012（平成 24）年	紙・水彩	21.5×29.7	
5	はしもとみお	ガゼル	2012（平成 24）年	紙・水彩	13.5×29.0	
6	はしもとみお	ワオキツネザル	2012（平成 24）年	紙・水彩	9.0×15.0	
7	はしもとみお	オオコウモリ	2012（平成 24）年	紙・水彩	13.0×13.5	
8	はしもとみお	ゴリラ	2012（平成 24）年	紙・水彩	21.5×29.5	
9	はしもとみお	ハイエナ	2012（平成 24）年	紙・水彩	21.7×29.2	
10	はしもとみお	ライオン	2012（平成 24）年	紙・水彩	22.0×29.2	
11	はしもとみお	ドリル	2012（平成 24）年	紙・水彩	20.0×29.0	
12	はしもとみお	イノシシ	2012（平成 24）年	紙・水彩	14.5×15.0	
13	はしもとみお	タカ	2012（平成 24）年	紙・水彩	22.0×29.0	
14	はしもとみお	ヒツジ	2012（平成 24）年	紙・水彩	29.2×29.4	
15	はしもとみお	オランウータン	2012（平成 24）年	紙・水彩	20.2×29.5	
16	はしもとみお	カメレオン	2012（平成 24）年	紙・水彩	14.0×14.0	
17	はしもとみお	シカイノシシ	2012（平成 24）年	紙・水彩	14.0×14.5	
18	はしもとみお	ゾウ	2012（平成 24）年	紙・水彩	49.0×65.0	
19	はしもとみお	アイアイ	2012（平成 24）年	紙・水彩	14.0×15.0	
20	はしもとみお	ヒョウ	2012（平成 24）年	紙・水彩	21.5×29.5	
21	はしもとみお	オポッサム	2012（平成 24）年	紙・水彩	7.0×8.0	
22	はしもとみお	ウォーターバック	2012（平成 24）年	紙・水彩	21.2×29.4	
23	はしもとみお	ベローシファカ	2012（平成 24）年	紙・水彩	14.0×15.0	
24	はしもとみお	ブタ	2012（平成 24）年	紙・水彩	23.0×34.0	
25	はしもとみお	チンパンジー	2012（平成 24）年	紙・水彩	29.2×20.0	
26	はしもとみお	ワラビー	2012（平成 24）年	紙・水彩	14.5×13.7	
27	はしもとみお	ヒグマ	2012（平成 24）年	紙・水彩	22.0×29.5	
28	はしもとみお	キツネザル	2012（平成 24）年	紙・水彩	6.0×6.0	
29	はしもとみお	モモンガ	2012（平成 24）年	紙・水彩	13.5×14.2	
30	はしもとみお	ナイルワニ	2012（平成 24）年	紙・水彩	28.5×47.7	
31	はしもとみお	ムササビ	2012（平成 24）年	紙・水彩	8.5×5.5	
32	はしもとみお	マレーバク	2012（平成 24）年	紙・水彩	18.0×43.0	
33	はしもとみお	ロバ	2012（平成 24）年	紙・水彩	29.5×29.2	
34	はしもとみお	グリーンイグアナ	2012（平成 24）年	紙・水彩	14.0×14.0	
35	はしもとみお	ペッカリー	2012（平成 24）年	紙・水彩	14.0×14.4	
36	はしもとみお	インドサイ	2012（平成 24）年	紙・水彩	28.5×47.5	
37	はしもとみお	インドリ	2012（平成 24）年	紙・水彩	14.0×19.5	

38	はしもとみお	ポト	2012（平成 24）年	紙・水彩	6.5×14.0	
39	はしもとみお	ナマケグマ	2012（平成 24）年	紙・水彩	29.0×29.5	
40	はしもとみお	エリマキキツネザル	2012（平成 24）年	紙・水彩	14.0×15.0	
41	はしもとみお	ブタ	2012（平成 24）年	紙・水彩	29.0×29.0	
42	はしもとみお	コビトカバ	2012（平成 24）年	紙・水彩	29.0×29.0	
43	はしもとみお	イノシシ	2012（平成 24）年	紙・水彩	14.5×19.0	
44	はしもとみお	シマウマ	2012（平成 24）年	紙・水彩	29.0×44.0	
45	はしもとみお	オオコウモリ	2012（平成 24）年	紙・水彩	10.0×20.0	
46	はしもとみお	スローロリス	2012（平成 24）年	紙・水彩	6.5×7.8	
47	はしもとみお	タスマニアデビル	2012（平成 24）年	紙・水彩	6.5×7.5	
48	はしもとみお	ウララ	2008（平成 20）年	彫刻	35.0×45.0×15.0	
49	はしもとみお	小彫刻　269 点	制作年不詳	彫刻	269 点	
50	はしもとみお	トノちゃん　3 点	2015（平成 27）年	彫刻	6.5×8.5×6.5 6.5×9.5×6.5 12.5×16.0×9.5	
51	はしもとみお	ツチノコ	2015（平成 27）年	彫刻	5.0×13.0×6.0	
52	はしもとみお	ミーアキャットの音楽隊　5点	2011（平成 23）年	彫刻	各 25.0×20.0×10.0	
53	はしもとみお	ブレーメン／草食編	2012（平成 24）年	彫刻	4.0×16.0×37.0	
54	はしもとみお	ブレーメン／猛獣編	2012（平成 24）年	彫刻	10.0×28.0×40.0	
55	はしもとみお	ネコの小型彫刻　67 点	2018（平成 30）年	彫刻	各 5.0×5.0×5.0	
56	はしもとみお	月のちいさな肖像	2015（平成 27）年	彫刻	8.0×15.0×20.0	
57	はしもとみお	タケシくん（立つ子猫）	2020（令和 2）年	彫刻	35.0×15.0×18.0	
58	はしもとみお	お昼寝タケシくん	2020（令和 2）年	彫刻	65.0×20.0×18.0	
59	はしもとみお	月のマリオネット	2014（平成 26）年	彫刻	6.0×10.0×22.0	
60	はしもとみお	プレーリードッグ　3 点	2018（平成 30）年	彫刻	各 12.0×12.0×10.0	
61	はしもとみお	二代目・月（立ち）	2018（平成 30）年	彫刻	10.0×14.0×25.0	
62	はしもとみお	ブレーメンの音楽隊	2018（平成 30）年	彫刻	18.0×32.0×40.0	
63	はしもとみお	無題	制作年不詳	彫刻	14.0×9.0×6.0	
64	はしもとみお	うずくまるタケシくん	2020（令和２）年	彫刻	50.0×25.0×20.0	
65	はしもとみお	レオン	2003（平成 15）年	彫刻	12.0×15.0×20.0	
66	はしもとみお	カブ	2007（平成 19）年	彫刻	45.0×65.0×80.0	
67	はしもとみお	リンゴ	2009（平成 21）年	彫刻	55.0×60.0×75.0	
68	はしもとみお	ソーヴァ	2010（平成 22）年	彫刻	65.0×40.0×60.0	
69	はしもとみお	シュウ	2018（平成 30）年	彫刻	96.0×110.0×110.0	
70	はしもとみお	チョコ	2010（平成 22）年	彫刻	65.0×40.0×60.0	

（2）ジュゴンのセレナと海のいきものたち

71	はしもとみお	ザトウクジラ	2012（平成 24）年	紙・水彩	91.0×182.0	
72	はしもとみお	海のいきものたち　234 点	2020（令和２）年	彫刻	234 点	
73	はしもとみお	ジュゴンのセレナ	2020（令和２）年	彫刻	140.0×50.0×60.0	
74	はしもとみお	ウミガメのカメキチ	2020（令和２）年	彫刻	20.0×40.0×45.0	
75	はしもとみお	ジュゴンのセレナ	2020（令和２）年	紙・水彩	67.0×88.0	
76	はしもとみお	ウミガメのカメキチ	2020（令和２）年	紙・水彩	59.0×67.0	

（3）相島の猫たちと犬のドンくん

77	はしもとみお	猫⑤	2015（平成 27）年	紙・水彩	35.0×24.2	
78	はしもとみお	猫⑭	2015（平成 27）年	紙・水彩	25.8×20.8	
79	はしもとみお	猫⑬	2015（平成 27）年	紙・水彩	25.7×20.5	
80	はしもとみお	猫③	2015（平成 27）年	紙・水彩	35.1×23.9	
81	はしもとみお	猫②	2015（平成 27）年	紙・水彩	25.0×24.1	
82	はしもとみお	猫⑪	2015（平成 27）年	紙・水彩	35.4×24.1	
83	はしもとみお	猫⑥	2015（平成 27）年	紙・水彩	35.4×24.1	
84	はしもとみお	猫④	2015（平成 27）年	紙・水彩	35.1×24.0	
85	はしもとみお	猫①	2015（平成 27）年	紙・水彩	35.4×24.1	

86	はしもとみお	猫⑫	2015（平成 27）年	紙・水彩	20.2×25.8	
87	はしもとみお	猫⑩	2015（平成 27）年	紙・水彩	20.5×26.0	
88	はしもとみお	猫⑧	2015（平成 27）年	紙・水彩	35.0×34.0	
89	はしもとみお	猫⑦	2015（平成 27）年	紙・水彩	35.3×34.2	
90	はしもとみお	猫⑨	2015（平成 27）年	紙・水彩	26.0×20.3	
91	はしもとみお	ドン（座る）	2006（平成 18）年	彫刻	65.0×45.0×55.0	
92	はしもとみお	コムギ	2016（平成 28）年	彫刻	34.0×47.0×25.0	
93	はしもとみお	ウル	2016（平成 28）年	彫刻	12.0×25.0×25.0	
94	はしもとみお	ニュリ	2015（平成 27）年	彫刻	10.0×18.0×20.0	
95	はしもとみお	チグリス	2016（平成 28）年	彫刻	36.0×46.0×35.0	
96	はしもとみお	ニンニ	2016（平成 28）年	彫刻	57.0×26.0×42.0	
97	はしもとみお	ムニャ	2018（平成 30）年	彫刻	22.0×18.0×25.0	
98	はしもとみお	ユニ	2018（平成 30）年	彫刻	16.0×15.0×23.0	
99	はしもとみお	シナモン	2015（平成 27）年	彫刻	23.0×75.0×35.0	
100	はしもとみお	マガリ	2018（平成 30）年	彫刻	12.0×30.0×30.0	
101	はしもとみお	ぶっち	2015（平成 27）年	彫刻	30.0×20.0×35.0	
102	はしもとみお	ベル	2016（平成 28）年	彫刻	12.0×25.0×25.0	
103	はしもとみお	ボニー親子	2018（平成 30）年	彫刻	20.0×30.0×20.0	
104	はしもとみお	ニュリャ	2015（平成 27）年	彫刻	20.0×12.0×13.0	
105	はしもとみお	銀次	2015（平成 27）年	彫刻	40.0×27.0×35.0	
106	はしもとみお	ミンジ	2016（平成 28）年	彫刻	30.0×25.0×35.0	
107	はしもとみお	野良猫カード　41 点	2014-2015（平成 26-27）年	紙・ペン	各 10.0×15.0	

（4）小さな彫刻たち～日本犬彫刻図鑑を中心に～

108	はしもとみお	犬布団　8 点	2019（平成 31）年	彫刻	9.5×14.5×5.0	
109	はしもとみお	最後の晩餐　ミニ彫刻	2011（平成 23）年	彫刻	45.0×30.0×40.0	
110	はしもとみお	日本犬彫刻図鑑　24 点	2019（平成 31）年	彫刻	各 15.0×15.0	
111	はしもとみお	猫布団　10 点	2018（平成 30）年	彫刻	7.5×18.0×5.5	
112	はしもとみお	オーナメント（黒柴）	2018（平成 30）年	彫刻	30.0×30.0	

（5）ひだまりの月くんと仲間たち

113	はしもとみお	二代目月くんタッチ	2018（平成 30）年	彫刻	30.0×45.0×60.0	
114	はしもとみお	オーナメント（黒柴）	2018（平成 30）年	彫刻	30.0×30.0	
115	はしもとみお	子ザル	2015（平成 27）年	紙・水彩	35.7×22.2	
116	はしもとみお	ミーアキャット	2015（平成 27）年	紙・水彩	30.5×39.0	
117	はしもとみお	大木	2015（平成 27）年	紙・水彩	36.4×26.4	
118	はしもとみお	テングザル	2015（平成 27）年	紙・水彩	37.6×45.2	
119	はしもとみお	ラマ	2015（平成 27）年	紙・水彩	30.5×39.6	
120	はしもとみお	犬	2015（平成 27）年	紙・水彩	45.1×37.5	
121	はしもとみお	マンドリル	2015（平成 27）年	紙・水彩	50.2×35.0	
122	はしもとみお	オランウータン	2015（平成 27）年	紙・水彩	37.5×45.0	
123	はしもとみお	犬	2015（平成 27）年	紙・水彩	28.5×40.7	
124	はしもとみお	黒豹	2015（平成 27）年	紙・水彩	30.6×24.7	
125	はしもとみお	ブタ	2015（平成 27）年	紙・水彩	19.5×29.0	
126	はしもとみお	天狗猿と木	2011（平成 23）年	紙・水彩	72.5×102.5	
127	はしもとみお	マンジュウロウ	2013（平成 25）年	彫刻	70.0×55.0×65.0	
128	はしもとみお	マックス親子	2012（平成 24）年	彫刻	55.0×55.0×65.0	
129	はしもとみお	キュー	2013（平成 25）年	彫刻	115.0×40.0×70.0	
130	はしもとみお	ビージー	2009（平成 21）年	彫刻	60.0×55.0×65.0	
131	はしもとみお	ももちゃん眠る	2018（平成 30）年	彫刻	20.0×10.0×15.0	
132	はしもとみお	二代目月くん眠る	2018（平成 30）年	彫刻	20.0×10.0×15.0	
133	はしもとみお	マヌルネコレフくん	2018（平成 30）年	彫刻	40.0×40.0×15.0	
134	はしもとみお	シバ	2012（平成 24）年	彫刻	38.0×55.0×60.0	
135	はしもとみお	月（立ち）	2012（平成 24）年	彫刻	50.0×45.0×60.0	

136	はしもとみお	月（おすわり）	2007（平成 19）年	彫刻	40.0×55.0×60.0	
137	はしもとみお	ヴェル	2008（平成 20）年	彫刻	50.0×60.0×68.0	
138	はしもとみお	月（モデル）	2016（平成 28）年	彫刻	55.0×45.0×70.0	
139	はしもとみお	ココ・コロ	2015（平成 27）年	彫刻	37.0×35.0×15.0	
140	はしもとみお	二代目・月	2018（平成 30）年	彫刻	15.0×25.0×20.0	
141	はしもとみお	マコ	2014（平成 26）年	彫刻	13.0×30.0×25.0	

（6）宇宙とクドリャフカ

142	はしもとみお	クドリャフカ	2019（平成 31）年	彫刻	30.0×71.0×62.0	
143	はしもとみお	月のオーナメント	2018（平成 30）年	彫刻	30.0×10.0×30.0	
144	はしもとみお	ボン親子	2018（平成 30）年	彫刻	15.0×15.0	
145	はしもとみお	アキ親子	2018（平成 30）年	彫刻	15.0×15.0	
146	はしもとみお	ルル　ぶっち	2018（平成 30）年	彫刻	15.0×15.0	
147	はしもとみお	ニンニ親子	2018（平成 30）年	彫刻	15.0×15.0	
148	はしもとみお	オーナメント（黒柴）	2018（平成 30）年	彫刻	15.0×15.0	
149	はしもとみお	オーナメント（茶柴）	2018（平成 30）年	彫刻	15.0×15.0	
150	はしもとみお	オーナメント（黒柴）	2018（平成 30）年	彫刻	15.0×15.0	
151	はしもとみお	オーナメント（黒柴子犬）	2018（平成 30）年	彫刻	15.0×15.0	
152	はしもとみお	月のオーナメント彫刻　42 点	2018（平成 30）年	彫刻	6.0×6.0×4.0	
153	はしもとみお	クドリャフカ（試作 1）	2019（平成 31）年	彫刻	7.5×16.0×16.0	
154	はしもとみお	クドリャフカ（試作 2）	2019（平成 31）年	彫刻	8.5×19.0×16.0	
155	はしもとみお	クドリャフカ（試作 3）	2019（平成 31）年	彫刻	5.5×13.0×11.0	
156	はしもとみお	クドリャフカ（試作 4）	2019（平成 31）年	彫刻	5.5×12.5×11.0	
157	はしもとみお	クドリャフカ（試作 5）	2019（平成 31）年	彫刻	5.5×15.5×13.0	
158	はしもとみお	クドリャフカ（試作 6）	2019（平成 31）年	彫刻	5.5×9.5×11.0	
159	はしもとみお	クドリャフカ（試作、塗りなし）	2019（平成 31）年	彫刻	10.5×20.0×16.0	
160	はしもとみお	クドリャフカ	2019（平成 31）年	紙・水彩	14.3×12.0	
161	はしもとみお	クドリャフカ	2019（平成 31）年	紙・水彩	21.8×13.7	
162	はしもとみお	クドリャフカ	2019（平成 31）年	紙・水彩	16.4×12.5	
163	はしもとみお	クドリャフカ	2019（平成 31）年	紙・水彩	21.8×13.7	
164	はしもとみお	クドリャフカ	2019（平成 31）年	紙・水彩	22.4×23.7	
165	はしもとみお	クドリャフカ	2019（平成 31）年	紙・水彩	21.7×13.9	
166	はしもとみお	クドリャフカ	2019（平成 31）年	紙・水彩	21.7×13.7	
167	はしもとみお	クドリャフカ	2019（平成 31）年	紙・水彩	25.0×21.0	
168	はしもとみお	クドリャフカ	2019（平成 31）年	紙・水彩	21.8×13.9	
169	はしもとみお	クドリャフカ	2019（平成 31）年	紙・水彩	72.0×46.0	
170	はしもとみお	クドリャフカ	2019（平成 31）年	紙・水彩	60.0×90.0	
171	はしもとみお	クドリャフカ	2019（平成 31）年	紙・水彩	54.0×73.9	

秋季特別展　京都近代日本画の精華

会期　2020（令和２）年９月 26 日（土）～ 11 月９日（月）
会場　三之瀬御本陣芸術文化館
主催　公益財団法人蘭島文化振興財団、呉市、中国新聞社
後援　NHK 広島放送局、中国放送、広島テレビ、広島ホームテレビ、テレビ新広島、広島エフエム放送、FM ちゅーピー 76.6MHz

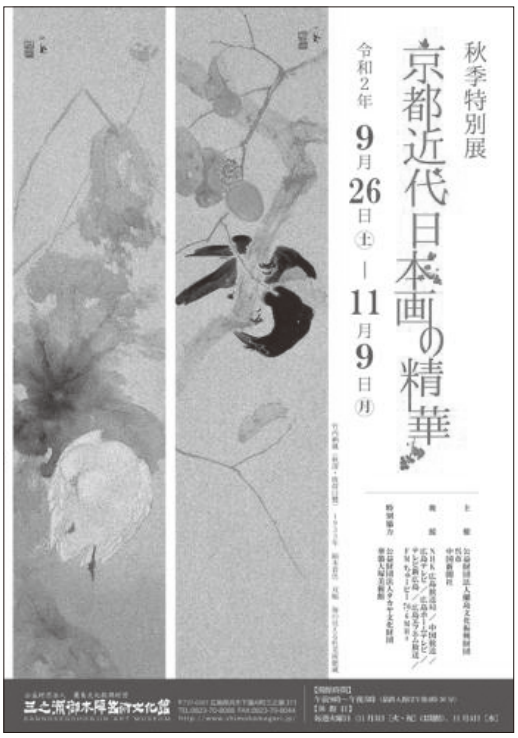
関連行事
●ワークショップ
「ミニ屏風をつくってみよう！」
2020（令和２）年 10 月 24 日（土）、10 月 25 日（日）
午前 10 時から 12 時まで／午後１時から３時まで
（各日８回）
定員：予約制、各回上限２名まで
場所：三之瀬御本陣芸術文化館

おもな関連記事、番組等
○「近代日本の先駆け」中国新聞、2020（令和２）年９月 27 日　○「京都画壇切り開いた 45 点」中国新聞、2020（令和２）年 10 月２日　○「新たな日本画表現　探求」中国新聞、2020（令和２）年 10 月 24 日　○「ART」『くれえばん』10 月号、株式会社 SA メディアラボ　○「ミュージアムで会いましょう 2020」中国新聞、2020（令和２）年 10 月 11 日　○「市政だより くれ」10 月号、呉市　○「市政だより くれ」11 月号、呉市○「安芸灘だより」10 月号 No.204 /11 月号 No.205、下蒲刈まちづくり市民センター　○広町国道 185 号線沿いデジタルサイネージ、株式会社グランド　○JR 呉駅デジタルサイネージ、株式会社明宣社

○「くれワンダーランド Journey」中国放送、2020（令和２）年９月 25 日放送

印刷物
●ポスター B２判（片面刷り）800 部
●チラシ 仕上がり A４判二つ折り（両面刷り）　32,000 部
●出品目録 A４判（両面刷り）

目的
本展では、京都で円山・四条派の系譜を受け継ぎながら明治以降、近代の新しい日本画のあり方を模索し、展開させていった画家たちの作品を紹介した。
円山・四条派とは、京都で江戸時代中期に興った画派で、円山応挙が開いた円山派と呉春（松村月溪）が開いた四条派の総称である。この流れは明治時代の京都画壇へと続き、四条派の竹内栖鳳や円山派の森寛斎、山元春挙などを中心に諸派が独自の近代化を進めていくのである。
明治初期は西洋から入ってきた洋画をはじめ、新しい考え方の導入と研究への気運が高まる傍ら、狩野派、琳派、水墨画や文人画など、東洋の影響を受けながら、古より日本で展開してきた多様な画派の絵画が共存していた。西洋を参考に近代化を図ろうとする日本政府に雇用されていた美術研究家のフェノロサは、逆に西洋風への急速な美術教育推進化を危惧し、これらの日本伝統の諸派全般を「西洋



展示風景

展示風景

に対置するものとして「日本画」と述べ、その優位性を説いた。これを契機に「日本画」という言葉、概念が胎動し、定着していったと言われている。

京都では、ほとんどの日本画家が著名画家の私塾に入門し師弟関係の中で学んだ。一方で近代化を背景に、1880（明治 13）年には、京都府画学校（現・京都市立芸術大学）が創設され、新しい学びの場を整える。古くからの師弟制度と、近代的な美術学校という新しい制度を、柔軟にいち早く導入した土壌は、近代日本画を代表する多くの画家を育てていった。彼らはライバルでありながら、同志として結束を深めていくのである。

京都画壇の中心的存在であった竹内栖鳳は、西洋の考え方も積極的に受け入れ、自身の私塾である竹杖会や教壇に立った京都市立絵画専門学校（京都府画学校の後身）で村上華岳、土田麦僊、小野竹喬、榊原紫峰や入江波光ら近代日本画を代表する多くの画家を育てた。弟子である次世代の彼らが中心となって国画創作協会が発足。海外渡航をする者、西洋の絵画やその潮流について興味を抱く者などそれぞれの環境や経験から、彼らは日本絵画の伝統に裏付けられた新しい表現を開花させていくのである。

京都近代日本画の名品を多く所蔵する華鴎大塚美術館の協力のもと、明治期からの近代化に伴う激動の時代に、切磋琢磨しながら独自の表現により京都画壇を切り開き、確固たるものとしていった 14 名の画家たちを 42 点の作品で辿った。

展示内容

（1）円山・四条派の系譜

本コーナーでは、近代京都画壇に大きな影響を与えた竹内栖鳳や、四条派の祖である呉春、円山派で活躍した森徹山と森寛斎、そして寛斎を師とした山元春挙の作品を紹介した。

円山・四条派とは、18 世紀の京都に興った画派で、円山応挙を祖とする円山派と、呉春を祖とする四条派を合わせた呼び名である。18 世紀中頃、それまでの伝統的画派は形式化に陥るなど、停滞を見せていた。そこで、新しい画風を興そうとする動きがあらわれ、円山派が登場する。円山派は、写生的表現と余白の余情的空間構成の融合を目指した。当時は描かれたものが本物らしく見えることは斬新で、教養がなくとも理解ができる、万人を魅了する美しさで人気を博したのである。始めに、解説パネルとして系譜図を展示し、時代順に辿った。

《呉春》

円山派の応挙に師事し、影響を受けたのが呉春である。応挙に学ぶ前は俳諧や文人画を学んでおり、これに応挙の写生表現を織り込んだ独自の画風を作り上げた。本コーナーでは海の松と遠く広がる海に帆船の浮かぶ様子が墨で描かれた、風炉先屏風から紹介した。

《森派》

応挙に学び、応挙十哲のひとりとなった森徹山とその弟子で徹山の養子になった森寛斎の作品を紹介した。彼らはおもに円山派の普及に貢献し、後に森派と称された。動物画で名を馳せた森徹山。「狸獲鴨之図」では、狸が鴨を捕らえて口に咥えている姿が描かれ、自然界の生々しい姿が美しく墨画淡彩で表現されている。狸を飼って、その写生に励んだとされる視点と腕前が見て取れる。風景画を得意とした森寛斎は 2 点紹介。「春秋図」は、長岡の春、若王子の夏、嵐山の秋、比叡山の冬といった京都の名所が二曲一双に描かれている。四季の情感が墨と彩色、金箔の砂子で優雅に表現されている。寛斎は、後に近代日本画の逸材を輩出することになる、京都府画学校の創設に伴って、1880（明治 13）年に出仕し、後進の育成に尽力した。

《山元春挙》

森寛斎に師事した山元春挙は、竹内栖鳳と並んで近代京都画壇を代表する画家である。初期は師に似た作品を多く描き、後年は色鮮やかで、西洋画風を意識した作品に取り組んだ。透明感のある水の表現や、寒々しい雪の表現に定評があり、風景画を得意とした。本コーナーでは、得意としたこれらの作風の清涼感に満ちた「清流香魚図」や、ずっしりとした雪の重みと静けさを感じる「雪松図」を紹介。また春挙は、油絵の陰影法を応用したバラの作品でも知られ、コウシンバラを描いたと思われる「長春之図」も紹介した。

《竹内栖鳳》

13 歳で四条派の土田英林の門を叩き、18 歳で同派の中心的存在であった幸野楳嶺に師事し、「楳嶺四天王」の一人となった竹内栖鳳。日本の古画研究を続けながらも、36 歳の初渡欧では、西洋の文化に触発される。今後の日本画がどうあるべきかを模索し、東西両洋の融合を試みた。「城址」では日本で古くから使われてきた材料である墨の濃淡やぼかしを用いて、日本の風土や歴史に根付いた城址の濠や石垣、木々が湿度に満ちた大気の中に描かれている。日本的でありながら、ターナーやコローの構図や表現を彷彿とさせる作品で、彼らの表現に関心を抱いた画家の東西融合の試みが見られる。「秋深・敗荷白鷺」は双幅の作品で、左幅には敗荷と眠る白鷺、右幅にはたわわに実る柿と烏が描かれている。本作は左右で多くの対比が見られる。静と動、衰退と繁栄、白と黒、蓮葉の青と柿の赤などである。晩夏から深秋への移り変わりを見事に表現している。竹内栖鳳は、四条派が基調とした写生をもとに西洋画風を取り込むなど、新鮮な近代日本画の模範となる作品を発表し、京都画壇をけん引し続けた画家である。その画風は次第に簡略化し、筆数を省いて対象の本質を捉える「省筆」の技法に変化していった。その省筆と余白の卓越した画面構成の「喜雀」「雙鶏」を紹介した。

広く柔軟な視野で物事を捉えた栖鳳。その画塾 “竹杖会” の門下からは、新しい考え方を持った、近代京都画壇で活躍する多くの画家たちが育っていった。

（2）次世代の新進画家たち 1
　　ー竹杖会に学んだ国画創作協会の創設者たち

本コーナーでは、竹内栖鳳の私塾である竹杖会に弟子

入りし、新進気鋭の画家として活躍した村上華岳、榊原紫峰、入江波光、土田麦僊や小野竹喬らの作品を紹介した。

彼らに野長瀬晩花を含めた６名は、1918（大正７）年、国画創作協会を創立。30歳前後の新進画家であった彼らは、既存の日本画壇の価値観に不満を抱き、個性の尊重と創作の自由を目指した。この発会は世間を驚かせ、京都画壇の革新者として注目を集めた。

当時、社会的な権威を持った文部省主催の文展で、1916（大正５）年に小野竹喬は特選を受ける。しかし翌年には、落選の扱いを受けた。また、竹喬と学校の同期で、西洋の後期印象派に傾倒し新しい表現を目指していた村上華岳が共に落選の扱いを受ける。こうした選考のあり方が、文展への不信感を強め、国画創作協会の結成への動機となっていった。

文展を離れ、新会を結成するにあたり、文展の京都側の中心作家であった師、竹内栖鳳に背くことになると考えた彼らは、了解を得るために栖鳳を訪ねる。予想外に師は理解を示し、これが若い作家に勇気を与え、栖鳳は国画創作協会の顧問として名を連ねることになったのである。

この創設者５名はいずれも、1909（明治 42）年に開校した京都市立絵画専門学校の第１回生である。この学校は、1907（明治 40）年に設立された文展や、東京画壇の動向に対抗する、新しい芸術家の養成機関が京都でも望まれたことから生まれた学校であった。京都ではこの頃から新時代の芸術としての日本画を求めるさまざまな動きが芽吹き、勢いづいていったのである。

《村上華岳》

若い頃、滞欧経験をした村上華岳は、日本の古典をはじめ、インド美術やルネサンス絵画などにも興味を抱いた。法隆寺やアジャンタ壁画などの仏教美術やイタリア中世のジョットの宗教画から影響を受け、官能と霊とが混在した象徴的な理想画を求めた。独特の筆線、墨のにじみを用いた精神性の高い作品を多く制作し、本展出品の「釈迦仏」に見られるような、繊細でありながらどこか官能的な華岳特有の仏画を生み出した。本コーナーでは仏画とは異なる墨の使い方を見せ、力強く刷毛描きで描かれた「虎の図」も合わせて紹介した。

《榊原紫峰》

榊原紫峰は西洋画風の質感表現に見られるような、写実的で確かな形態描写の作品を多く残した。ここでは動物の本質を内面的に深く見つめ、西洋の陰影法を用いた「獅子図」を紹介。同じ肉食動物を主題とした華岳の「虎の図」と並べ、同世代でありながらその表現の相違が見て取れるように展示。さらに、生涯にわたり花鳥画を描き続けたことで知られる紫峰の「白菊」を紹介した。

《入江波光》

国画創作協会の創立に参加するも、解散後は画業の多くを古画の模写や研究にあたった入江波光。卓越した描写力を持ち、透明感のある作品を残した。本コーナーでは、鉤勒法（こうろくほう）により丁寧な描線と彩色で葡萄を描き、ぼかしと毛描きで栗鼠の柔らかさと愛らしさを表現した「葡萄に栗鼠」、模写で培った墨のさまざまな技法で丁寧に描かれた「松に鷹」を紹介した。

《土田麦僊》

四条派が得意とした余白の美しさを利用した、品のある構図の「竹雀図」（四曲一隻）など２点を紹介。夏から秋にかけて変化する笹の色を、金泥を使ってうまく捉え、無数の雀がさまざまな表情や仕草で描かれた愛らしい作品である。師匠であった竹内栖鳳の「喜雀」とは異なる、雀の表現を取り上げた。

《小野竹喬》

14 歳頃、竹杖会に入門した小野竹喬。彼は、それまでの日本の絵画と新しい西洋的感覚の融合を模索した師、栖鳳の姿勢に影響を受ける。そして、後期印象派風の鮮やかな色彩を用い、日本の四季折々の風景を描いた。32 歳でフランス、イタリアなどヨーロッパを巡遊。帰国後は、雅号を竹橋から竹喬と改め、南画や狩野派など幅広い研究を進め、光や季節のうつろいを感じる日本の自然の美しさを描き続けた。本コーナーでは、西洋絵画への関心が強く見られた“竹橋”の雅号を用いた初期の作品「春日野」の他、墨一色で描かれた「松山雲煙」など５点の作品を紹介した。

（３）次世代の新進画家たち２
　　ー竹杖会に学んだ文展で活躍した画家たち

文展をはじめとする、日本画壇の価値観や概念に不満を抱き、それを打ち破ろうとした、革新的な国画創作協会の画家たちの他に、竹杖会では、彼らが批判した文展で着実に力をつけていった画家たちも多く輩出した。本コーナーでは文展や帝展の花形として活躍した、橋本関雪や池田遙邨、金島桂華らの作品を紹介し、最後に、新時代を担った上村松篁の作品を紹介した。

《橋本関雪》

幼少より、儒学者であった父の影響から、漢学に親しんでいた橋本関雪。南画をはじめ、中国や日本の歴史や文学に多く取材した人物を描いた。四条派を基礎としながら、古今東西の表現を研究し、独自の画風を展開。中国で古くから伝わる伝説を描いた「琴高騎鯉図」や「羅浮僊図」など３点を紹介した。

《池田遙邨》

始め洋画を学んだ池田遙邨は、18 歳で日本画に興味を持ち、24 歳で竹内栖鳳の竹杖会に入門した。洋画の視点や構図で、これまでの日本画にない新しい風景画を開拓した。本コーナーでは 50 代から 90 代にかけて制作された作品６点を紹介。単純化した画面構成の「春日参道の雪」や、鳥瞰的に描いた「備後鞆ノ浦」など、遙邨独自に追求した東西混在の視点と表現を辿った。

《金島桂華》

金島桂華は初期、四条派に宋元画を取り入れた、緻密でありながら重厚感のある花鳥画を得意とした。本コーナーでは、初期の「梅の雪」や「蓮池」を紹介。戦後は、鮮やかで軽妙さを持つ構図でありながら量感のある、現代的感覚の作品を制作。「猫」や「古壷椿」など５点を紹介した。

《上村松篁》

上村松園の長男である上村松篁。竹内栖鳳の門下として名を馳せた西山翠嶂に師事し、また京都市立絵画専門学校に学んだ。文展の後身である帝展や日展で活躍を見せる傍ら、池田遙邨らと水明会を結成するなど、幅広い活動を見せた。後に、日展を脱退して創造美術（現・創画会）を結成し、官展にも塾にも依らない日本画の新しいあり方を展開する。円山・四条派の写生を基調としながら、近代的な構成で新しい花鳥画を得意とした松篁の「扶桑花」など２点を紹介した。

彼らは皆、独特の感性で、四条派の伝統に根ざした革新を目指し、近代の日本画壇に黄金時代をもたらした。

本展では、屏風や軸装から額装へと変化した、鑑賞と表装のあり方も含めた日本画の近代化の歩みが感じられる展示構成とした。

（湯浅ひろみ）

秋季特別展 「京都近代日本画の精華」 出品リスト　　＊無表記は財団所蔵

No.	作家名	作品名	制作年	材質技法／形状	寸法（縦×横）㎝	所蔵
（1）円山・四条派の系譜 －呉春、森派、山元春挙、竹内栖鳳						
1	呉春	風炉先屏風	制作年不詳	紙本墨画淡彩／二曲一隻	44.0×169.3	個人蔵
2	森徹山	狸獲鴨之図	制作年不詳	絹本墨画淡彩／軸装	110.1×50.8	
3	森寛斎	雨中漁船図	制作年不詳	絹本墨画淡彩／軸装	101.6×35.8	
4	森寛斎	春秋図	1872（明治５）年	絹本彩色／二曲一双	各 151.9×169.2	
5	竹内栖鳳	城址	1924（大正 13）年	紙本墨画淡彩／軸装	80.6×94.2	広島県立美術館
6	竹内栖鳳	秋深・敗荷白鷺	1933（昭和８）年	絹本彩色／軸装・双幅	各 128.1×28.8	海の見える杜美術館
7	竹内栖鳳	喜雀	制作年不詳	紙本彩色／軸装	124.1×30.7	ひろしま美術館
8	竹内栖鳳	雙鶏	1941（昭和 16）年頃	紙本彩色／額装	70.3×82.0	
9	山元春挙	清流香魚図	1930（昭和５）年頃	絹本彩色／軸装	142.0×51.5	華鴎大塚美術館
10	山元春挙	雪松図	制作年不詳	絹本彩色／軸装	121.5×42.5	華鴎大塚美術館
11	山元春挙	長春之図	制作年不詳	絹本彩色／軸装	134.5×49.8	華鴎大塚美術館
（2）次世代の新進画家たち１－竹杖会に学んだ国画創作協会創設者たち						
12	村上華岳	釈迦仏	制作年不詳	絹本彩色／軸装	41.6×50.0	ひろしま美術館
13	村上華岳	虎の図	制作年不詳	紙本彩色／軸装	128.4×30.3	
14	榊原紫峰	獅子図	1923（大正 12）年頃	絹本彩色／軸装	51.0×45.0	海の見える杜美術館
15	榊原紫峰	白菊	1928（昭和３）年	絹本彩色／額装	46.0×57.0	
16	入江波光	葡萄に栗鼠	1909（明治 42）年頃	絹本彩色／軸装	99.1×35.5	華鴎大塚美術館
17	入江波光	松に鷹	制作年不詳	絹本墨画／軸装	143.0×51.0	ひろしま美術館
18	土田麦僊	竹雀図	制作年不詳	紙本彩色／四曲一隻	169.5×332.8	ひろしま美術館
19	土田麦僊	藤の花	制作年不詳	絹本彩色／軸装	37.8×47.3	華鴎大塚美術館
20	小野竹喬	春景	制作年不詳	紙本彩色／額装	27.0×41.2	
21	小野竹喬	山辺の春	1945（昭和 20）年頃	絹本彩色／額装	38.7×50.7	
22	小野竹喬	湖畔の冬	1921（大正 10）年頃	絹本彩色／軸装	127.2×26.8	華鴎大塚美術館
23	小野竹喬	松山雲煙	1930（昭和５）年頃	絹本墨画／額装	40.0×49.5	華鴎大塚美術館
24	小野竹喬	春日野	1922（大正 11）年頃	絹本彩色／額装	170.0×170.0	
（3）次世代の新進画家たち２－竹杖会に学んだ文展で活躍した画家たち						
25	橋本関雪	羅浮僊図	1916（大正５）年頃	絹本彩色／軸装	158.0×56.2	華鴎大塚美術館
26	橋本関雪	琴高騎鯉図	1925（大正 14）年	絹本彩色／軸装	165.0×71.3	華鴎大塚美術館
27	橋本関雪	ふくろう	1935（昭和 10）年頃	絹本彩色／額装	49.0×58.2	
28	池田遙邨	春日参道の雪	1983（昭和 58）年	紙本彩色／額装	63.2×88.6	華鴎大塚美術館
29	池田遙邨	祇園夜桜	1965（昭和 40）年頃	絹本彩色／軸装	39.3×50.4	華鴎大塚美術館

榊原紫峰の漢字表記は、2006（平成 18 年）発行『蘭島閣美術館所蔵品目録』では榊原と表記されているがこれを訂正し、榊原紫峰と表記する。

30	池田遙邨	備後鞆ノ浦	1947（昭和 22）年頃	絹本彩色／軸装	44.6×51.0	華鴎大塚美術
31	池田遙邨	川奈の富士	1955（昭和 30）年頃	紙本彩色／額装	41.2×53.4	
32	池田遙邨	嵐山渡月橋	1985（昭和 60）年頃	紙本彩色／額装	50.0×65.9	
33	池田遙邨	近江八景	制作年不詳	絹本彩色／額装	51.0×58.5	
34	金島桂華	梅の雪	1921（大正 10）年	絹本彩色／軸装	195.2×87.0	華鴎大塚美術館
35	金島桂華	蓮池	1926（大正 15）年	絹本彩色／四曲一隻	200.0×352.0	華鴎大塚美術館
36	金島桂華	鶴	制作年不詳	紙本彩色／額装	85.7×119.1	
37	金島桂華	あけび	1963（昭和 38）年	紙本彩色／額装	23.2×28.0	華鴎大塚美術館
38	金島桂華	紅落葉	1965（昭和 40）年頃	紙本彩色／額装	33.0×36.2	華鴎大塚美術館
39	金島桂華	古壷椿	1953（昭和 28）年	紙本彩色／額装	73.0×50.5	華鴎大塚美術館
40	金島桂華	猫	1971（昭和 46）年	紙本彩色／額装	49.4×60.5	華鴎大塚美術館
41	上村松篁	ウォーターヒヤシンス	制作年不詳	紙本彩色／額装	42.0×59.2	華鴎大塚美術館
42	上村松篁	扶桑花	1983（昭和 58）年頃	紙本彩色／額装	70.5×51.5	華鴎大塚美術館

展示公開事業

所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧

所蔵品展Ⅰ　花ひらく芸術ー院展の作家を中心にー

会期　2020（令和２）年５月 20 日（水）～７月 20 日（月）
＊2020（令和２）年３月９日（月）から５月 10 日（日）まで、新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館
会場　蘭島閣美術館

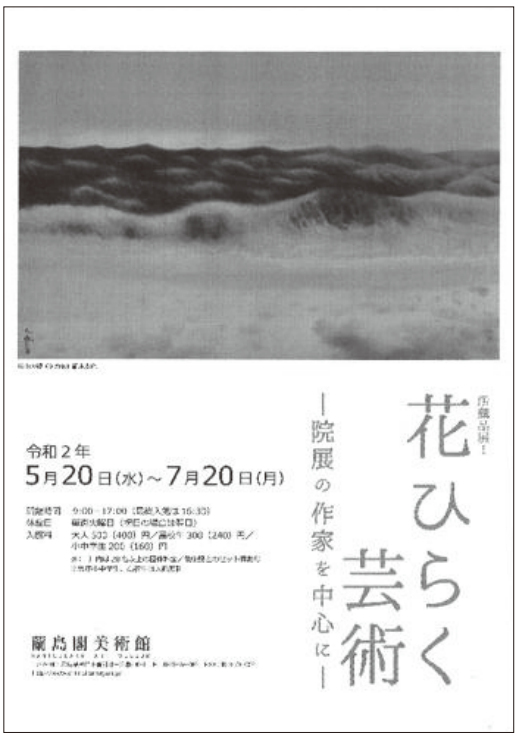
おもな関連記事、番組など
〇「市政だより くれ」６月号、呉市　〇「市政だより くれ」７月号、呉市

印刷物
●チラシ A４判（両面刷り）5,000 部
●出品目録 A４判（両面刷り）

目的
日本美術院は、1898（明治 31）年、岡倉天心が横山大観、下村観山らと創設した研究団体である。その目的は、新時代における日本美術の維持と開発であった。天心死去の翌年、「芸術とは自由と個性に基づくものだ」という天心の精神を引き継いだ横山大観が中心となって日本美術院を再興した。1914（大正３）年、再興された日本美術院には日本画部の他に洋画部と彫刻部（のちに２部とも解散）も加わった。現在は、日本美術院展覧会（通称、院展）として日本画の公募展覧会を主催運営しており、多くの作家たちが作品発表をおこなっている。本展では、所蔵品の中から、院展の創設に携わった作家から再興日本美術院を支えた作家、そして現在の院展で活躍する作家までを一堂に展示した。

展示内容
（１）日本美術院の変遷
平櫛田中の木彫「釣隠」は、茨城県の五浦海岸で釣りをする岡倉天心の姿を像にした「五浦釣人」をもとに作られたと思われる作品である。田中は、天心が結成した日本彫刻会に参加。同会の第１回展に出品した作品が天心に認められ、以降天心を生涯畏敬し制作の精神的支柱としていた。その後田中は横山大観の意向を受け、再興院展に参加することとなる。田中が敬愛の念を込めて制作した天心像を最初に展示し、日本美術院の創設に携わった大観や下村観山の作品へつなげた。そして再興院展を支えた作家、洋画部に参加していた作家たちの作品を展示し、再興院展に洋画部が参加した経緯を説明した。さらに、再興院展を支えた安田靫彦らの弟子にあたる片岡球子や岩橋英遠などの作品も展示し、日本美術院の変遷を辿った。

（２）小倉遊亀が描いた静物画
遊亀は、好きな古陶磁と花や果物の静物画を多く描いた。金箔や赤などを用いた背景に、花や陶器の彩色に使われている胡粉のすっきりとした白が美しく映えている。本コーナーでは、遊亀が身近な親しみのあるものたちを題材とした作品を、日本画と版画あわせて６点展示。作家があたたかなまなざしで描いた椿や菖蒲から、季節を感じられる展示にした。



展示風景

展示風景

（3）重鎮として活躍する院展作家

下田義寛がシルクスクリーンの技法を応用して動物を幻想的に描いた「風渡る」や、繊細な描線技法を得意とし、日本の風景をテーマにした作品を制作した田渕俊夫が、愛知県立芸術大学に勤めていた頃に愛知県長久手市の叙情溢れる風景を描いた「歴」などを展示。作家たちは、日本画の伝統を受け継ぎながらも、そこにとどまることなくさまざまな技法やモチーフを模索している。本コーナーでは、重鎮として日本芸術院を支えた作家たちが独自の世界を表現した作品を紹介した。

（4）広島にゆかりのある院展作家

院展の理事長を務めた平山郁夫は、1962（昭和 37）年第１回ユネスコ・フェローシップとして６か月間ヨーロッパに留学。その研究題目は「東西宗教美術の比較」であった。「アッシジの丘」に描かれているイタリア・アッシジは、聖フランチェスコの出生地であり関連する遺跡も多く残っている。そのため、本作はこの留学の際に取材して描かれた作品と思われる。また、奥村土牛に師事した塩出英雄は1989（平成元）年に院展の理事長代理となって、当時理事長を務めていた晩年の土牛を支えた。西田俊英は塩出英雄に師事し、2000（平成 12）年から広島市立大学芸術学部教授となった。現在は同校の名誉教授となり、日本美術院の理事も務めている。本コーナーでは、塩出英雄が描いた清楚で明澄な風景画２点と、幻想的な空気感の中に描かれた西田俊英の「泰山木」も展示。院展を支え、広島にもゆかりのある３人の作品を紹介した。

（木口詩織）

蘭島閣美術館　所蔵品展Ⅰ　「花ひらく芸術ー院展の作家を中心にー」　出品リスト　　＊無表記は財団所蔵

No.	作家名	作品名	制作年	材質技法	形状	寸法（縦 × 横）cm	所蔵
（1）日本美術院の変遷							
1	平櫛田中	釣隠	1944（昭和 19）年	木彫		80.0×17.2×15.3	
2	川合玉堂	松山遠嶺	1917-18（大正６-７）年頃	絹本・墨彩	額装	57.0×148.0	
3	下村観山	不動明王	制作年不詳	絹本彩色	額装	89.8×50.8	
4	安田靫彦	稔り	1918（大正７）年	絹本彩色	額装	65.0×123.1	
5	安田靫彦	薔薇瓶	制作年不詳	紙本彩色	額装	53.5×40.5	
6	安田靫彦	女楽偶人	1959（昭和 34）年	紙本彩色	額装	61.0×47.5	
7	横山大観	冬の海	1907（明治 40）年頃	絹本彩色	額装	49.0×76.0	
8	横山大観	神国日本	1926-29（昭和元 - ４）年頃	絹本彩色	額装	73.0×74.0	
9	前田青邨	鯛	制作年不詳	紙本彩色	額装	59.1×73.2	
10	川端龍子	薄氷	1940（昭和 15）年頃	絹本彩色	額装	45.8×57.4	
11	小杉放菴	舌切雀	制作年不詳	紙本彩色	額装	38.5×40.3	寄託
12	山本鼎	山村風景	制作年不詳	板・油彩	額装	18.0×25.0	
13	萬鉄五郎	茅ヶ崎風景	1923（大正 12）年	キャンバス・油彩	額装	24.3×33.4	
14	森田恒友	野菜帖	1933（昭和８）年	紙・水彩	額装	19.4×26.2	
15	堅山南風	立葵	1940（昭和 15）年頃	紙本彩色	額装	53.0×45.4	
16	堅山南風	茜	1975（昭和 50）年頃	紙本彩色	額装	73.0×60.2	
17	堅山南風	茄子と桃	制作年不詳	紙本彩色	額装	34.0×43.2	
18	奥村土牛	かきつばたに壷	制作年不詳	紙本彩色	額装	81.0×57.0	
19	奥村土牛	鉄線花	制作年不詳	絹本彩色	額装	69.5×60.8	
20	奥村土牛	薔薇	制作年不詳	紙本彩色	額装	31.8×41.0	
21	奥村土牛	双鶏	制作年不詳	紙本彩色	額装	47.3×62.5	
22	小茂田青樹	都忘と蝶	制作年不詳	紙・墨・顔彩	額装	39.8×27.3	
23	小茂田青樹	八重桜	制作年不詳	紙・墨・顔彩	額装	39.8×27.5	
24	速水御舟	ぜんまい	制作年不詳	紙本彩色	額装	34.8×27.5	寄託
25	速水御舟	鯉	1922（大正 11）年頃	紙・鉛筆	額装	31.2×51.7	
26	吉田善彦	二月堂	制作年不詳	紙本彩色	額装	50.0×73.0	
27	吉田善彦	栗咲く里	1975（昭和 50）年	紙本彩色	額装	105.0×81.0	
28	船田玉樹	岬	1967（昭和 42）年	紙本彩色	額装	60.8×45.6	
29	船田玉樹	猫瀬	1967（昭和 42）年	紙本彩色	額装	46.0×53.2	
30	船田玉樹	富士	制作年不詳	絹本彩色	額装	65.0×72.3	
31	岩橋英遠	去来	1988（昭和 63）年	紙本彩色	額装	80.3×116.7	

32	片岡球子	富士	1992（平成４）年	紙本彩色	額装	25.0×34.0	
33	片岡球子	めでたき山と樹	制作年不詳	紙･木版	額装	44.7×63.6	
34	池田栄廣	桜	1930（昭和５）年	紙本彩色	額装	47.8×71.2	
35	池田栄廣	かすみ草	1930（昭和５）年	紙本彩色	額装	48.8×70.5	
36	池田栄廣	グレーファンド	1983（昭和 58）年	紙本彩色	額装	72.6×87.4	

（２）小倉遊亀が描いた静物画

37	小倉遊亀	紅梅と白椿	1980（昭和 55）年	紙本彩色	額装	38.3×65.0	
38	小倉遊亀	椿	制作年不詳	紙・リトグラフ	額装	45.5×60.5	
39	小倉遊亀	青梅と鉢	制作年不詳	紙・リトグラフ	額装	45.5×60.5	
40	小倉遊亀	花菖蒲	制作年不詳	紙・リトグラフ	額装	45.5×60.5	
41	小倉遊亀	三宝柑と九谷皿	制作年不詳	紙・リトグラフ	額装	45.5×60.5	
42	小倉遊亀	好日	制作年不詳	紙･木版	額装	60.5×50.0	

（３）重鎮として活躍する院展作家

43	伊藤深游木	春霞	1993（平成５）年	紙本彩色	額装	63.3×93.5	
44	青山博之	枯葉図	1992（平成４）年	絹本彩色	額装	150.5×86.0	
45	下田義寛	風渡る	1979（昭和 54）年	紙本彩色	額装	194.0×130.0	
46	梅原幸雄	艶艶	1994（平成６）年	紙本彩色	額装	117.0×91.7	
47	小島和夫	モロッコにて	1984（昭和 59）年	紙本彩色	額装	102.0×102.0	
48	田渕俊夫	歴	1987（昭和 62）年	紙本彩色	額装	101.0×101.1	
49	松尾敏男	春輝	1992（平成４）年	紙本彩色	額装	45.8×60.8	
50	松尾敏男	華	制作年不詳	紙本彩色	額装	72.5×53.0	
51	那波多目功一	春の宵	1993（平成５）年	紙本彩色	額装	183.7×217.7	

（４）広島にゆかりのある院展作家

52	西田俊英	泰山木	1992（平成４）年	紙本彩色	額装	65.5×91.0	
53	平山郁夫	アッシジの丘	1965（昭和 40）年	紙本彩色	額装	44.5×100.0	
54	塩出英雄	風景	制作年不詳	紙本彩色	額装	48.8×60.2	寄託
55	塩出英雄	裏岩菅秋色	1994（平成６）年	紙本彩色	額装	47.8×55.1	

所蔵品展Ⅱ　水の表現ー絵画から工芸まで

会期　2020（令和２）年７月 22 日（水）～９月７日（月）
会場　蘭島閣美術館

関連行事
●美術館ことばあつめ
2020（令和２）年７月 22 日（水）～９月７日（月）

おもな関連記事、番組など
〇「市政だより くれ」８月号、呉市

印刷物
●チラシ A４判（両面刷り）4,000 部
●出品目録 A４判（両面刷り）

目的
「水」を主題にした作品に焦点を当て、展覧会を開催した。生命の源であり人々の生活に欠かせない水は、主要なモチーフとして数多くの作品に表現されてきた。色や形を持たない水を表現することは、芸術家たちにとっては困難でありながら大きな可能性を秘めている。水は身近な存在である一方、神聖なものであり時には洪水や台風など猛威を振るう存在にもなる。こうした人と水との関係は人々の記憶に静かに蓄積され、芸術家たちが水を表現する時には、多彩に描き出される。本展では、こうした水の表現に着目し、海や川、湖など流動する水の表現や雨を描いた作品、そして水を連想させる作品など、芸術家たちが表情豊かに描いた水の姿を紹介した。

展示内容
（１）水のかたち
海に囲まれ、多くの河川や湖がある日本で「水」は、主要なモチーフとして多くの画家たちが描いている。本コーナーでは刻々と移り変わる水のかたちを描いた作品を 26 点紹介した。海岸に打ち寄せる穏やかな波や、木々に囲まれた湖の水面はさまざまな色彩にあふれている。こうした水の透明感を表現した作品をはじめ、緩流や急流、波しぶきなどの水の動きを白や銀箔やプラチナ箔、青や緑などの色彩や、線描で表現した作品を展示した。また、空や周囲の景色を映しだす水鏡として水を表現した作品もまた、画家たちの水へのまなざしをうかがわせる多様な表現の一つとして紹介した。

（２）日本画からみる雨の表現
画家たちは、落ちてくる雨粒を描くことにとどまらず、雨に煙る空気感をも表現している。本コーナーではこうした雨や靄（もや）の表現が見られる日本画を９点展示した。日本画のにじみやぼかしの効果を生かし、雨が降る空気感にまでも意識を向け表現している作品や、独特の筆致によって湿った空気を表した作品など同じ日本画であってもその表現方法は多岐にわたっている。池田遙邨「嵐山風景」では、嵐山渡月橋を渡る人々が青や黄色のカラフルな傘をさしながら往来する様子を捉え、後方の山に満開の桜とともにうっすらと靄をかけて描くことで、花時雨を柔らかな

展示風景

展示風景

空気感で表現している。本コーナーではこうした多彩な雨の表現が見られる作品を紹介した。

（3）工芸からみる水の表現

さまざまな形態を持つ水をモチーフにしている工芸作品を紹介した。円弧を重ねて規則的に波型を表した「青海波」や、荒れて大きく逆立っている躍動感のある波を表した「立波」をはじめ、波上を自由に群れて飛ぶ「千鳥」など、水に関連した文様が描かれた作品を展示した。また、水の流れを表現した流水文に桜やもみじを描くことで季節感を取り入れた作品や、鯉やアユなど水の生き物を描いた作品を展示し、工芸作品に見られる個性豊かな水の表現を紹介した。

（4）感じる水

水に特別な思いを寄せた画家の作品や、水という恵みがあるからこそ叶う私たちの生活風景を描いた作品を紹介した。水の本質を捉えようとした時、その表現は心象的となり抽象性を強めていく。本コーナーの前半では、水が描かれていない作品もあるが、その筆致や色彩の中に画家たちが感じ取った水の痕跡が感じられる作品を紹介した。平山英樹「石の河」には、桜島の大正期の大噴火による溶岩流の跡が細い水脈のように描かれ、幻想的で森閑とした世界が広がっている。

本コーナーの後半では鵜飼や田植え、七夕など生活の中にある水が感じられる作品を展示した。岐阜県出身の加藤栄三、東一兄弟は長良川の鵜飼を主題に描いた作品を多く残している。また鏑木清方「七夕」は、短冊に願いを書くため、女性が硯を持ち里いもの葉の露を集めている様子が描かれ、七夕の節句が表現されている。

水は生命の源と呼ばれるように、私たちの存在の根源であり、芸術家たちにとっては創作の源となっている。水という物質がなければ表現できない作品や、水に特別な思いを寄せた作品など画家たちの眼と心を通して表現された作品からは水の持つ表情のおもしろさや美しさを感じることができる。

（山下裕子）

蘭島閣美術館　所蔵品展Ⅱ　「水の表現－絵画から工芸まで」　出品リスト　　＊無表記は財団所蔵

No.	作家名	作品名	制作年	材質技法	形状	寸法（縦 × 横）cm	所蔵
（1）水のかたち							
1	中島清之	親子鶴	1940-44（昭和 15-19）年頃	紙本彩色	六曲一双	172.0×384.0	
2	塩出英雄	山湖	制作年不詳	絹本彩色	軸装	43.2×51.2	
3	堅山南風	鯉	1958-62（昭和 33-37）年頃	紙本彩色	額装	63.8×78.8	
4	横山大観	神洲乃正気	1943（昭和 18）年	紙本彩色	額装	59.5×73.5	
5	前田青邨	群泳	1963（昭和 38）年頃	紙本彩色	額装	56.3×71.0	
6	月岡栄貴	魚	制作年不詳	紙本彩色	額装	46.2×53.5	
7	小松均	岩山図	1973（昭和 48）年	紙本彩色	額装	96.8×61.7	
8	横山操	灯台	1958（昭和 33）年	絹本彩色	額装	51.2×75.8	
9	横山操	朱富士	制作年不詳	紙本彩色	額装	50.0×65.5	
10	加山又造	雪の渓谷	1983（昭和 58）年	紙本彩色	額装	118.5×82.5	
11	小泉淳作	潮騒	1989（平成元）年	紙本彩色	額装	62.3×98.6	
12	南薫造	海（夕日）	1916（大正５）年	紙・水彩	額装	18.0×25.0	
13	南薫造	夏の海	1916（大正５）年	紙・水彩	額装	25.0×35.5	
14	南薫造	海（帆）	制作年不詳	紙・水彩	額装	27.5×40.0	
15	南薫造	舟	制作年不詳	紙・水彩	額装	25.0×35.0	
16	南薫造	瀬戸の夕陽	制作年不詳	紙・水彩	額装	24.0×33.0	
17	山口長男	江田島の図	1969（昭和 44）年	板・油彩	額装	21.0×26.4	寄託
18	牛島憲之	伊豆の海	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	24.5×41.0	
19	黒田清輝	伊豆大島遠望	1914（大正３）年	板・油彩	額装	23.8×33.0	
20	中沢弘光	海岸風景	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	70.0×113.5	
21	小絲源太郎	雪の漁港	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	38.0×45.5	
22	濱田昇児	早春	1993（平成５）年	紙本彩色	額装	112.0×162.1	
23	濱田昇児	緑映	1992（平成４）年	紙本彩色	額装	55.0×74.7	
24	久保嶺爾	霞湖	1993（平成５）年	紙本彩色	額装	97.1×145.5	
25	岩澤重夫	流転	1993（平成５）年	紙本彩色	額装	112.1×193.8	
26	山岸純	爽晨	1993（平成５）年	紙本彩色	額装	80.5×117.0	

（2）日本画からみる雨の表現

27	川﨑小虎	谷間の雨	1971（昭和 46）年	紙本彩色	額装	90.4×74.5	
28	池田遙邨	嵐山風景	制作年不詳	絹本彩色	額装	45.1×51.1	寄託
29	福田平八郎	春雨	1964（昭和 39）年	紙本彩色	額装	42.0×55.8	
30	岩倉寿	雨季	1992（平成４）年	紙本彩色	額装	65.5×91.0	
31	下保昭	長江烟雨	1987（昭和 62）年	紙本彩色	額装	118.9×83.6	
32	下保昭	花（花靄）	1993（平成５）年	紙本彩色	額装	65.5×45.7	
33	其阿弥赫土	神苑	制作年不詳	紙本彩色	額装	60.5×72.5	
34	其阿弥赫土	塔	1988-2009（昭和 63- 平成 21）年	紙本彩色	額装	162.1×130.3	
35	其阿弥赫土	平等院	1988-2009（昭和 63- 平成 21）年	紙本彩色	額装	162.1×130.3	

（3）工芸からみる水の表現

36	初期伊万里	染付山水文大皿	1630-40 年代	磁器	高 12.5　口径 45.0　底径 12.2	
37	初期伊万里	染付山水文大皿	1630-40 年代	磁器	高 9.0　口径 33.5　底径 9.6	
38	初期伊万里	染付波千鳥文猪口	1640-60 年代	磁器	高 9.0　口径 6.0　底径 4.1	
39	延宝様式	染付波鷺文輪花大皿	1680-1710 年代	磁器	高 8.5　口径 40.5　底径 21.8	
40	鍋島様式	色絵椿文小皿	1690-1730 年代	磁器	高 4.5　口径 15.2　底径 8.2	
41	鍋島様式	染付桜流水文皿	18 世紀末	磁器	高 5.5　口径 20.3　底径 11.5	
42	寛文様式	染付紅葉流水文変形皿	1660-70 年代	磁器	高 3.0　口径 16.2×10.1 底径 10.1×6.5	
43	寛文様式	瑠璃釉花筏流水文変形皿	1650-70 年代	磁器	高 2.9　口径 17.3×9.9　底径 12.2×5.7	
44	中国磁器	染付鯉水草文八角皿（古染付）	1640 年代	磁器	高 4.5　口径 20.0　底径 10.5	
45	寛文様式	染付鮎文皿	1650-70 年代	磁器	高 2.6　口径 21.0　底径 13.1	
46	柿右衛門様式	色絵栄螺形三足鉢	1670-1700 年代	磁器	高 10.0　口径 22.0×17.0	

（4）感じる水

47	平山英樹	石の河	1991（平成３）年	紙本彩色	四曲一隻	130.0×278.8	
48	石踊達哉	大地への贈り物	1998（平成 10）年	紙本彩色	額装	131.0×162.5	
49	稲元実	夢	1980（昭和 55）年	紙本彩色	額装	110.5×136.0	
50	土屋禮一	静日	1992（平成４）年	紙本彩色	額装	65.5×100.0	
51	杉山寧	晶	1969（昭和 44）年頃	麻布・彩色	額装	65.6×93.5	
52	加藤東一	月下篝火	制作年不詳	紙本彩色	額装	46.2×61.2	
53	加藤栄三	篝火	制作年不詳	紙本彩色	額装	40.0×63.0	
54	竹久夢二	馬	制作年不詳	紙・墨	額装	12.0×12.0	
55	竹久夢二	せんたくもの	制作年不詳	紙・墨	額装	15.0×7.5	
56	竹久夢二	大根を洗う	制作年不詳	紙・墨	額装	14.0×11.0	
57	竹久夢二	橋をわたる	制作年不詳	紙・墨	額装	11.5×11.5	
58	竹久夢二	カエルの絵	制作年不詳	紙・墨	額装	11.5×16.0	
59	鈴木竹柏	丘	1981（昭和 56）年	紙本彩色	額装	160.0×210.0	
60	岩田専太郎	湯上がり	制作年不詳	紙本彩色	額装	50.5×57.5	
61	伊東深水	席入り	制作年不詳	紙本彩色	額装	37.0×44.5	寄託
62	鏑木清方	七夕	制作年不詳	紙本彩色	軸装	119.3×30.3	
63	高木義夫	佳日	1991（平成３）年	紙本彩色	額装	60.7×45.5	

所蔵品展Ⅲ　画家たちのまなざし－広島の画家たちが描いた世界－

同時開催　ふるさとの絶景六選

会期　2020（令和２）年 11 月 27 日（金）～ 2021（令和３）年２月１日（月）
会場　蘭島閣美術館

関連行事
●クイズラリー
2020（令和２）年 11 月 27 日（金）～ 2021（令和３）年２月１日（月）

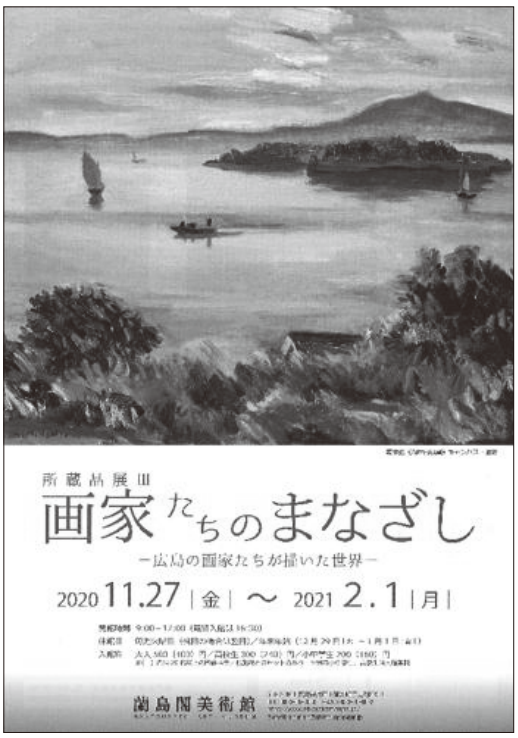
おもな関連記事、番組など
○「市政だよりくれ」12月号、呉市　○『くれえばん』１月号、株式会社 SA メディアラボ

印刷物
●チラシ A４判（両面刷り）6,000 部
●出品目録 A４判（両面刷り）

目的
本展では、広島にゆかりのある日本画家、洋画家たちの選りすぐりの作品を紹介した。自然への畏敬を描いた日本画家の奥田元宋や、洋画家でありながらも東洋画を研究し、墨の線を活かしつつ独自の幻想的な世界を描いた靉光など、それぞれの世界を多彩に表現し、広島だけでなく中央画壇にも大きな影響を与えてきた画家たちの作品を展示。また、瀬戸内の穏やかな景色に魅せられて島や海を題材にした作品や、2020（令和２）年に没後 70 年を迎えた呉市安浦町出身の洋画家、南薫造があたたかなまなざしで見つめ描いた作品など、広島の画家たちが描いたさまざまな作品を展示した。

展示内容
（１）広島にゆかりのある画家たち①
日展を舞台に活躍した児玉希望と奥田元宋、三上巴峡や歴程美術協会で活躍した船田玉樹と丸木位里など、広島には優れた画家が多数いる。本コーナーでは、児玉希望が徹底した写実表現で描いた「秋晴」、没骨表現を取り入れ、洋画的表現の模索がうかがえる「清爽」を紹介。希望の内弟子であった奥田元宋と三上巴峡の作品を始めに展示した。また、船田玉樹が初期に描いた油彩画作品、墨を巧みに使って描いた「松」、1960 年代に手がけた連作「九品仏幻想」から２点展示し、玉樹の作風の変遷を辿った。コーナー後半には、玉樹と深い交友のあった丸木位里、靉光の作品も展示し、広島の日本画家たちのつながりを紹介した。

（２）広島にゆかりのある画家たち②
本コーナーでは、岡崎勇次を中心に光風会で活躍した画家たちの作品を展示した。岡崎勇次がヨーロッパに留学した頃に制作した「ギリシャ」や、日本各地の海を題材にした作品など、初期から晩年にかけて描かれた作品を４点展示した。岡崎に師事した平岡秀樹は 1973（昭和 48）年頃から全国の稲荷神社を巡り、狐の嫁入りなどの祭事や狐の面をモチーフにした作品を制作している。本展ではこれらのモチーフによる「まつり」や、出身地の因島を描いた「瀬



展示風景

展示風景

戸内（因島）」を展示した。その他、現在も光風会の名誉会員として活躍している金山桂子や守長雄喜らの作品を展示し、中央画壇でも活躍した画家たちの、多彩な作品を紹介した。

（３）広島の画家が描いた瀬戸内の風景

広島にゆかりのある画家たちの中には、瀬戸内の穏やかな景色に魅せられて島や海を題材にした作品を描いている画家が多い。本コーナーでは、新延輝雄が、師の南薫造と下蒲刈島を訪れ、あたたかみのある淡い色合いで海やミカンの木を描いた「蜜柑の瀬戸」や、本州と下蒲刈島を結ぶ安芸灘大橋が架かる風景を写実的に描いた野田弘志の「安芸灘大橋」など、広島の画家たちが描いた瀬戸内の風景画を展示した。

（４）ふるさとの絶景六選

本展では、同時開催として、呉市下蒲刈町出身の洋画家、竹久智信が描いた自然豊かなふるさとの風景画６点を紹介した。島の風光明媚な海と空や、名産であるミカンが描かれた作品はすべて作家が実際にその場所を取材して描いた。作家が作成した、取材場所が分かる地図を掲示することで、各作品が下蒲刈島のどこから見た景色を描いたものなのか分かるようにした。

（５）南薫造のまなざし

南薫造は呉市安浦町に生まれ、東京美術学校（現・東京芸術大学）西洋画科に入学。卒業後は水彩画の本場であるイギリスに留学し、帰国後は光風会や帝展に出品するなど華々しい活躍をした。1944（昭和 19）年に戦争のため家族とともに故郷安浦に疎開してからは、瀬戸内の風景を多く描いた。本コーナーでは、2020（令和２）年に没後 70 年を迎えた南が描いた瀬戸内の風景画を始め、日本だけでなく朝鮮など海外にも多く写生旅行に出かけ描いた各地の風景画も紹介。また、風景画の他にも、庭で花に水をやる女性の姿を描いた「庭の一隅」など、ささやかな日常の一コマを明るく優しい色彩で描いた作品を展示し、南があたたかなまなざしで見つめ描いた水彩、油彩作品を一堂に紹介した。

（木口詩織）

蘭島閣美術館　所蔵品展Ⅲ　「画家たちのまなざし―広島の画家たちが描いた世界―／ふるさとの絶景六選」　出品リスト　　＊無表記は財団所蔵

No.	作家名	作品名	制作年	材質技法	形状	寸法（縦 × 横）cm	所蔵
（1）広島にゆかりのある画家たち①							
1	三上巴峡	夕映	制作年不詳	紙本彩色	額装	41.0×60.7	
2	奥田元宋	妙義秋耀	1991（平成３）年	絹本彩色	額装	74.3×91.0	
3	児玉希望	秋晴	大正末期	絹本彩色	額装	58.0×100.0	
4	児玉希望	清爽	制作年不詳	絹本彩色	額装	45.3×52.6	
5	船田玉樹	おむらつんつん	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	115.2×90.5	
6	船田玉樹	松	制作年不詳	紙本彩色	額装	116.7×80.2	
7	船田玉樹	九品仏幻想　秋	1965（昭和 40）年	紙本彩色	額装	130.0×160.0	
8	船田玉樹	九品仏幻想　冬	1965（昭和 40）年	紙本彩色	額装	130.0×160.0	
9	船田玉樹	猫瀬	1967（昭和 42）年	紙本彩色	額装	46.0×53.2	
10	船田玉樹	浜辺	1967（昭和 42）年	紙本彩色	額装	46.7×55.7	
11	丸木位里	臥龍梅（夜明け）	1963（昭和 38）年	紙本彩色	額装	69.5×69.5	
12	靉光	鳥	1938（昭和 13）年	紙・墨	額装	25.0×54.6	
13	靉光	パーサーの像	1943（昭和 18）年	紙・水彩	額装	40.4×22.0	
（2）広島にゆかりのある画家たち②							
14	金山桂子	春のひかりとガラス器と	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	162.1×112.1	寄託
15	寺坂公雄	アンティック・コレクション	1993（平成５）年	キャンバス・油彩	額装	194.1×130.5	
16	岡崎勇次	ギリシャ	1961（昭和 36）年	キャンバス・油彩	額装	100.0×72.7	
17	岡崎勇次	荒磯・鵜	1974（昭和 49）年	キャンバス・油彩	額装	97.0×145.5	
18	岡崎勇次	潮音	1988（昭和 63）年	キャンバス・油彩	額装	72.7×100.0	
19	岡崎勇次	瀬戸の夜明け	1989（平成元）年	キャンバス・油彩	額装	50.4×91.2	
20	平岡秀樹	瀬戸内（因島）	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	91.3×116.8	
21	平岡秀樹	まつり	1994（平成６）年	キャンバス・油彩	額装	91.0×117.0	
22	北田和広	厳島 '90 水無月	1990（平成２）年	キャンバス・油彩	額装	116.7×116.7	

23	守長雄喜	漁村	1989（平成元）年	キャンバス・油彩	額装	130.3×162.1	

（3）広島の画家が描いた瀬戸内の風景

24	梶原宣弘	海道	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	130.3×162.1	個人蔵
25	梶原宣弘	夕焼け空に架かる橋	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	60.6×72.7	個人蔵
26	三原捷宏	瀬戸海景	1991（平成３）年	キャンバス・油彩	額装	130.0×194.0	
27	新延輝雄	蜜柑の瀬戸	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	60.5×72.8	
28	野田弘志	安芸灘大橋	2000（平成 12）年	板・麻布・油彩	額装	43.2×76.1	
29	武永槙雄	女猫島（蒲刈島風景）	1989（平成元）年	キャンバス・油彩	額装	60.6×72.7	
30	武永槙雄	ヒクベ島	1989（平成元）年	キャンバス・油彩	額装	45.5×52.9	
31	武永槙雄	黒島	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	45.5×52.8	

（4）ふるさとの絶景六選

32	竹久智信	瀬戸の香り	2020（令和２）年	キャンバス・アクリル・油彩	額装	38.0×45.5	個人蔵
33	竹久智信	光彩景－三之瀬	2020（令和２）年	キャンバス・アクリル・油彩	額装	38.0×45.5	個人蔵
34	竹久智信	薫風の天神鼻	2020（令和２）年	キャンバス・アクリル・油彩	額装	38.0×45.5	個人蔵
35	竹久智信	夏めく瀬戸内	2020（令和２）年	キャンバス・アクリル・油彩	額装	38.0×45.5	個人蔵
36	竹久智信	見戸代秋待景	2020（令和２）年	キャンバス・アクリル・油彩	額装	38.0×45.5	個人蔵
37	竹久智信	みかんと安芸灘大橋	2020（令和２）年	キャンバス・アクリル・油彩	額装	38.0×45.5	個人蔵

（5）南薫造のまなざし

38	南薫造	広場遠景	制作年不詳	紙・水彩	額装	25.0×35.0	
39	南薫造	夏の海	1916（大正５）年	紙・水彩	額装	25.0×35.5	
40	南薫造	朝鮮の山	制作年不詳	紙・水彩	額装	24.0×33.0	
41	南薫造	赤い門	制作年不詳	紙・水彩	額装	18.0×26.0	
42	南薫造	冬晴	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	45.5×60.8	
43	南薫造	北海道郊外	1936（昭和 11）年	板・油彩	額装	32.9×40.8	
44	南薫造	那智の滝	1937（昭和 12）年	キャンバス・油彩	額装	53.2×45.5	
45	南薫造	庭の一隅	1922（大正 11）年	キャンバス・油彩	額装	50.1×60.2	
46	南薫造	浴後	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	72.7×60.6	
47	南薫造	田植風景	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	50.0×61.0	
48	南薫造	農作業	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	31.8×41.0	
49	南薫造	安浦の海（稚児の明神）	制作年不詳	紙・水彩	額装	28.0×38.0	
50	南薫造	御手洗笠橋より	制作年不詳	紙・水彩・コンテ	額装	13.0×26.0	
51	南薫造	安芸蒲刈小島	制作年不詳	紙・水彩	額装	27.2×23.9	
52	南薫造	倉橋島鹿呂渡	制作年不詳	紙・水彩	額装	13.0×26.0	
53	南薫造	日の出	1946-48（昭和 21-23）年頃	キャンバス・油彩	額装	38.0×45.5	
54	南薫造	串山のみかん畑	1948（昭和 23）年	キャンバス・油彩	額装	38.1×45.4	
55	南薫造	瀬戸内風景	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	45.5×53.0	
56	南薫造	瀬戸内	制作年不詳	板・油彩	額装	24.2×33.3	

所蔵品展Ⅳ　旅した画家たちが魅せられた世界

会期　2021（令和３）年２月３日（水）～４月 12 日（月）
会場　蘭島閣美術館

おもな関連記事、番組など
〇「市政だよりくれ」２月号、呉市　〇「市政だよりくれ」３月号、呉市　〇「エンタメ navi ！」『TJ Hiroshima』３月号、株式会社アドプレックス

印刷物
●チラシ A４判（両面刷り）5,000 部
●出品目録 A４判（両面刷り）

目的
　美しい景色に魅せられ、画家たちが日本各地や海外を旅して描いた風景画や、西洋美術に感化を受けた画家たちが新たな絵画表現を展開した作品を紹介した。魅力的な景色は国内外多々あるが、その中でも特にフランスの景色は多くの画家を魅了してきた。1930（昭和５）年に渡仏した山口薫は、モディリアーニやユトリロ、マティスなどの作品から近代的な造形感覚を吸収し、パリの風景を描いた。その他、30 歳で亡くなるまでフランスに滞在し、パリの石造りの建物や教会を重厚な筆致で描いた佐伯祐三など多くの画家たちがフランスに渡って、独自の視点でその風景を描いている。また日本画家の中には、竹内栖鳳や小野竹喬のように、西洋見聞に旅立ち帰国後は西洋画と東洋画の技法を融合させ、新たな絵画表現の創出に取り組んだ画家たちもいる。それらの作品を通して、旅した画家たちが魅せられ描いた美しい世界を紹介した。

展示内容
（１）油彩画家が描いた日本の風景
　黒田清輝は 1884（明治 17）年、法学研究のためフランスに留学。そこで西洋画に興味を持ち、ラファエル・コランに入門して本格的に絵画を学んだ。そして 1893（明治 26）年に帰国すると、外光的表現の作品を発表して画壇に大きな衝撃を与えた。以後、明治の西洋画壇に新風を起こした白馬会のリーダーとして活躍する。本コーナーでは、黒田に師事した中沢弘光や鈴木信太郎ら、黒田清輝の影響以降、自然の光の下で画家たちが描いた日本の海の作品を紹介した。また、中沢が創設に携わった白日会の、平松譲が三宅島をテーマにした作品を展示した。さらに、1934（昭和９）年から広島県尾道市を拠点として制作をおこなった小林和作、小林と交友のあった中川一政が尾道の風景を描いた作品も展示し、油彩画家たちが見つめた日本の風景を紹介した。

（２）海外を旅した日本画家
　日本画家の中から、海外を旅した画家たちの作品を紹介した。渡欧の時期や理由は異なるが、画家たちは海外の文化や芸術に触れたことで自分たちの作風を見直し、制作を続けていった。本コーナーでは、竹内栖鳳や小野竹喬を始めとした渡航経験のある８人の日本画家たちの作品を展示。

展示風景

展示風景

あわせて、各作家がいつ頃渡航したのか分かりやすいように渡航した年を記載したキャプションを作成し、掲示した。

（3）日本画家が描いた日本の風景

本コーナーでは、創画会の画家たちを中心に、彼らが描いた国内の風景画を展示した。小泉淳作が奈良県の十津川沿いを２日間歩いて取材したという「黎明の滝」は、墨の濃淡によって岩肌の重なりを重厚に描き、自然の雄大さを表現している。後藤純男は寺を主題に制作をおこなった。今回展示した「月の塔映」「雪の塔映」「桜花塔映」は、同じ仏塔を描いた作品である。しかし、紅葉や桜、うっすらと雪化粧した様子など周囲の情景も描くことで、季節ごとの仏塔の変化を捉えている。他にも、漁村の冬景色を描いた西久松吉雄の「丹後　日本海」や、月が照らす田舎道に咲く桜を描いた稗田一穂の「春の路」などを展示した。

（4）奥村土牛のスケッチ

奥村土牛は日本各地を写生してまわり、雄大な山々や、美しい夕焼けに照らされた風景などのスケッチを多く残している。本コーナーでは土牛の素描作品を展示し、画家が見つめた各地の風景を紹介した。

（5）フランスに魅せられた画家たち

文化や芸術の中心地であるフランスは、数々の画家を魅了してきた。児玉幸雄が色鮮やかな色彩で広場の賑わいを描いた「サン・メダールの広場」、堅牢な石造りの街並みに魅せられ、30 歳で亡くなるまでパリで制作を続けた佐伯祐三の「パリの教会堂」などを展示した。また、浮田克躬は1967（昭和42）年に初めて渡欧して以降何度も渡欧し、西洋の建物を重厚で構築的に描いた。「セーヌの古城」と「古城と赤い屋根の村」は制作年や構図は異なるが、描かれている古城や川などから同一の場所を別の角度で描いたことがうかがえる。本コーナーでは、画家たちが日本とは異なるフランスの建築物や生活風景を新鮮に感じ、描いた作品を紹介した。

（木口詩織）

蘭島閣美術館　所蔵品展Ⅳ　「旅した画家たちが魅せられた世界」　出品リスト　　＊無表記は財団所蔵

No.	作家名	作品名	制作年	材質技法	形状	寸法（縦 × 横）cm	所蔵
（1）油彩画家が描いた日本の風景							
1	平松譲	火の山峠の朝	1990（平成２）年	キャンバス・油彩	額装	130.7×162.0	
2	平松譲	島の切り通し	1998（平成 10）年	キャンバス・油彩	額装	130.7×162.0	
3	平松譲	三宅島追想	2001（平成 13）年	キャンバス・油彩	額装	130.7×162.0	
4	鈴木信太郎	風景	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	31.7×40.3	
5	鈴木信太郎	風景	1959（昭和 34）年	紙・油彩	額装	34.0×43.0	
6	黒田清輝	伊豆大島遠望	1914（大正３）年	板・油彩	額装	23.8×33.0	
7	中沢弘光	海岸風景	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	70.0×113.5	
8	小絲源太郎	雪の漁港	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	38.0×45.5	
9	萬鉄五郎	茅ヶ崎風景	1923（大正 12）年	キャンバス・油彩	額装	24.3×33.4	
10	萬鉄五郎	富士	1926（大正 15）年	キャンバス・油彩	額装	33.5×45.8	
11	小林和作	奥日光秋景	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	37.7×45.7	
12	小林和作	尾道風景	1935（昭和 10）年	キャンバス・油彩	額装	45.5×53.0	
13	中川一政	尾の道展望	1961（昭和 36）年	キャンバス・油彩	額装	65.2×80.8	
（2）海外を旅した日本画家							
14	児玉希望	夜梅	1960（昭和 35）年頃	絹本彩色	額装	42.7×73.0	
15	伊東深水	酣春	1950（昭和 25）年	絹本彩色	額装	50.5×57.4	
16	堂本印象	春の小舟	制作年不詳	絹本彩色	額装	55.0×60.0	寄託
17	小野竹喬	春日野	1922（大正 11）年頃	絹本彩色	額装	170.0×170.0	
18	小野竹喬	山辺の春	1945（昭和 20）年頃	絹本彩色	額装	38.7×50.7	
19	竹内栖鳳	雙鶏	1941（昭和 16）年頃	紙本彩色	額装	70.3×82.0	
20	山口華楊	虎児	1957（昭和 32）年	紙本彩色	額装	56.2×71.7	
21	横山操	灯台	1958（昭和 33）年	絹本彩色	額装	51.2×75.8	
22	横山操	疎林	1963（昭和 38）年頃	紙本彩色	額装	38.4×55.4	
23	山本丘人	路地	1959（昭和 34）年	紙・パステル	額装	37.0×25.0	
24	山本丘人	青い季節	1962（昭和 37）年	金箔麻紙・彩色	額装	49.2×60.4	

25	山本丘人	遥雪	1969（昭和 44）年	紙本彩色	額装	27.5×41.0	

（3）日本画家が描いた日本の風景

26	西久松吉雄	丹後 日本海	1990（平成２）年	紙本彩色	額装	68.0×94.0	
27	平山英樹	春の底	1993（平成５）年	紙本彩色	額装	116.7×116.7	
28	小泉淳作	黎明の滝	1984（昭和 59）年	紙本彩色	額装	66.0×97.8	
29	小泉淳作	潮騒	1989（平成元）年	紙本彩色	額装	62.3×98.6	
30	稗田一穂	春の路	1989（平成元）年	紙本彩色	額装	91.0×117.0	
31	後藤純男	月の塔映	1993（平成５）年	紙本彩色	額装	53.0×72.7	
32	後藤純男	雪の塔映	1993（平成５）年	紙本彩色	額装	53.0×72.7	
33	後藤純男	桜花塔映	1993（平成５）年	紙本彩色	額装	53.0×72.7	

（4）奥村土牛のスケッチ

34	奥村土牛	明石	制作年不詳	紙・彩色	額装	31.5×56.8	
35	奥村土牛	嵐山の月	制作年不詳	紙・彩色	額装	31.5×28.4	
36	奥村土牛	奈良白豪寺村	制作年不詳	紙・彩色	額装	31.5×28.4	
37	奥村土牛	能登　曽々木	制作年不詳	紙・彩色	額装	31.5×56.8	
38	奥村土牛	富士	1978（昭和 53）年	紙・彩色	額装	31.5×56.8	
39	奥村土牛	上高地　穂高	制作年不詳	紙・彩色	額装	31.5×56.8	
40	奥村土牛	谷川岳	1974（昭和 49）年	紙・彩色	額装	31.5×56.8	

（5）フランスに魅せられた画家たち

41	児玉幸雄	サン･メダールの広場	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	50.5×60.5	
42	織田広喜	レストラン・クーポルにて（巴里）	1960（昭和 35）年	キャンバス・油彩	額装	53.3×46.0	
43	浮田克躬	オーヴェルニュ風景	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	41.0×31.8	
44	浮田克躬	セーヌの古城	1974（昭和 49）年	キャンバス・油彩	額装	182.3×228.0	
45	浮田克躬	古城と赤い屋根の村	1975（昭和 50）年	キャンバス・油彩	額装	227.5×182.5	
46	佐野繁次郎	おつかいっ子	制作年不詳	板・油彩	額装	33.4×24.3	
47	佐野繁次郎	ニースの海	1951（昭和 26）年	キャンバス・油彩	額装	53.0×65.5	
48	佐伯祐三	パリの教会堂	1928（昭和３）年	キャンバス・油彩	額装	38.2×45.0	
49	木下孝則	パリ風景	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	38.0×42.8	
50	山口薫	モンレリー風景（パリ郊外）	1933（昭和８）年	キャンバス・油彩	額装	65.1×80.5	
51	林武	パリ風景	制作年不詳	紙・水彩	額装	25.0×29.1	
52	林武	エッフェル塔	制作年不詳	紙・コンテ	額装	20.8×12.6	
53	林武	ノートルダム寺院	制作年不詳	紙・コンテ	額装	24.5×35.0	
54	福島瑞穂	風景Ⅰ	制作年不詳	紙･リトグラフ	額装	47.9×35.5	
55	福島瑞穂	風景Ⅱ	制作年不詳	紙･リトグラフ	額装	47.9×36.5	
56	大津英敏	孔雀のいる丘　サントロペ	2003（平成 15）年	キャンバス・油彩	額装	80.3×100.0	
57	空野八百蔵	運河（サンマルタン）	1972（昭和 47）年	キャンバス・油彩	額装	60.7×73.0	
58	空野八百蔵	ムードン風景	1975（昭和 50）年	キャンバス・油彩	額装	45.4×53.0	

所蔵品展Ⅰ　童画の登場ー大正・昭和初期の新メディアー

会期　2020（令和２）年２月５日（水）～８月 24 日（月）
会場　蘭島閣美術館別館
＊2020（令和２）年３月９日（月）から５月 10 日（日）まで、新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館
＊前年度所蔵品展Ⅳを５月 27 日（水）以降継続し、2020（令和２）年度所蔵品展Ⅰとして開催した

おもな関連記事、番組など
○「市政だよりくれ」３月号、呉市　○「市政だよりくれ」４月号、呉市　○「市政だよりくれ」５月号、呉市　○「市政だよりくれ」６月号、呉市　○「市政だよりくれ」７月号、呉市

印刷物
●チラシ A４判（片面刷り）　3,000 部
●出品目録 A４判（片面刷り）

目的
寺内萬治郎は明治 23（1890）年に生まれ、大正、昭和にかけて日本近代洋画史に名前を刻み、「裸婦の寺内」と称された。
寺内萬治郎は油彩による多くの優れた作品制作の一方、大正時代に創刊された児童雑誌に多くの童画を提供した。本展では、大正時代創刊の児童雑誌『キンダーブック』に登場する寺内萬治郎の童画などを中心に紹介した。

展示内容
（１）寺内萬治郎の代表作
寺内萬治郎の代表作を紹介した。寺内萬治郎は、油彩の大作を終戦間際に火事で失っている。制作の場所としていたアトリエ全焼という悲運のあと、戦後も精力的に制作し、晩年に優れた作品を残した。これらの中から３点の大作を展示した。

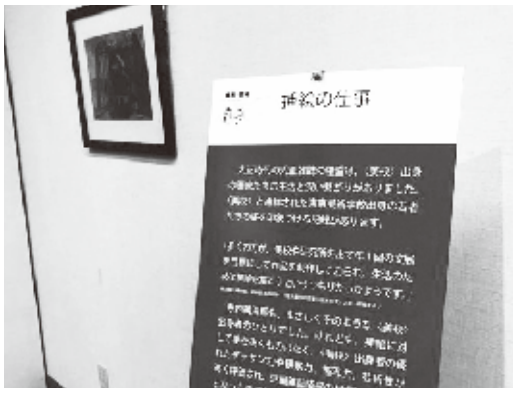
（２）童画の登場
子どもが楽しむ絵、という新しいメディアは大正時代の雑誌全盛期に「童画」へと発展した。都市生活者層の子弟教育の必要性から多くの児童雑誌がこの頃新たに創刊されたのでした。本コーナーでは、大正時代に出版された児童向けの童話集の中から、寺内の挿絵を紹介した。

（３）寺内萬治郎の童画ー観察の力
大正時代の児童雑誌の隆盛は、画家たちの生活と深い繋がりがあった。東京美術学校出身の若者たちの多くが、美校や研究所を出て年１回の文展を目標にして作品を制作し、またその生活維持のために挿絵を描いていた。寺内萬治郎もそのような画家のひとりで、東京美術学校、いわゆる〈美校〉出身者の優れたデッサン力や観察力、描写力、芸術性は高く評価され、児童雑誌隆盛の起爆剤のひとつとなった。
本コーナーでは、大正時代創刊の児童雑誌『キンダーブック』に寺内が提供した挿絵を紹介した。

（４）水彩作品
優れたクロッキーにより自然なリラックスした表情の女性を捉えている寺内萬治郎の素描、水彩作品を展示した。

（山崎環）

展示風景


展示風景

蘭島閣美術館別館　所蔵品展Ⅰ　「童画の登場ー大正・昭和初期の新メディア」　出品リスト　　＊無表記は財団所蔵

No.	作家名	作品名	制作年	材質技法	形状	寸法（縦 × 横）cm	所蔵
（1）寺内萬治郎の代表作							
1	寺内萬治郎	横臥裸婦	1958（昭和 33）年	キャンバス・油彩	額装	96.0×144.0	寄託
2	寺内萬治郎	裸婦	1964（昭和 39）年	キャンバス・油彩	額装	90.6×64.9	
3	寺内萬治郎	横臥裸婦	1957（昭和 32）年	キャンバス・油彩	額装	72.0×115.5	寄託
（2）童画の登場　No.４～７は童話集『青い眼の人形』［初出：童謡集『青い眼の人形』野口雨情著 金の星社　1924（大正 13）年６月１日発行］からの復刻版画							
4	寺内萬治郎	挿絵「沙の数」復刻木版	1924（大正 13）年	紙・木版	額装	18.0×11.6	寄託
5	寺内萬治郎	挿絵「赤い櫻ンぼ」復刻木版	1924（大正 13）年	紙・木版	額装	19.1×11.6	寄託
6	寺内萬治郎	挿絵「くたびれこま」復刻木版	1924（大正 13）年	紙・木版	額装	18.0×11.6	寄託
7	寺内萬治郎	挿絵「和歌の浦」復刻木版	1924（大正 13）年	紙・木版	額装	18.0×11.6	寄託
（3）寺内萬治郎の童画 - 観察の力　児童雑誌『キンダーブック』（フレーベル館）より							
8	寺内萬治郎	表紙絵「ハシ」（児童雑誌『キンダーブック・ハシ』）	1932（昭和７）年	印刷物	額装	25.3×37.5	寄託
9	寺内萬治郎	表紙絵「おさる」（児童雑誌『キンダーブック・おさる』）	1932（昭和７）年	印刷物	額装	25.3×37.5	寄託
10	寺内萬治郎	挿絵「トコヤサンノオダウグ」（児童雑誌『キンダーブック・おだうぐ』）	1932（昭和７）年	印刷物	額装	25.3×37.5	寄託
11	寺内萬治郎	挿絵「オチヤノジカン」（児童雑誌『キンダーブック・トケイ』）	1932（昭和７）年	印刷物	額装	25.2×31.9	寄託
12	寺内萬治郎	挿絵「アキノトリイレ」（児童雑誌『キンダーブック・オムスビ』）	1932（昭和７）年	印刷物	額装	25.3×37.5	寄託
13	寺内萬治郎	挿絵「タネマキ」（児童雑誌『キンダーブック・クサバナ』）	1933（昭和８）年	印刷物	額装	25.3×37.5	寄託
14	寺内萬治郎	挿絵「ハチノダイクサンウチツクリ」（児童雑誌『キンダーブック・小サイ蟲』）	1933（昭和８）年	印刷物	額装	25.3×37.5	寄託
15	寺内萬治郎	挿絵「オモチャアソビ」（児童雑誌『キンダーブック・オモチャ』）	1934（昭和９）年	印刷物	額装	37.5×25.3	寄託
16	寺内萬治郎	挿絵「ユウビンヤサン」（児童雑誌『キンダーブック・マネゴト』）	1934（昭和 9）年	印刷物	額装	37.5×25.3	寄託
17	寺内萬治郎	挿絵「ハヘ」（児童雑誌『キンダーブック・ムシノセイクッツ』）	1935（昭和 10）年	印刷物	額装	37.5×25.3	寄託
18	寺内萬治郎	挿絵「オヒサマトカゼノカミ」（児童雑誌『キンダーブック・ヒトクチバナシ』）	1937（昭和 12）年	印刷物	額装	37.5×25.3	寄託
19	寺内萬治郎	挿絵「タケノコノオケ」（児童雑誌『キンダーブック・オモチャハノニモヤマニモ』）	1938（昭和 13）年	印刷物	額装	37.5×25.3	寄託
（4）水彩作品							
20	寺内萬治郎	裸婦	制作年不詳	紙・鉛筆・水彩	額装	24.8×24.0	
21	寺内萬治郎	裸婦	制作年不詳	紙・鉛筆・水彩	額装	34.2×23.0	
22	寺内萬治郎	裸婦	制作年不詳	紙・鉛筆・水彩	額装	31.6×20.2	
23	寺内萬治郎	裸婦	制作年不詳	紙・鉛筆・水彩	額装	20.0×26.4	
24	寺内萬治郎	裸婦	制作年不詳	紙・鉛筆・水彩	額装	18.0×28.5	
25	寺内萬治郎	裸婦	制作年不詳	紙・鉛筆・水彩	額装	22.0×28.7	

所蔵品展Ⅱ　裸婦を描いて―寺内萬治郎の世界―

会期　2020（令和２）年８月 26 日（水）～12 月 21 日（月）
会場　蘭島閣美術館別館

関連行事
●海いろ空いろ絵かき島
2020（令和２）年８月 26 日（水）～12 月 21 日（月）
期間中の土・日・祝日

おもな関連記事、番組など
○「ART」『くれえばん』11 月号、株式会社 SA メディアラボ　○「市政だより くれ」９月号、呉市

印刷物
●チラシ A４判（両面刷り）　3,000 部
●出品目録 A４判（片面刷り）

目的
明治以降、本格的に導入された油彩画の、画題のひとつとして西洋からもたらされた裸婦を描くという伝統。それまでの日本の美術の伝統にはなかった女性の裸体を描く、という行為をひたむきに、そして清純な作品として昇華させた寺内萬治郎。女性の身体に秘められた逞しい生命力や自立性を描き取ったその作品は、今も多くの人々を魅了する。
今回の展示では、寺内萬治郎の代表作「髪」を始め、油彩画を中心に作品を紹介した。

展示内容
（１）寺内萬治郎の代表作
晩年の油彩画の大作４点を取り上げた。人物背景を黒、または赤といった原色とし、あくまで裸婦そのものを対象として浮かび上がらせる手法がよく活きる晩年の大作として紹介した。生活感のある生身の女性をあるがままに描き取ることにより女性の力強さを表す寺内萬治郎の特質を、最初のコーナーで体感できるよう配置した。

（２）寺内萬治郎の油彩画を中心に
寺内萬治郎が手がけた油彩画を紹介した。物語性を盛り込まず、黒色の中に立つ女性像というシンプルな構図で描き続けた作品群を通して、寺内萬治郎が表現しようとした堅固な人間像を展観できる展示とした。
また、60 歳の時に描いた「自画像」、絶筆となった「裸婦」などを展示した。

（山崎環）

展示風景

展示風景

蘭島閣美術館別館　所蔵品展Ⅱ　「裸婦を描いて―寺内萬治郎の世界―」　出品リスト　＊無表記は財団所蔵

No.	作家名	作品名	制作年	材質技法	形状	寸法（縦 × 横）cm	所蔵
（1）寺内萬治郎の代表作							
1	寺内萬治郎	横臥裸婦	1958（昭和 33）年	キャンバス・油彩	額装	96.0×144.0	寄託
2	寺内萬治郎	裸婦	1964（昭和 39）年	キャンバス・油彩	額装	90.6×64.9	寄託
3	寺内萬治郎	横臥裸婦	1957（昭和 32）年	キャンバス・油彩	額装	72.0×115.5	寄託
4	寺内萬治郎	髪	1961（昭和 36）年	キャンバス・油彩	額装	73.0×116.5	寄託
5	寺内萬治郎	裸婦	1951（昭和 26）年	キャンバス・油彩	額装	72.5×90.8	
（2）寺内萬治郎の油彩画を中心に							
6	寺内萬治郎	裸婦	1937（昭和 12）年	キャンバス・油彩	額装	73.0×61.2	
7	寺内萬治郎	裸婦	1951（昭和 26）年	キャンバス・油彩	額装	73.0×61.2	
8	寺内萬治郎	自画像	1950（昭和 25) 年	キャンバス・油彩	額装	43.7×36.2	寄託
9	寺内萬治郎	裸婦	1964（昭和 39) 年	キャンバス・油彩	額装	33.3×24.4	寄託
10	寺内萬治郎	裸婦	1950（昭和 25）年	キャンバス・油彩	額装	40.5×32.0	
11	寺内萬治郎	裸婦	1935-40（昭和 10-15）年	キャンバス・油彩	額装	33.6×24.3	
12	寺内萬治郎	金の首飾り	1937（昭和 12）年	キャンバス・油彩	額装	45.3×38.2	
13	寺内萬治郎	背を見せたる裸婦	1954（昭和 29）年	キャンバス・油彩	額装	33.3×24.5	
14	寺内萬治郎	裸婦立像	1933（昭和８）年	キャンバス・油彩	額装	46.0×29.3	
15	寺内萬治郎	紅白バラ	1924（大正 13）年	板・油彩	額装	33.4×23.6	寄託
16	寺内萬治郎	海	1935（昭和 10）年	キャンバス・油彩	額装	12.8×17.5	寄託
17	寺内萬治郎	裸婦	1960（昭和 35）年	キャンバス・油彩	額装	53.2×45.5	
18	寺内萬治郎	裸婦	1960（昭和 35）年	キャンバス・油彩	額装	25.0×20.5	
19	寺内萬治郎	裸婦	1939（昭和 14）年	キャンバス・油彩	額装	47.6×58.1	
20	寺内萬治郎	裸婦	制作年不詳	紙・鉛筆・水彩	額装	20.0×26.4	
21	寺内萬治郎	髪	制作年不詳	紙・木版	額装	27.2×24.1	
22	寺内萬治郎	裸婦	制作年不詳	紙・木版	額装	27.0×23.9	
23	寺内萬治郎	裸婦	制作年不詳	紙・リトグラフ	額装	70.0×52.0	
24	寺内萬治郎	裸婦	制作年不詳	紙・リトグラフ	額装	50.5×37.0	

所蔵品展Ⅲ　寺内萬治郎の歩み（1）

会期　2020（令和２）年 12 月 23 日（水）～2021（令和３）年５月 10 日（月）
会場　蘭島閣美術館別館

おもな関連記事、番組など
〇「市政だより くれ」４月号、呉市

印刷物
●チラシ A４判（両面刷り）　3,000 部
●出品目録 A４判（片面刷り）

目的
　寺内萬治郎は明治 23（1890）年に生まれた。東京美術学校西洋画科（現・東京芸術大学）に入学し、油彩技法の正統を学んだ寺内萬治郎は、裸婦表現を生涯にわたり追求した。
　日本女性の裸婦像の中に質実で堅牢な美しさを求め、背景描写を省き、物語性や情緒を寄せつけない骨太の裸婦像を描き出した寺内萬治郎の作品を、初期作品から年代順に紹介した。

展示内容
（１）寺内萬治郎の代表作
　晩年の油彩画の大作４点を取り上げた。人物背景を黒、または赤といった原色とし、あくまで裸婦そのものを対象として浮かび上がらせる手法がよく活きる晩年の大作として紹介した。生活感のある生身の女性をあるがままに描き取ることにより女性の力強さを表す寺内萬治郎の特質を、最初のコーナーで体感できるよう配置した。

（２）寺内萬治郎の油彩画
　終戦後から昭和 30 年代頃までに描かれた寺内萬治郎の油彩に焦点を当てた。敗戦の混乱期を生きる女性を象徴するかのような強い視線の「赤いオーバーの女」や、「背を見せたる裸婦」など、この頃、赤を印象的に使って女性の内面に迫った油彩画を展示した。

（３）大正の雑誌文化の中で
　東京在住時代、大正の雑誌創刊ブームの中で登場した児童向け雑誌の挿絵画家として活躍した時代の作品を紹介した。

（４）自画像、絶筆
　1950（昭和 25) 年に描かれた寺内萬治郎の「自画像」、絶筆となった 1964（昭和 39）年の「裸婦」を紹介した。

（５）版画
　寺内萬治郎の代表作を複製版画とした作品を展示した。
（山崎環）

展示風景

展示風景

蘭島閣美術館別館　所蔵品展Ⅲ　「寺内萬治郎の歩み（１）」　出品リスト　　＊無表記は財団所蔵

No.	作家名	作品名	制作年	材質技法	形状	寸法（縦 × 横）cm	所蔵
（１）寺内萬治郎の代表作							
1	寺内萬治郎	横臥裸婦	1958（昭和 33）年	キャンバス・油彩	額装	96.0×144.0	寄託
2	寺内萬治郎	裸婦	1964（昭和 39）年	キャンバス・油彩	額装	90.6×64.9	寄託
3	寺内萬治郎	髪	1961（昭和 36）年	キャンバス・油彩	額装	73.0×116.5	寄託
4	寺内萬治郎	横臥裸婦	1957（昭和 32）年	キャンバス・油彩	額装	72.0×115.5	寄託
（２）寺内萬治郎の油彩画							
5	寺内萬治郎	赤いオーバーの女	1947（昭和 22）年	キャンバス・油彩	額装	91.0×72.8	
6	寺内萬治郎	裸婦	1937（昭和 12）年	キャンバス・油彩	額装	73.0×61.2	
7	寺内萬治郎	裸婦	1960（昭和 35）年	キャンバス・油彩	額装	25.0×20.5	
8	寺内萬治郎	裸婦	1960（昭和 35）年	キャンバス・油彩	額装	53.2×45.5	
9	寺内萬治郎	裸婦	1935-40（昭和 10-15）年	キャンバス・油彩	額装	33.6×24.3	
10	寺内萬治郎	紅白バラ	1924（大正 13）年	板・油彩	額装	33.4×23.6	寄託
11	寺内萬治郎	背を見せたる裸婦	1954（昭和 29）年	キャンバス・油彩	額装	33.3×24.5	
12	寺内萬治郎	裸婦	1939（昭和 14）年	キャンバス・油彩	額装	47.6×58.1	
13	寺内萬治郎	金の首飾り	1937（昭和 12）年	キャンバス・油彩	額装	45.3×38.2	
14	寺内萬治郎	頭巾の女	1947（昭和 22）年	キャンバス・油彩	額装	91.0×72.8	寄託
（３）大正の雑誌文化の中で　No.15〜18 は童話集『青い眼の人形』［初出：童謡集『青い眼の人形』野口雨情著 金の星社　1924（大正 13）年 6 月 1 日発行］からの復刻版画							
15	寺内萬治郎	挿絵「くたびれこま」復刻木版	1924（大正 13）年	紙・木版	額装	18.0×11.6	寄託
16	寺内萬治郎	挿絵「赤い櫻ンぼ」復刻木版	1924（大正 13）年	紙・木版	額装	19.1×11.6	寄託
17	寺内萬治郎	挿絵「沙の数」復刻木版	1924（大正 13）年	紙・木版	額装	18.0×11.6	寄託
18	寺内萬治郎	挿絵「和歌の浦」復刻木版	1924（大正 13）年	紙・木版	額装	18.0×11.6	寄託
19	寺内萬治郎	挿絵「オチヤノジカン」（児童雑誌『キンダーブック・トケイ』）	1932（昭和７）年	印刷物	額装	25.2×31.9	寄託
20	寺内萬治郎	挿絵「トコヤサンノオダウグ」（児童雑誌『キンダーブック・おだうぐ』）	1932（昭和７）年	印刷物	額装	25.3×37.5	寄託
21	寺内萬治郎	挿絵「ハチノダイクサンウチツクリ」（児童雑誌『キンダーブック・小サイ蟲』）	1933（昭和８）年	印刷物	額装	25.3×37.5	寄託
（４）自画像、絶筆							
22	寺内萬治郎	自画像	1950（昭和 25) 年	キャンバス・油彩	額装	43.7×36.2	寄託
23	寺内萬治郎	裸婦	1964（昭和 39) 年	キャンバス・油彩	額装	33.3×24.4	寄託
（５）版画							
24	寺内萬治郎	裸婦	制作年不詳	紙・リトグラフ	額装	50.5×37.0	
25	寺内萬治郎	裸婦	制作年不詳	紙・リトグラフ	額装	50.5×37.0	
26	寺内萬治郎	裸婦	制作年不詳	紙・リトグラフ	額装	70.0×52.0	

所蔵品展Ⅰ　三岸節子　花より花らしく
同時開催　須田国太郎の見つめた自然

会期　2020（令和２）年４月８日（水）～８月３日（月）
＊2020（令和２）年３月９日（月）から５月10日（日）まで、新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館
会場　三之瀬御本陣芸術文化館

おもな関連記事、番組等
○「市政だより くれ」４月号、呉市　○「市政だより くれ」５月号、呉市　○「市政だより くれ」６月号、呉市　○「市政だより くれ」７月号、呉市　○「ART」『月刊くれえばん』７月号、株式会社ＳＡメディアラボ　○「おでかけナビ」中国新聞セレクト、2020（令和２）年７月16日

印刷物
●チラシＡ４判（両面刷り）　6,500部
●出品目録Ａ４判（片面刷り）

目的
1905（明治 38）年に愛知県に生まれた三岸節子。女性が社会で活躍することが難しかった時代に、生涯を通じて女流画家の地位向上に努めた画家である。本展では、所蔵品から三岸節子の名品を彼女が綴った言葉と並べて紹介した。同時開催として、三岸も一時所属していた独立美術協会で活躍した須田国太郎の作品を展示し、その自然へのまなざしを辿った。

展示内容
（１）三岸節子「花より花らしく」
女性が社会で活躍することが難しかった時代に、女流画家の先駆者として日本洋画壇を切り開いていった三岸節子。1994（平成６）年に女性洋画家として初めて文化功労者に顕彰されるなど、その生き方は、画家を目指す女性たちに大きな力と勇気を与えた。
本コーナーでは、1960年代から1980年代までの各年代に描かれた、生命力に満ちた花の作品の他、三岸が埴輪の原始的な純粋美とエネルギーの強さに惹かれ、モチーフとして好んで描いた「二つの鳥」「二つの太陽」を紹介。さらに風景画では、神奈川県大磯の自然に囲まれたアトリエで描いた「梅の花咲く」や、63 歳からの約５年５ヶ月、母として、妻としての役割から解放され、南仏カーニュに居を構えた時期の希望に満ちた「カーニュの窓」を展示。その後 70 歳の頃、ブルゴーニュのヴェロンに移り住み、理想とした環境であった一方で孤独をともなった三岸。その矛盾と葛藤がグレーの空や夜明けの黒い鳥の群れに現れているかのような「ヴェロンの冬」や「ヴェロンの夜明け」を紹介。所蔵品の油彩画 13 点を公開し、年代順にその軌跡を辿った。
サブタイトルの「花より花らしく」は女流画家として苦難の道を切り開いてきた三岸が、72 歳の時に自らの軌跡を綴ったエッセイ集のタイトルである。画壇の中で女性画家の置かれた立場や生活に根付いた画論、夫であった画家の三岸好太郎や息子について、フランスでの日々、花が大好きであることなど三岸の絵を描く背景や根底が語られている。描いた花を分身と語る三岸の作品は、女性の想いや

展示風景

展示風景

葛藤が織り込まれている。花より花らしくありたいと願い、画家としての人生を歩み続けた三岸節子の生命賛歌に満ちた作品を、エッセイ集の言葉とともに紹介した。

（2）須田国太郎の見つめた自然

須田国太郎は植物、静物、風景とさまざまな角度から自然を描いている。須田は家のすぐ近くの京都市動物園や植物園に足繁く通い、写生をするなど自然に深い関心を抱いていた。今回展示した「雑草」や「花と鳥」では、庭の花や身近な対象など、何気ない風景も独自の視点で作品にしている。これらの着眼点には須田の人となりがうかがえる。後年は、県外に頻繁に出向き、その風景を写生や作品で残している。奈良に今もある梅の名所を油彩で描いた「月瀬平」をはじめ、広島で墨や水彩を使って写生した「尾道風景」や「厳島」などを紹介。写生画や油彩画を通して、須田国太郎の見つめた自然を紹介した。

（3）杉山寧の見つめた自然

日本画家、杉山寧の作品を紹介。「向日葵」「冬がまえ」など、季節感や温かさ、ノスタルジーを感じる杉山寧が見つめた自然を、1965（昭和 40）年から 1966（昭和 41) 年に文芸春秋の表紙を飾った原画の中から 12 点紹介した。（本コーナーは下蒲刈島と本州を結ぶ安芸灘大橋の開通 20 周年記念関連イベントとして展示）

（湯浅ひろみ）

三之瀬御本陣芸術文化館　所蔵品展Ⅰ　「三岸節子　花より花らしく／須田国太郎の見つめた自然」　出品リスト　　＊無表記は財団所蔵

No.	作家名	作品名	制作年	材質技法	形状	寸法（縦 × 横）cm	所蔵
（1）三岸節子「花より花らしく」							
1	三岸節子	花	1960 年代	キャンバス・油彩	額装	53.2×45.7	
2	三岸節子	高原の花	1962（昭和 37）年	キャンバス・油彩	額装	90.0×72.0	
3	三岸節子	花	1970 年代	キャンバス・油彩	額装	41.0×32.0	
4	三岸節子	花	1980 年代	キャンバス・油彩	額装	27.3×22.2	
5	三岸節子	二つの鳥	1956（昭和 31）年	キャンバス・油彩	額装	72.7×116.7	
6	三岸節子	二つの太陽	1967（昭和 42）年	キャンバス・油彩	額装	61.5×110.5	
7	三岸節子	梅の花咲く	1964（昭和 39）年	キャンバス・油彩	額装	72.7×90.9	
8	三岸節子	静物	1965（昭和 40）年	キャンバス・油彩	額装	91.0×116.7	
9	三岸節子	カーニュの窓	1969（昭和 44）年	キャンバス・油彩	額装	90.8×70.3	
10	三岸節子	アルスの広場への道	1977（昭和 52）年	キャンバス・油彩	額装	73.0×92.0	
11	三岸節子	ヴェロンの冬	1978（昭和 53）年	キャンバス・油彩	額装	72.7×90.9	
12	三岸節子	ヴェロンの夜明け	1979（昭和 54）年	キャンバス・油彩	額装	72.7×90.9	
13	三岸節子	カダケス	1987（昭和 62）年	キャンバス・油彩	額装	50.0×72.7	
（2）須田国太郎の見つめた自然							
14	須田国太郎	雑草	1940（昭和 15）年	キャンバス・油彩	額装	65.0×91.0	
15	須田国太郎	花と鳥	1941-44（昭和 16-19）年	キャンバス・油彩	額装	33.4×24.3	
16	須田国太郎	紅薔薇	1942（昭和 17）年	キャンバス・油彩	額装	44.5×52.0	
17	須田国太郎	ばら	1945-50（昭和 20-25）年	紙・水彩	額装	27.2×24.0	
18	須田国太郎	薔薇	制作年不詳	色紙・パステル	額装	24.4×27.5	
19	須田国太郎	ざくろ	1940（昭和 15）年	キャンバス・油彩	額装	24.3×33.4	
20	須田国太郎	静物（蔬菜）	1940（昭和 15）年	キャンバス・油彩	額装	52.8×45.4	
21	須田国太郎	魚	1947-48（昭和 22-23）年	キャンバス・油彩	額装	32.3×41.2	
22	須田国太郎	モヘンテ	1922（大正 11）年	キャンバス・油彩	額装	66.6×81.4	
23	須田国太郎	牛	1934（昭和９）年	キャンバス・油彩	額装	65.0×80.0	
24	須田国太郎	花山天文台遠望	1931（昭和６）年	キャンバス・油彩	額装	64.5×90.5	
25	須田国太郎	富士遠望	1943-44（昭和 18-19）年	キャンバス・油彩	額装	45.0×52.6	
26	須田国太郎	月瀬平	1949（昭和 24）年	キャンバス・油彩	額装	45.5×53.0	
27	須田国太郎	尾道風景	制昨年不詳	紙本墨画	額装	31.7×42.7	
28	須田国太郎	厳島	1954（昭和 29）年	紙・水彩	額装	44.2×61.8	

（3）杉山寧の見つめた自然　（安芸灘大橋開通 20 周年記念イベント　関連展示）

29	杉山寧	アルノ河	1965（昭和 40）年	麻布・彩色	額装	17.7×17.7	
30	杉山寧	冬の陽	1966（昭和 41）年	麻布・彩色	額装	17.7×17.7	
31	杉山寧	ロバに乗る男	1965（昭和 40）年	麻布・彩色	額装	17.7×17.7	
32	杉山寧	古都の民家	1966（昭和 41）年	麻布・彩色	額装	17.7×17.7	
33	杉山寧	岩	1966（昭和 41）年	麻布・彩色	額装	17.7×17.7	
34	杉山寧	城	1966（昭和 41）年	麻布・彩色	額装	17.7×17.7	
35	杉山寧	馬	1966（昭和 41）年	麻布・彩色	額装	17.7×17.7	
36	杉山寧	向日葵	1966（昭和 41）年	麻布・彩色	額装	17.7×17.7	
37	杉山寧	南海の魚	1966（昭和 41）年	麻布・彩色	額装	17.7×17.7	
38	杉山寧	渡り	1966（昭和 41）年	麻布・彩色	額装	17.7×17.7	
39	杉山寧	冬がまえ	1966（昭和 41）年	麻布・彩色	額装	17.7×17.7	
40	杉山寧	りんご	1966（昭和 41）年	麻布・彩色	額装	17.7×17.7	

所蔵品展Ⅱ　須田国太郎と能 ー芸に魅せられた画家たちー

会期　2020（令和２）年８月５日（水）～ ９月 22 日（火・祝）
会場　三之瀬御本陣芸術文化館

おもな関連記事、番組等
○「市政だより くれ」８月号、呉市　○「市政だより くれ」９月号、呉市

印刷物
●チラシ A４判（両面刷り）　6,500 部
●出品目録 A４判（片面刷り）

目的
　須田国太郎は京都に生まれ、大正から昭和期に活躍した洋画家であり美術研究者である。学者として芸術の道に足を踏み入れた須田は、幅広く芸術に関心を寄せ、1910（明治 43）年、19 歳の頃から独学で油彩画を始めるとともに、能の舞に添えられる声楽部分（詞章や台詞）である謡（うたい）を習い始めた。京都を拠点とする能の流派、金剛流の高岡鵜三郎や金剛巌に師事し、66 歳頃までの約 50 年という長い間続けた。須田自身「自分は『能』の方はものになったが、絵の方はまだまだものになっていない」と語っていたらしく、それは趣味の域を超えていたと言われる。
　本展では、能に魅せられた須田が鑑能時に手元をほとんど見ることなく何枚も描きとめた「角田川」をはじめとする能のスケッチを紹介。その他、スペイン留学時の作品や 40 代で画壇デビューした時の初個展出品の作品、スペインの伝統国技である闘牛に魅せられて撮影した写真などの展示をおこなった。
　あわせて、芸や役者に魅せられ、その魅力を画家それぞれの視点で捉えた日本画、油彩画、錦絵を通してさまざまな表現を紹介した。

展示内容
（１）須田国太郎と能
　須田は 1927（昭和２）年頃から 1957（昭和 32）年頃の約 30 年間、およそ 6000 点に及ぶ能のスケッチを残している。本コーナーでは、1951（昭和 26）年６月 23 日に、京都市室町にあった金剛能楽堂で開催された「金櫻會（第三回）能組」での演目『角田川』、『盛久』、『鵜飼』を描いたスケッチの他、1936(昭和 11) 年制作の「能–卒塔婆小町」のスケッチを紹介した。これらは、丁寧な素描を目的としたものではなく、鉛筆でメモのように素早く描かれ、演目と役者の特徴的な場面や瞬間をコマ撮りのように捉えている。能の動きの中にある美を掴もうとする須田の勢いが感じられ、並べると能の静かな動きが見えてくるような作品である。展示では演目の内容や場面説明もあわせて紹介した。

（２）芸に魅せられた画家たち
　須田国太郎が能に魅せられたように、多くの画家たちもまた、芸に関心を抱き作品にした。能や歌舞伎の役者、舞妓などが芸を志し、それを極める姿、さらに彼らの所作や衣装には、人を惹きつける美しさがある。本コーナーでは、伝統芸能の魅力を、画家がそれぞれの視点で捉えて表現し

展示風景

展示風景

た作品を、日本画、油彩画、錦絵といった、さまざまなジャンルから紹介した。

虫干のため鮮やかな能装束がたくさん掛けられた部屋の中に、能面を優しい眼差しで見つめる和装婦人を描いた日本画家、池田栄廣の「能衣裳」や、見習いのあどけない少女たちが、宴の席での踊りを障子越しに眺め、影を見ながら先輩の芸を学ぼうとしている愛らしい姿を描いた池田琳子の「かげぼうし」など、変わった視点で描かれた作品を紹介。また、役者絵を得意とした日本画家の橋本明治、素朴な働く人々の描写を得意とした洋画家、吉井淳二がそれぞれ舞妓をモデルにした「麗」と「舞妓（鼓の音）」を展示。同じ主題でも作者の視点や日本画と油彩画という材料による相違など表現の比較をした。さらに、洋画家、北田和広が生涯にわたり追い続けた、宮島の厳島神社で古くから奉奏される舞楽を主題とした「厳島' 90 水無月」を紹介した。

錦絵では歌川豊国（三代）と歌川広重の合作である「東都高名会席盡」シリーズから一部を紹介。江戸時代の名高い懐石料理屋の謎解きが隠れており、料亭の屋号や場所にちなんだ歌舞伎役者が描かれた作品である。その他、江戸時代に活躍したおよそ 97 名に及ぶ力士の似顔絵が、出身藩と身長とともに描かれた「大日本大相撲勇力関取鏡」や「土蜘」、「弁慶勧進帳」といった、人気を博した歌舞伎演目の役者絵を紹介した。

（湯浅ひろみ）

三之瀬御本陣芸術文化館　所蔵品展Ⅱ　「須田国太郎と能 ー芸に魅せられた画家たちー」　出品リスト

＊無表記は財団所蔵

No.	作家名	作品名	制作年	材質技法	形状	寸法（縦 × 横）cm	所蔵
（1）須田国太郎と能							
1	土門拳	照影	1953（昭和 28）年	紙・プリント	額装	119.5×89.5	
2	須田国太郎	モヘンテ	1922（大正 11）年	キャンバス・油彩	額装	66.6×81.4	
3	須田国太郎	花山天文台遠望	1931（昭和６）年	キャンバス・油彩	額装	64.5×90.5	
4-22	須田国太郎	能（角田川）　全 19 図	1951（昭和 26）年	紙・鉛筆	額装	各 22.3×27.0	
23	須田国太郎	牛	1934（昭和９）年	キャンバス・油彩	額装	65.0×80.0	
24	須田国太郎	Madrid Plaza de Toros（マドリード闘牛場）	1919-23（大正８-12）年頃	写真		10.8×8.0	
25	須田国太郎	Madrid Plaza de Toros（マドリード闘牛場）	1919-23（大正８-12）年頃	写真		8.5×11.0	
26	須田国太郎	Madrid Plaza de Toros（マドリード闘牛場）	1919-23（大正８-12）年頃	写真		11.0×8.4	
27	須田国太郎	Plaza de Toros de Valencia（バレンシア闘牛場）	1922（大正 11）年	写真		10.5×8.0	
28-29	須田国太郎	能（盛久）　全２図	1951（昭和 26）年	紙・鉛筆	額装	各 22.3×27.0	
30	須田国太郎	能（卒塔婆小町）	1936（昭和 11）年	紙・鉛筆	額装	27.2×38.5	
31-33	須田国太郎	能（鵜飼）　全３図	1951（昭和 26）年	紙・鉛筆	額装	各 22.3×27.0	
34	須田国太郎	夏雲	1951（昭和 26）年	キャンバス・油彩	額装	38.0×45.0	
35	須田国太郎	雨後（水間村）	1935（昭和 10）年	キャンバス・油彩	額装	65.0×80.3	寄託
（2）芸に魅せられた画家たち							
36	池田栄廣	能衣裳	1990（平成２）年	紙本彩色	額装	178.7×224.2	
37	池田琳子	かげぼうし	1987（昭和 62）年	紙本彩色	額装	151.5×197.0	
38	橋本明治	麗	1970（昭和 45）年	紙本彩色	額装	73.0×50.0	
39	吉井淳二	舞妓（鼓の音）	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	53.0×45.4	
40	北田和広	厳島 '90 水無月	1990（平成２）年	キャンバス・油彩	額装	116.7×116.7	
41	歌川広重・ 歌川豊国（三代）	《東都高名会席盡》 四代目市川小団次の仲麿	1853（嘉永６）年	紙・木版	額装	36.5×24.7	
42	歌川広重・ 歌川豊国（三代）	《東都高名会席盡》 四代目中村歌右衛門の平清盛	1853（嘉永６）年	紙・木版	額装	35.3×24.0	
43	歌川広重・ 歌川豊国（三代）	《東都高名会席盡》 三代目嵐吉三郎の弁慶	1852（嘉永５）年	紙・木版	額装	35.9×23.7	
44	歌川広重・ 歌川豊国（三代）	《東都高名会席盡》 三代目岩井粂三郎の八百屋お七	1853（嘉永６）年	紙・木版	額装	36.1×24.6	
45	歌川広重・ 歌川豊国（三代）	《東都高名会席盡》 三代目岩井粂三郎のすしや娘お里	1852（嘉永５）年	紙・木版	額装	35.6×24.4	

46	歌川広重・ 歌川豊国（三代）	《東都高名会席盡》 五代目松本幸四郎の猿島惣太	1852（嘉永５）年	紙・木版	額装	36.4×24.7	
47	歌川広重・ 歌川豊国（三代）	《東都高名会席盡》 四代目中村歌右衛門の浦しま	1853（嘉永６）年	紙・木版	額装	36.6×24.4	
48	歌川豊国（三代）	《弁慶勧進帳》 四代目市川小団次の冨樫 初代河原崎権十郎の弁慶 三代目岩井粂三郎の義経	1859（安政６）年	紙・木版	額装	 35.8×26.0 35.8×25.5 35.8×24.7	
49	楊洲周延	《土蜘》 初代市川左團次の平井保昌 五代目尾上菊次郎の土蜘の精 九代目市川團十郎の狂言師	1881（明治 14）年以降刊行	紙・木版	額装	34.5×47.9	
50	歌川国輝（二代）	大日本大相撲勇力関取鏡	1867（慶応３）年	紙・木版	額装	35.3×73.1×2 枚	

所蔵品展Ⅲ　池田栄廣の世界
同時開催　須田国太郎の描く生き物

会期　2020（令和２）年 11 月 12 日（木）～ 2021（令和３）年１月 25 日（月）
会場　三之瀬御本陣芸術文化館

おもな関連記事、番組等
〇「市政だより くれ」12 月号、呉市　〇「市政だより くれ」１月号、呉市　〇「池田栄廣の画業紹介　呉出身の日本画家」中国新聞、2021（令和３）年１月６日

印刷物
●チラシ A４判（両面刷り）　6,500 部
●出品目録 A４判（片面刷り）

目的
本展では、1901（明治 34）年に呉市広中新開に生まれた日本画家、池田栄廣の作品を紹介した。池田は、初期は帝展（帝国美術院展覧会）、後に院展（日本美術院）を活動の場とし、愛らしい動物を描くことを終生得意とした。40 代からは、人々の働く姿や技術を持つ人に注目し、人々への敬意と美を表現した。所蔵する約 28 点の池田栄廣の作品から 13 点を公開し、その軌跡を辿り、呉市ゆかりの画家を広く知ってもらうことに努めた。同時開催として、洋画家の須田国太郎が描いた生き物に焦点を当て、その作品もあわせて紹介した。

展示内容
（１）池田栄廣の世界
池田栄廣は 1901（明治 34）年に呉市広中新開に生まれた。広島県から大分県に移住後、運転手として働くかたわら日本画を描いていたが、本格的に学ぶため京都に出て、堂本印象の画塾、東丘社に入門。26 歳の頃、イヌをモチーフにした作品で帝展に初入選し、以降帝展で入選を重ねる。さらに、画塾主催の展覧会で出品を続けた。この頃から、イヌやネコなど身近な生き物は池田がよく好んで描くテーマとなった。
本コーナーでは始めに、小川に沿い、四季の花鳥が襖４面に渡って描かれた「四季襖絵」や、同じく四季の身近な草花とともにイヌやウサギ、鳥といった愛らしい動物が登場する「春秋屏風」など、余白を意識した古典的な構図や表現で描かれた清涼感のある作品を紹介。続いて、「ペルシャ猫」や「シャム猫」、「グレーファンド」など、外国由来の当時はめずらしい種の動物を、斬新な構図と色使いで描いた作品を展示。池田が得意とした動物主題の作品群を紹介した。
1940 年代になると、戦争や改組問題で揺れる画壇を背景に、栄廣自身も制作における模索期を迎え、1941（昭和 16）年、40 歳の時に東丘社を退塾。代わって院展で活躍していた日本画家、安田靫彦に師事する。心機一転した池田の作品には、人物が登場するようになる。翌年、院展に初入選し、以降、90 歳で亡くなるまで、ほぼ毎年出品し、院展で活躍し続けた。本コーナーの後半は、仏を無心に彫る姿を描いた「仏師」や看護師を描いた「手術室」など、働く人の美しさと敬意が表現された作品を紹介した。

展示風景

展示風景

（2）須田国太郎の描く生き物

洋画家で美術史家であった須田国太郎。須田の常設展示館として、２階では須田が描いた生き物に注目して作品を展示した。池田栄廣の描いた生き物たちと比較してもらうことも目的とした。須田は風景、人物など幅広い画題に取り組んでおり、その中でも動物を多く描いた。自宅に近かった京都市動物園にも頻繁に写生に出かけている。本コーナーでは「鷲」「雉」「黒つぐみ」「大鶴」など須田が好んだ鳥の作品や、「馬」や「樹上猿」、「黄豹」など京都市動物園の取材から生まれた力強い作品を紹介した。

（3）杉山寧

日本画家、杉山寧の作品を紹介。「オアシスの少女」「ミラノのクリスマス」など世界各国に取材した、温かさを感じる作品を展示。1965（昭和 40）年から 1966（昭和 41）年に文芸春秋の表紙を飾った原画の中から 10 点紹介した。（本コーナーは下蒲刈島と本州を結ぶ安芸灘大橋の開通 20 周年記念関連イベントとして展示）

（湯浅ひろみ）

三之瀬御本陣芸術文化館　所蔵品展Ⅲ　「池田栄廣の世界／須田国太郎の描く生き物」　出品リスト

＊無表記は財団所蔵

No.	作家名	作品名	制作年	材質技法	形状	寸法（縦 × 横）cm	所蔵
（1）池田栄廣の世界							
1	池田栄廣	四季襖絵（冬）	制作年不詳	紙本彩色	額装	172.5×90.5	
2	池田栄廣	四季襖絵（秋）	制作年不詳	紙本彩色	額装	172.5×90.5	
3	池田栄廣	四季襖絵（夏）	制作年不詳	紙本彩色	額装	172.5×90.5	
4	池田栄廣	四季襖絵（春）	制作年不詳	紙本彩色	額装	172.5×90.5	
5	池田栄廣	春秋屏風（春）	制作年不詳	紙本彩色	額装	167.7×185.2	
6	池田栄廣	春秋屏風（秋）	制作年不詳	紙本彩色	額装	167.7×185.2	
7	池田栄廣	ペルシャ猫	制作年不詳	紙本彩色	額装	118.5×118.5	
8	池田栄廣	グレーファンド	1983（昭和 58）年	紙本彩色	額装	72.6×87.4	
9	池田栄廣	シャム猫	1991（平成３）年	紙本彩色	額装	103.1×103.1	
10	池田栄廣	犬	1989（平成元）年	紙本彩色	額装	103.1×103.1	
11	池田栄廣	仏師	制作年不詳	紙本彩色	額装	211.5×166.0	
12	池田栄廣	手術室	制作年不詳	紙本彩色	額装	100.0×80.4	
13	池田栄廣	上海所見	1972（昭和 47）年	紙本彩色	額装	148.2×72.7	
（2）須田国太郎の描く生き物							
14	須田国太郎	鷲	1948（昭和 23）年	紙本墨画淡彩	額装	21.0×60.4	
15	須田国太郎	雉	制作年不詳	紙・水彩	額装	23.3×27.2	
16	須田国太郎	黒つぐみ	1942（昭和 17）年	キャンバス・油彩	額装	45.5×53.0	
17	須田国太郎	瑞鳥	1940（昭和 15）年頃	キャンバス・油彩	額装	31.7×48.8	
18	須田国太郎	花と鳥	1941－44（昭和 16－19）年	キャンバス・油彩	額装	33.4×24.3	
19	須田国太郎	魚	1947－48（昭和 22－23）年	キャンバス・油彩	額装	32.3×41.2	
20	須田国太郎	紅薔薇	1942（昭和 17）年	キャンバス・油彩	額装	44.5×52.0	
21	須田国太郎	雑草	1940（昭和 15）年	キャンバス・油彩	額装	65.0×91.0	
22	須田国太郎	馬	1944（昭和 19）年頃	紙本墨画	額装	27.0×24.0	
23	須田国太郎	樹上猿	1950（昭和 25）年	紙・水彩・鉛筆	額装	42.7×54.5	
24	須田国太郎	大鶴	制作年不詳	紙本墨画淡彩	額装	27.0×24.2	
25	須田国太郎	黄豹	1944（昭和 19）年	キャンバス・油彩	額装	41.0×53.0	
26	須田国太郎	夫婦の像	1944（昭和 19）年	キャンバス・油彩	額装	45.6×53.0	
27	須田国太郎	牛	1934（昭和９）年	キャンバス・油彩	額装	65.0×80.0	
28	須田国太郎	渓流の鷲	1942（昭和 17）年	キャンバス・油彩	額装	38.0×45.5	
29	須田国太郎	猛禽	1946（昭和 21）年	紙本墨画淡彩	軸装	90.5×33.6	
30	須田国太郎	樹に止まった鷲	制作年不詳	紙本墨画淡彩	額装	16.3×52.0	
31	須田国太郎	須田国太郎絵付け花瓶「鷲」	制作年不詳	陶器	高 23.8　口径 8.7　胴径 15.0		
（3）杉山寧　（安芸灘大橋開通 20 周年記念イベント　関連展示）							
32	杉山寧	春の歌	1965（昭和 40）年	麻布・彩色	額装	17.7×17.7	

33	杉山寧	サッカーラにて	1965（昭和 40）年	麻布・彩色	額装	17.7×17.7	
34	杉山寧	オアシスの少女	1965（昭和 40）年	麻布・彩色	額装	17.7×17.7	
35	杉山寧	マカオの海	1965（昭和 40）年	麻布・彩色	額装	17.7×17.7	
36	杉山寧	乙女の柱	1965（昭和 40）年	麻布・彩色	額装	17.7×17.7	
37	杉山寧	落葉と寺院	1965（昭和 40）年	麻布・彩色	額装	17.7×17.7	
38	杉山寧	ミラノのクリスマス	1965（昭和 40）年	麻布・彩色	額装	17.7×17.7	
39	杉山寧	土偶	1966（昭和 41）年	麻布・彩色	額装	17.7×17.7	
40	杉山寧	渡り	1966（昭和 41）年	麻布・彩色	額装	17.7×17.7	
41	杉山寧	冬がまえ	1966（昭和 41）年	麻布・彩色	額装	17.7×17.7	

所蔵品展Ⅳ　須田国太郎の黒 –Suda’s black– 画家たちの黒

会期　2021（令和３）年１月 27 日（水）～ ４月 19 日（月）
会場　三之瀬御本陣芸術文化館

関連行事
●ワークショップ
「ひっかきお絵かき　缶バッジプラス＋」
2021（令和３）年２月７日（日）、３月７日（日）
午前 10 時から午後２時 ／定員：１時間につき３名

おもな関連記事、番組等
〇「市政だよりくれ」２月号、呉市　〇「市政だよりくれ」３月号、呉市　〇「市政だよりくれ」４月号、呉市　〇「ART」『月刊くれえばん』３月号、株式会社ＳＡメディアラボ　〇「広域都市圏イベントガイド」『り～ぶら（Instagram）』広島市広域都市圏推進課、2021（令和３）年３月７日

印刷物
●チラシＡ４判（両面刷り）　6,500 部
●出品目録Ａ４判（片面刷り）

目的
色はイメージや感情などを人に喚起させる力を秘めている。例えば、黒なら高級感、重厚感、かっこいい、恐怖や不安など人や場面によってさまざまなイメージが思い浮かぶ。さらに黒は、他の色を引き立てる働きや囲んだ色を鮮明にする働きなど効果は多様で、強い影響力を持つ。
こうした黒の持つ力を、芸術家たちはそれぞれの表現につなげていった。黒にはどんな思いが隠されているのであろうか。本展では須田国太郎をはじめとし、黒を画面に活用して芸術的表現につなげた洋画家たちの作品をその特徴と合わせて紹介した。

展示内容
（１）須田国太郎の黒
巧みな黒の表現で知られる画家、須田国太郎。その表現には、純粋に黒の絵具を活用した作品もあるが、一見黒に見える部分に、実は複数の色が見え隠れしている作品も少なくない。描いたり削ったりの末に生まれたマチエールや、油絵具の透明性を活用して、赤や緑、茶色など色彩の層を重ねることで深い黒を生み出している。本コーナーでは、黒を効果的に画面構成に活用した須田国太郎の独特な黒の表現を４つのセクションで辿った。
＜明暗による空間表現＞では、近景を黒く暗く、遠景を明るく描き、明暗の対比で奥行きのある空間を作り出す、須田が得意とした表現を「花山天文台遠望」他３点で紹介。
＜逆光表現＞では、対象を逆光のシルエットのように黒く描き、その存在感を深みと厚みのあるマチエールで仕上げている「牛」や「黒つぐみ」など５点で紹介。
＜墨による表現＞では日本的感性と洋画的視点が混在した「馬」や「尾道風景」など墨を使った作品を５点紹介。
＜黒い背景＞では、西洋のバロック絵画のように、黒を

展示風景

展示風景

背景にし、人物や動物など対象を黒の持つ力で闇から浮き立つように描いた「黄豹」や「夫婦の像」など４点を紹介。須田国太郎のさまざまな黒の表現を展観した。

（２）画家たちの黒

本コーナーでは４名の洋画家たちによる各人各様の黒の表現を紹介した。

女性美と画面上の構築美を追求した林武の黒。林の後期の特徴である、影を描かかないことによる平面化や色彩の構築美は、赤、黄、青など原色で明度の高い色彩のコントラストを生かすため、色や形の境に黒い輪郭線を引くことで実現している。晩年に至るほど画家が目指した単純化に向けて、これらが明確に表現されていく様子がわかるように年代順に「前向きの女」など３点を紹介した。

リズミカルな筆運びで臨場感あふれる長谷川利行の黒。現場主義の画家で、対象を目の前に速筆で描くことが多かった。長谷川は元来、色彩感覚に優れており、鮮やかな色彩と並び多くの作品で、部分的に黒を使用している。作品にはどこかリズミカルな躍動感がある。対象を純粋に見つめ、心のままに描く作者の素直さが伝わってくる。街のざわめきや店内の音楽とともに香りが漂ってきそうなカフェを描いた「新宿風景」などを紹介した。

海外生活の期待と喜びの反面、孤独と不安も描いた三岸節子の黒。63 歳の時に南仏カーニュに移住した画家は、新たな環境での生活と制作に期待と喜びを抱いた。青を基調に赤、黄、白に黒い線や面がバランス良く描かれ、軽快な雰囲気があふれる「カーニュの窓」を紹介。71 歳の頃、ヴェロンに移住。年齢と経験を重ねた画家には、理想の暮らしを実現した反面、孤独という陰が生まれ初めた。鮮やかな色彩は消え、黒やグレーなどを多用した、不穏で寂しさを感じるようなヴェロンで描かれた風景を２点紹介した。

シベリア抑留の苦しさと、帰国後に日々の生活の喜びを描いた香月泰男の黒。シベリア抑留という死と隣り合わせの厳しい環境下、煤や炭で絵具を作り描いた忘れられない経験から、後に独特な黒の表現を生み出す。日本画で使用する方解末（ほうかいまつ）を混ぜた絵具や、木炭を砕いて作った絵具を使用し、独自のマチエールと造形でシベリア時代を描いた「運ぶ人」を展示し、材料についても紹介。シベリアから生きて帰れたことは、画家に、当たり前にある平凡でささやかな日々がいかに幸せであるかを実感させた。終生、故郷の三隅町を愛し、家族やふるさとの自然など身近な存在を描いた。「母子（砂遊び）」や「松茸」など、同じ黒を使っても、優しさや暖かさが感じられる作品を６点紹介した。

（湯浅ひろみ）

三之瀬御本陣芸術文化館　所蔵品展Ⅳ　「須田国太郎の黒 –Suda’s black– 画家たちの黒」　出品リスト　　＊無表記は財団所蔵

No.	作家名	作品名	制作年	材質技法	形状	寸法（縦 × 横）cm	所蔵
（１）須田国太郎の黒							
1	土門拳	照影	1953（昭和 28）年	紙・プリント	額装	119.5×89.5	
2	須田国太郎	花山天文台遠望	1931（昭和６）年	キャンバス・油彩	額装	64.5×90.5	
3	須田国太郎	雨後（水間村）	1935（昭和 10）年	キャンバス・油彩	額装	65.2×80.3	寄託
4	須田国太郎	赤比叡	1951（昭和 26）年	キャンバス・油彩	額装	37.8×45.0	
5	須田国太郎	モヘンテ	1922（大正 11）年	キャンバス・油彩	額装	66.6×81.4	
6	須田国太郎	牛	1934（昭和９）年	キャンバス・油彩	額装	65.0×80.0	
7	須田国太郎	月瀬平	1949（昭和 24）年	キャンバス・油彩	額装	45.5×53.0	
8	須田国太郎	黒つぐみ	1942（昭和 17）年	キャンバス・油彩	額装	45.5×53.0	
9	須田国太郎	渓流の鷲	1942（昭和 17）年	キャンバス・油彩	額装	38.0×45.5	
10	須田国太郎	瑞鳥	1940（昭和 15）年頃	キャンバス・油彩	額装	31.7×48.8	
11	須田国太郎	馬	1944（昭和 19）年頃	紙本墨画	額装	27.0×24.0	
12	須田国太郎	大鶴	制作年不詳	紙本墨画淡彩	額装	27.0×24.2	
13	須田国太郎	鷲	1948（昭和 23）年	紙本墨画淡彩	額装	38.5×50.7	
14	須田国太郎	厳島	1954（昭和 29）年	紙・水彩	額装	44.2×61.8	
15	須田国太郎	尾道風景	制作年不詳	紙本墨画	額装	31.7×42.7	
16	須田国太郎	黄豹	1944（昭和 19）年	キャンバス・油彩	額装	41.0×53.0	
17	須田国太郎	花と鳥	1941-44（昭和 16–19）年	キャンバス・油彩	額装	33.4×24.3	
18	須田国太郎	夫婦の像	1944（昭和 19）年	キャンバス・油彩	額装	45.6×53.0	
19	須田国太郎	裸婦	1934（昭和９）年	キャンバス・油彩	額装	90.4×60.6	

（2）画家たちの黒

20	長谷川利行	新宿風景	1937（昭和 12）年	キャンバス・油彩	額装	23.8×32.6	
21	長谷川利行	浅草六区	1935（昭和 10）年	キャンバス・油彩	額装	38.0×45.5	
22	林武	和装婦人	1935（昭和 10）年	キャンバス・油彩	額装	91.0×72.7	
23	林武	茶のストゥールの女	1958（昭和 33）年	キャンバス・油彩	額装	73.0×61.0	
24	林武	前向きの女	1967（昭和 42）年	キャンバス・油彩	額装	80.2×65.1	
25	三岸節子	カーニュの窓	1969（昭和 44）年	キャンバス・油彩	額装	90.8×70.3	
26	三岸節子	ヴェロンの冬	1978（昭和 53）年	キャンバス・油彩	額装	72.7×90.9	
27	三岸節子	ヴェロンの夜明け	1979（昭和 54）年	キャンバス・油彩	額装	72.7×90.9	
28	香月泰男	運ぶ人	1959（昭和 34）年	キャンバス・油彩	額装	73.1×50.1	
29	香月泰男	母子（砂遊び）	1969（昭和 44）年	キャンバス・油彩	額装	27.8×20.8	
30	香月泰男	胡蝶花	1972（昭和 47）年	キャンバス・油彩	額装	45.6×27.2	
31	香月泰男	えい	1959（昭和 34）年	キャンバス・油彩	額装	33.4×53.2	
32	香月泰男	松茸	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	33.3×21.3	
33	香月泰男	トマト	制作年不詳	紙・墨・水彩・コンテ	額装	52.4×31.7	
34	香月泰男	鬼百合	制作年不詳	紙・水彩・コンテ	額装	39.5×27.2	

所蔵品展Ⅰ　色絵磁器の変遷

会期　2020（令和２）年４月８日（水）～７月 13 日（月）
＊2020（令和２）年３月９日（月）から５月 10 日（日）まで、新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館
会場　松濤園　陶磁器館

おもな関連記事、番組等
〇「市政だより くれ」５月号、呉市　〇「市政だより くれ」６月号、呉市　〇『くれえばん』７月号、株式会社 SA メディアラボ　〇「ステーション」５月号、生活協同組合コープこうべ

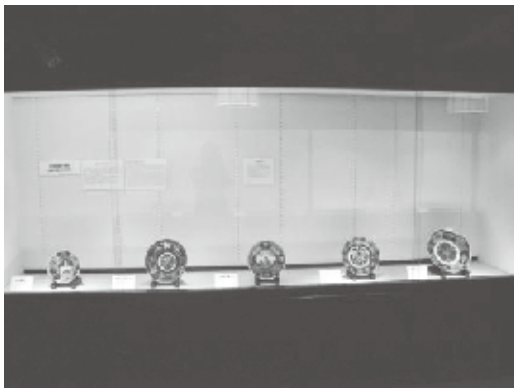
印刷物（ポスター、チラシは陶磁器館、御馳走一番館の２館共通）
●ポスター　B２判　10 枚
●チラシ　A４判　10,000 部
●出品目録　A４判（両面刷り）

目的
江戸時代初期に伊万里焼が誕生して約 30 年後に色絵の磁器が作られた。それまでの青一色の世界から鮮やかな色絵磁器への展開だった。初期の色絵には、明るい色調を用いた祥瑞手（しょんずいで）や濃い色調を用いた五彩手（ごさいで）がある。1651（慶安４）年頃鍋島藩窯が始まると、明るい色調の色絵は鍋島様式に取り入れられ、色鍋島として発展した。民間の窯に残った濃い色調の色絵は、1650 年代後半から始まるオランダ東インド会社からの要望により明るい色調へと変化し、柿右衛門様式へと発展した。
本展では色絵が誕生して数十年の間にめまぐるしく変化していった様子を、年代に沿って紹介した。また同時開催として、備前焼初の重要無形文化財保持者である金重陶陽と長男道明、三男晃介の作品を紹介した。

展示内容
（１）色絵の誕生
明清交代で、それまで流通していた欧州への中国磁器の輸入が止まり、代わって朝鮮人の陶工によって生産が始まった日本の磁器が、市場を独占することとなった。さらに中国人陶工が戦乱を逃れて海外へ流出し、多くの技術が朝鮮的なものから中国式に一新されたといわれている。この技術革新の代表である古九谷様式と呼ばれる色絵の技法を紹介した。また 1659（万治２）年から本格的に始まった海外輸出用の、初期の色絵磁器も紹介した。

（２）柿右衛門様式の誕生
日本で初めて色絵の磁器を作ることに成功したとされるのが初代柿右衛門である。試行錯誤を重ね、1670 年代に、濁手（にごしで）と呼ばれる乳白色の素地に余白を生かし彩色を施した柿右衛門様式を確立した。欧州向けに作られた色絵磁器の最高峰としてヨーロッパで大流行したことなどを紹介した。

（３）金襴手様式の誕生
1690 年代、柿右衛門様式に代わって金襴手（きんらんで）様式が主流となる。金襴手は絵付けに金を使い絢爛豪華な


展示風景

展示風景

仕上がりを見せた。国内向けには商人や大大名の需要があり、特別精巧に作られたものは型物（かたもの）献上手（けんじょうで）などと呼ばれ流行したことなどを紹介した。

（4）同時開催：「備前焼の変遷　古備前から現代まで」

備前焼のルーツは、古墳時代に朝鮮半島から移り住んだ人々の技術によって始まった須恵器であるといわれる。日常雑器となった中世の備前焼は、新しい社会の枠組みの中で商品として流通していった。桃山時代に入ると茶陶として珍重され備前焼の黄金期となり、緋襷（ひだすき）や胡麻（ごま）、牡丹餅（ぼたもち）などさまざまな窯変が誕生する。江戸に入り新興の伊万里焼の創始により衰退するが、細工物と呼ばれる新たな技法で盛り返すも、江戸中期には完全に伊万里焼に市場を奪われる。その後西国大名の土産物などとして細々と生産がおこなわれるも、明治から昭和初期にかけての欧州文化至上主義により、日本のやきものである有田や瀬戸など他の陶磁器同様、備前焼はほとんど見向きもされなくなった。

展示では、再び日本古来の文化が評価される大正以降、日本特有の侘び寂びを含む桃山茶陶に注目し、桃山茶陶を再興した金重陶陽（1896-1967）の作品と、父のもと古備前を追求した長男道明（1934-1995）、造形表現に意欲を見せる三男晃介（1943-）をあわせて紹介した。

（小川英史／土井基子）

松濤園　陶磁器館　所蔵品展Ⅰ　「色絵磁器の変遷」　出品リスト　　＊無表記は財団所蔵

No.	資料名	産地・作家	時代・年代など	寸法（高）	寸法（口径）	寸法（その他）	所蔵
				（縦 × 横）cm			
（1）色絵の誕生							
1	色絵山水丸文折紙形小皿		1640-50 年代	高 3.0	口径 15.0×11.3	底径 9.6×6.1	
2	色絵幾何学地文軍配形小皿		1640-50 年代	高 2.7	口径 15.5×10.0	底径 9.3×5.0	
3	色絵幾何学地文軍配形小皿		1640-50 年代	高 2.6	口径 15.0×9.3	底径 9.2×5.4	
4	色絵丸文小皿		1640-50 年代	高 2.3	口径 14.2	底径 10.4	
5	色絵丸文瓢形小皿		1640-50 年代	高 2.5	口径 13.5×13.0	底径 8.5×8.3	
6	色絵山水文角皿		1640-50 年代	高 3.0	口径 13.5×11.8	底径 8.0	
7	色絵鳳凰文輪花小皿		1650-60 年代	高 2.0	口径 14.0	底径 9.5	
8	色絵鳳凰文小皿		1650-60 年代	高 2.6	口径 14.8	底径 9.3	
9	色絵花鳥文皿		1640-50 年代	高 3.0	口径 20.6	底径 10.5	
10	色絵松竹梅文皿		1640-50 年代	高 3.4	口径 21.3	底径 8.8	
11	色絵柘榴文大皿		1640-50 年代	高 7.0	口径 32.2	底径 19.8	
12	色絵雁窓絵牡丹文皿		1640-50 年代	高 5.4	口径 25.6	底径 11.8	
13	色絵花鳥文捻花皿		1640-50 年代	高 2.0	口径 20.5	底径 13.1	
14	色絵孔雀文大皿		1650 年代頃	高 7.0	口径 39.5	底径 16.7	
15	色絵芙蓉手花盆文大皿		1660-70 年代	高 7.3	口径 32.7	底径 14.8	
16	色絵芙蓉手花盆文大皿		1660-80 年代	高 8.1	口径 39.5	底径 17.0	
17	色絵芙蓉手花鳥文大皿		1655-60 年代	高 6.0	口径 30.6	底径 14.9	
18	染付柘榴文大皿		1700-50 年代	高 8.5	口径 31.0	底径 16.4	
19	色絵薔薇水仙文大皿		1700-30 年代	高 8.3	口径 30.2	底径 16.5	
20	青磁染付宝尽し文大皿		1690-1750 年代	高 8.4	口径 32.5	底径 15.9	
21	色絵蔦梅文変形皿		1640-50 年代	高 3.0	口径 17.0×14.0	底径 9.5×7.4	
22	色絵芥子文皿		1690-1730 年代	高 5.8	口径 20.3	底径 11.0	
23	色絵霞木犀文皿		1690-1730 年代	高 5.4	口径 20.4	底径 11.2	
24	色絵花唐草文小皿		1690-1730 年代	高 4.3	口径 15.0	底径 8.0	
25	青磁色絵宝文輪花小皿		17 世紀末 -18 世紀前半	高 4.0	口径 14.8	底径 8.1	
26	色絵青海波水葵文小皿		1690-1730 年代	高 4.3	口径 15.0	底径 8.0	

（2）柿右衛門様式の誕生

27	色絵枝垂桜文木瓜形皿		1670-90 年代	高 5.7	口径 24.4×21.3	底径 17.8×14.3	
28	色絵梅竹鳥文輪花皿		1670-90 年代	高 3.5	口径 18.2	底径 11.5	
29	色絵花卉文八角鉢		1670-90 年代	高 10.1	口径 21.1	底径 10.1	
30	色絵縞水車文碗		1680-1700 年代	高 6.2	口径 10.5	底径 4.5	
31	色絵波鶴文水注		1660-90 年代	高 16.0	口径 2.2	底径 5.7	
32	色絵花鳥文角瓶		1670-90 年代	高 32.6	口径 8.5	底径 10.7	
33	色絵花卉文六角壷		1670-90 年代	高 31.5	口径 11.0	底径 13.5	
34	色絵花卉文八角瓶		1670-90 年代	高 23.8	口径 1.9	底径 9.2	
35	色絵婦人像		1670-90 年代	高 39.2		径 13.3×12.2	
36	色絵壷持ち婦人像		1680-1700 年代	高 29.6		径 9.5×9.5	
37	色絵犬置物		1670-1710 年代	高 19.0		径 23.5×14.5	
38	色絵栄螺形三足鉢		1670-1700 年代	高 9.5		径 22.0×17.0	

（3）金襴手様式の誕生

39	色絵鳳凰文皿		1690-1730 年代	高 6.5	口径 21.5	底径 13.0	
40	色絵牡丹寿字文皿		1700-30 年代	高 8.5	口径 27.0	底径 14.5	
41	色絵荒磯文皿		1700-40 年代	高 8.0	口径 25.1	底径 12.8	
42	色絵牡丹文十二角皿		1700-30 年代	高 5.0	口径 26.2	底径 15.6	
43	色絵鳳凰文十六角大皿		1700-30 年代	高 7.0	口径 33.5	底径 18.8	
44	色絵花盆文髭皿		18 世紀前半	高 7.3	口径 26.1	底径 11.8	
45	色絵花卉文髭皿		18 世紀前半	高 3.0	口径 11.0	底径 4.5	
46	色絵梅樹鷹猿文蓋付大壷		1700-30 年代	高 50.0	口径 12.8	底径 13.0	
47	色絵獅子牡丹置物		18 世紀前半	高 45.0	口径 18.5×18.5		
48	色絵鶏岩置物		17 世紀後半 -18 世紀前半	高 25.5	口径 20.0×11.0		
49	色絵葡萄栗鼠文角瓶		1700-30 年代	高 22.0	口径 3.1	底径 9.5	

（4）同時開催：「備前焼の変遷　古備前から現代まで」

50	古備前　水指		桃山時代	高 16.0	口径 18.0×18.3	底径 18.0	
51	古備前　棒の先水指		桃山時代	高 15.0	口径 16.5	底径 10.5	
52	古備前　水指		桃山時代	高 16.8	口径 16.2×16.7	底径 12.0×12.4	
53	古備前　水指		桃山時代	高 15.3	口径 18.4×18.2	底径 14.0	
54	古備前　徳利		16 世紀後半 -17 世紀	高 25.5	口径 4.5×5.5	底径 11.5	
55	古備前　壷		17 世紀頃	高 33.5	口径 15.5	底径 23.0	
56	古備前　胴〆水指		17 世紀頃	高 16.5	口径 11.0	底径 13.0	
57	備前貝型皿	金重陶陽		高 3.6	口径 15.2×17.5		
58	備前掛花入	金重陶陽		高 13.8	口径 11.0		
59	備前面取花入	金重道明		高 22.5		径 10.5×12.5	
60	伊部細水指	金重道明		高 21.3		径 14.2	
61	備前脚付平鉢	金重晃介		高 7.5	口径 39.0		
62	備前花器「聖衣」	金重晃介	1990（平成２）年頃	高 34.0		径 47.5×41.0	
63	備前広口花器	金重晃介		高 35.0	口径 33.2		
64	色絵備前　水仙形香合		18 世紀	（水仙）高 4.5 （台）高 4.0	口径 9.0×20.0 口径 13.0×28.8		

所蔵品展Ⅱ　やきもの動物園

会期　2020（令和２）年７月 15 日（水）～９月 28 日（月）
会場　松濤園　陶磁器館

おもな関連記事、番組等
〇「市政だより くれ」６月号、呉市　〇「市政だより くれ」７月号、呉市　〇「市政だより くれ」８月号、呉市　〇「市政だより くれ」９月号、呉市

印刷物（ポスター、チラシは陶磁器館、御馳走一番館の２館共通）
●ポスター　Ｂ２判　10 枚
●チラシ　Ａ４判　9,000 部
●出品目録　Ａ４判（両面刷り）

目的
古くから工芸品や絵画に描かれてきた動物文様は、17 世紀初頭に誕生した伊万里焼にも数多く描かれた。その文様の多くは当時高級な舶来品であった中国磁器から写され、ウサギや鳥といった身近な動物のほか、江戸時代には珍しかった虎、龍や鳳凰といった吉祥の意味を持つ想像上の動物たちなどが描かれた。また中国磁器の写しばかりではなく、動物と特定の植物や景色を組み合わせて日本人の感性を加え描かれた伊万里焼なども紹介した。また同時開催として、戦後陶芸界の歩みを作家の作品とともに順に紹介した。

展示内容
（１）哺乳類を描いた伊万里焼
初期の伊万里焼に作例の多いウサギを紹介した。月とウサギ、波とウサギなど日本人の最も古いイメージにある因幡の白ウサギの神話や謡曲などを題材として、日本独特の文様として描かれたことなどを紹介した。またウサギと並んで初期から見られる虎を紹介した。邪を払う吉祥文として描かれた虎は、江戸時代に飼育が始まったウサギと違って実物を見ることが難しかったため想像の姿で描かれたことなど紹介した。

（２）鳥や魚を描いた伊万里焼
めでたい鳥の代表である鶴、日本でも自然に見られるサギなどは鳥文様の中でも伊万里焼によく登場することを紹介した。波に千鳥、アシに雁、松に鶴など特定の植物や景色を組み合わせて最上級のめでたさや日本の四季などを表現したことなど紹介した。中国の発音で豊穣を意味する文字と同じ音であることから吉祥文とされるコイを描いた文様で、立身出世の吉祥文として元禄時代の最高級品に描かれた荒磯文などを紹介した。

（３）瑞獣を描いた伊万里焼
瑞獣を代表する龍や鳳凰を紹介。中国美術において最も重要なモチーフである龍は皇帝を象徴し、鳳凰は皇后の象徴として神聖な動物とされ、中国では民衆の使用を禁じたり描かれる器の種類も制限するなどしていたことなどを紹介した。

展示風景

展示風景

（4）鍋島焼

鍋島焼は、肥前国を治めた鍋島藩が将軍家への献上や大名や公家への贈答のため採算度外視で特別に作った磁器である。日本に 20 数点しか現存していないといわれる色鍋島の尺皿の他、鍋島青磁や鍋島染付の尺皿を常時展示し、民窯で作られた伊万里焼とは違った発展をした藩窯のやきものの魅力を紹介している。

（5）同時開催：「芸術への挑戦　近現代作家のやきもの」

戦後の陶芸界は個性的な表現が開花する一方で、伝統的な技術や価値観が再認識され、重要無形文化財の保護制度や日本伝統工芸展の創設など戦前にはなかった新しい枠組みや団体展が誕生し、伝承された技術を生かし創作性を重視する現代工芸の基盤を成す考え方が展開していった。

本展では伝統技法の可能性を格段に広げた加藤土師萌、三浦小平二、藤本能道ら人間国宝をはじめ、1970 年代以降の伝統的なやきものの文化や社会に対する批判精神を作品に込めた三輪龍氣生（十二代休雪）、金重晃介ら次世代の作品をあわせて紹介した。

（土井基子／小川英史）

松濤園　陶磁器館　所蔵品展Ⅱ　「やきもの動物園」　出品リスト

＊無表記は財団所蔵

No.	資料名	産地・作家	時代・年代など	寸法（高）	寸法（口径）	寸法（その他）	所蔵
				（縦 × 横）cm			
（1）哺乳類を描いた伊万里焼							
1	染付吹墨鷺文皿		1630-40 年代	高 3.5	口径 19.5	底径 7.5	
2	染付波兎雲文皿		1630-40 年代	高 3.5	口径 20.5	底径 7.8	
3	染付兎文輪花皿		1660-70 年代	高 2.5	口径 21.0	底径 14.3	
4	染付竹虎文皿		1650-60 年代	高 3.2	口径 22.5	底径 13.5	
5	染付鹿文輪花大皿		1670-80 年代	高 6.0	口径 34.6	底径 20.9	
6	色絵葡萄栗鼠文角瓶		1700-30 年代	高 22.0	口径 3.1	底径 9.5	
7	色絵楼閣桜樹牛文皿		1700-30 年代	高 3.0	口径 24.2	底径 13.5	
8	色絵竹虎文皿		1670-90 年代	高 4.0	口径 22.5	底径 14.8	
（2）鳥や魚を描いた伊万里焼							
9	色絵葦鳥文小皿		1640-50 年代	高 2.0	口径 15.0	底径 8.8	
10	色絵花鳥文捻花皿		1640-50 年代	高 2.0	口径 20.5	底径 13.1	
11	色絵葦雁文角小皿		1650-60 年代	高 3.0	口径 12.5×12.5	底径 7.1×6.6	
12	色絵葦鷺文角小皿		1650-60 年代	高 3.0	口径 13.0×12.0	底径 7.5×6.3	
13	色絵松鶴文長皿		1650-60 年代	高 3.5	口径 19.0×10.0	底径 15.3×6.2	
14	染付岩鳥文皿		1650-60 年代	高 3.0	口径 20.5	底径 10.6	
15	染付岩鷺文皿		1650-60 年代	高 3.0	口径 21.0	底径 12.0	
16	染付鶴文皿		1650-70 年代	高 3.3	口径 20.1	底径 12.5	
17	染付鶉文皿		1660-70 年代	高 2.8	口径 20.2	底径 12.8	
18	染付矢羽鳥文皿		1670-1700 年代	高 2.8	口径 18.5	底径 12.4	
19	色絵波鶴文水注		1660-90 年代	高 16.0	口径 2.2	底径 5.7	
20	色絵梅樹鷹猿文蓋付大壷		1700-30 年代	高 50.0	口径 12.8	底径 13.0	
21	色絵桜花鷲文大皿		1700-40 年代	高 8.0	口径 48.5	底径 25.0	
22	色絵花鳥文角瓶		1670-90 年代	高 32.6	口径 8.5	底径 10.7	
23	色絵花卉文六角壷		1670-90 年代	高 31.5	口径 11.0	底径 13.5	
24	色絵花卉文八角瓶		1670-90 年代	高 23.8	口径 1.9	底径 9.2	
25	色絵鶴文十二角皿		1670-90 年代	高 4.0	口径 25.0	底径 15.3	
26	色絵粟鶉文八角皿		1670-90 年代	高 5.0	口径 25.5	底径 13.0	
27	染付鮎柘榴文大鉢		1690-1730 年代	高 17.0	口径 37.0	底径 16.6	
28	染付芙蓉手鮎文大皿		1680-1700 年代	高 6.0	口径 32.4	底径 18.2	
29	染付鯉滝登り文大皿		1670-90 年代	高 11.5	口径 47.0	底径 24.5	
30	色絵荒磯文皿		1700-40 年代	高 8.0	口径 25.1	底径 12.8	
（3）瑞獣を描いた伊万里焼							
31	染付桐鳳凰文皿		1660-70 年代	高 3.0	口径 20.2	底径 14.0	

32	染付桐鳳凰文大皿		1680-1700 年代	高 12.2	口径 56.2	底径 29.7	
33	染付団龍文角小皿		1670-90 年代	高 3.7	口径 125×125	底径 8.0	
34	染付龍虎文木瓜形皿		1670-90 年代	高 4.0	口径 225×123	底径 16.0×8.1	
35	染付玉取獅子文皿		1670-80 年代	高 5.1	口径 18.3	底径 11.4	
36	染付岩鳳凰文筒型注器		1690-1730 年代	高 31.5	口径 16.5		
37	染付牡丹鳳凰文瓶		1690-1730 年代	高 31.3	口径 16.3	底径 9.5	
38	染付松鶴牡丹鳳凰文大皿		1690-1730 年代	高 7.5	口径 37.0	底径 21.7	
39	色絵松竹梅鳳凰文蓋付壷		1730-60 年代	高 38.0	口径 12.2	底径 10.4	
40	色絵鳳凰文十六角大皿		1700-30 年代	高 7.0	口径 33.5	底径 18.8	
41	色絵梅鳳凰団龍文八角鉢		1670-90 年代	高 11.0	口径 25.2	底径 11.5	
42	色絵獅子置物		1670-1700 年代	高 17.0		径 15.0×9.5	

（4）鍋島焼

43	染付柘榴文大皿		1700-50 年代	高 8.5	口径 31.0	底径 16.4	
44	色絵薔薇水仙文大皿		1700-30 年代	高 8.3	口径 30.2	底径 16.5	
45	青磁染付宝尽し文大皿		1690-1750 年代	高 8.4	口径 32.5	底径 15.9	
46	色絵水草文小皿		1700-30 年代	高 4.5	口径 15.0	底径 8.0	
47	色絵菊流水文小皿		18 世紀中葉 - 後半	高 4.8	口径 15.5	底径 8.0	
48	色絵青海波水葵文小皿		1690-1730 年代	高 4.3	口径 15.0	底径 8.0	
49	色絵霞木犀文皿		1690-1730 年代	高 5.4	口径 20.4	底径 11.2	
50	染付秋草文皿		1700-50 年代	高 6.0	口径 20.5	底径 11.1	
51	染付朝顔文小皿		1690-1730 年代	高 4.5	口径 14.6	底径 8.0	
52	染付菊文猪口		1690-18 世紀前半	高 6.5	口径 11.5	底径 4.0	

（5）同時開催：「芸術への挑戦　近現代作家のやきもの」

53	萌葱金襴手木兎文飾壷	加藤土師萌		高 20.4	口径 18.5		
54	青磁花瓶	三浦小平二		高 21.5	口径 23.0		
55	色絵鵜と木蓮の図四角筥	藤本能道		高 8.6	口径 24.1		
56	椿壷	田村耕一		高 31.4		径 27.5	
57	碧明耀彩飾壷	徳田八十吉（三代）		高 28.3		径 18.3	
58	ペルシャ三彩人物文鉢	加藤卓男		高 5.2	口径 19.5		
59	碧釉金彩水指	加藤卓男		高 18.5		径 19.3	
60	卑弥呼	三輪龍氣生（十二代休雪）		高 12.8		径 10.0×25.0	
61	白嶺	三輪龍氣生（十二代休雪）		高 20.3		径 12.4×28.0	
62	備前切子壷	金重晃介		高 27.2		径 29.9×31.7	
63	備前菱壷	金重晃介		高 24.5		径 29.8×50.5	
64	備前花器「海から」	金重晃介	1992（平成４）年頃	高 35.0		径 37.5×40.5	
65	備前 壷	隠崎隆一		高 59.0		径 25.5×21.7	

所蔵品展Ⅲ　海を渡った伊万里たち

会期　2020（令和２）年９月 30 日（水）～ 2021（令和３）年１月 11 日（月）
会場　松濤園　陶磁器館

おもな関連記事、番組等
〇「市政だより くれ」10 月号、呉市　〇「市政だより くれ」11 月号、呉市　〇「市政だより くれ」12 月号、呉市　〇「市政だより くれ」１月号、呉市

印刷物（ポスター、チラシは陶磁器館、御馳走一番館の２館共通）
●ポスター　B２判　10 枚
●チラシ　A４判　10,000 部
●出品目録　A４判（両面刷り）

目的
江戸時代、ヨーロッパの宮殿を飾る調度品として伊万里焼は輸出されていた。当時ヨーロッパではまだ磁器生産がおこなわれていなかったこと、また最高級品として流通していた中国磁器が明清交代に伴う内乱によって生産が止まったことなど、さまざまな条件により伊万里焼が世界の陶磁市場を独占した。
本展では海外輸出以前の伊万里焼から、1660 年代頃に始まる欧州輸出の様子を紹介し、輸出絶頂期を迎え 1670 ～ 90 年代にヨーロッパ王侯の需要に応じて作られた柿右衛門様式と、柿右衛門様式に代わって宮殿を飾った伊万里金襴手様式を紹介した。また同時開催として京都ゆかりの陶芸作家を紹介した。

展示内容
（１）海外輸出前夜の伊万里焼
朝鮮人陶工の技術で始まった伊万里焼は、中国の内乱による中国人陶工の流入で中国式に一新したとされる。その後 1640 年代末から輸出を始め、1670 年代に輸出最盛期を迎える。ここでは輸出以前に作られた草創期の伊万里焼を紹介した。

（２）欧州輸出の始まり
輸出初期の伊万里焼を紹介した。中国磁器の輸出が激減したため、伊万里焼が代わってヨーロッパ向けの磁器を 1657（明暦３）年頃から作り始める。その、初期を代表する製品として中国がヨーロッパ向けにデザインした皿を写した芙蓉手（ふようで）を紹介した。

（３）輸出器種
オランダ東インド会社を通じて伊万里焼は器種や意匠の注文を取った。そのため製品は当時のヨーロッパの生活に基づくもので、今では消えた用途のものもある。その中から酒器として用いられたと思われる水注を紹介し、ワイン用としてヨーロッパの絵画にも見られることなどを紹介した。

（４）好評を博した日本磁器
輸出最盛期である 17 世紀後半、オランダ東インド会社

展示風景

展示風景

からの注文で雪のように白い磁肌の柿右衛門様式を完成させ、ヨーロッパで高い評価を得た。この柿右衛門様式をドイツのマイセン窯が手本として作り始め、その後、数々の欧州の窯が伊万里焼を模倣した。またヨーロッパ中の宮殿が伊万里焼を収集したことなどを、おもなヨーロッパの窯産地や伊万里焼を収集した宮殿を示す地図で紹介し、あわせて所蔵品から宮殿収蔵の類例品を展示し紹介した。

（5）柿右衛門と欧州の模倣品

19 世紀に、それまで作ることが不可能だったヨーロッパの磁器が、東洋の磁器を熱心に写すことで発展していった様子をマイセン窯、チェルシー窯の製品とそれらが手本とした柿右衛門様式の皿とともに紹介した。

（6）宮殿を飾った絢爛豪華な大作

1685（貞享 2）年の貿易制限令で貿易額が大きさに関係なく一律となったことから、大型の伊万里焼が作られ輸出されるようになり、宮殿を飾るにふさわしい大壷や大皿、大型の瓶と壷の 5 点セットなどが誕生したことを紹介した。

（7）鍋島焼

鍋島焼は、肥前国を治めた鍋島藩が将軍家への献上や大名や公家への贈答のため採算度外視で特別に作った磁器である。日本に 20 数点しか現存していないといわれる色鍋島の尺皿の他、鍋島青磁、鍋島染付の尺皿を常時展示し、民窯で作られた伊万里焼とは違った発展をした藩窯のやきものの魅力を紹介している。

（8）同時開催：「陶芸界の巨匠　京都ゆかりの作家たち」

1896（明治 29）年、陶磁器の振興をめざして京都に日本初の陶磁器研究機関が設立された。当時、次代のやきものを作ろうとする若者が集まり、ここから後の陶芸界をけん引する河井寛次郎や浜田庄司、楠部弥弌などが輩出された。また大正末期から興った民芸運動の本拠地として、思想家の柳宗悦を中心に河井や浜田、バーナード・リーチら陶芸家が運動を広めたことなど京都ゆかりの作家の活躍を作品とともに紹介した。

（土井基子／小川英史）

松濤園　陶磁器館　所蔵品展Ⅲ　「海を渡った伊万里たち」　出品リスト　　＊無表記は財団所蔵

No.	資料名	産地・作家	時代・年代など	寸法（高）	寸法（口径）	寸法（その他）（縦 × 横）cm	所蔵
（1）海外輸出前夜の伊万里焼							
1	染付山水人物文皿		1630-40 年代	高 8.2	口径 29.2	底径 8.9	
2	染付山水文輪花皿		1630-40 年代	高 6.1	口径 25.6	底径 11.3	
3	色絵丸文小皿		1640-50 年代	高 2.3	口径 14.2	底径 10.4	
4	色絵松竹梅文皿		1640-50 年代	高 3.4	口径 21.3	底径 8.8	
5	色絵柘榴文大皿		1640-50 年代	高 7.0	口径 32.2	底径 19.8	
6	色絵柏葉文大皿		1650-60 年代	高 9.4	口径 38.4	底径 16.7	
（2）欧州輸出の始まり							
7	染付芙蓉手花鳥文大皿		1655-70 年代	高 6.4	口径 36.5	底径 16.0	
8	染付唐人棕櫚文大皿		1660-70 年代	高 6.9	口径 31.7	底径 18.0	
9	染付芙蓉手牡丹文大皿		1650-60 年代	高 6.5	口径 30.0	底径 14.9	
10	染付鷺蓮文皿		1660-70 年代	高 3.0	口径 20.4	底径 11.0	
（3）輸出器種							
11	染付草花文瓢形瓶		1660-80 年代	高 20.3	口径 2.0×1.9	底径 6.5	
12	染付山水文手付水注		1660-80 年代	高 23.0	口径 6.2×5.8	底径 8.0	
13	染付花盆唐草文手付水注		1660-80 年代	高 27.7	口径 6.7×4.8	底径 11.4×9.4	
（4）好評を博した日本磁器							
14	色絵花卉文八角鉢		1670-90 年代	高 10.1	口径 21.1	底径 10.1	
15	色絵梅竹鳥文輪花皿		1670-90 年代	高 3.5	口径 18.2	底径 11.5	
16	色絵牡丹文皿		1670-90 年代	高 5.0	口径 21.3	底径 13.2	
17	色絵梅菊文輪花皿		1680-1700 年代	高 3.5	口径 19.2	底径 11.5	
18	色絵梅鳥団龍文鉢		1680-1700 年代	高 9.9	口径 21.0	底径 10.5	
19	色絵草花文水注		1670-1700 年代	高 16.7	口径 6.5	底径 6.5	
20	色絵草花文蓋付香炉		1670-90 年代	高 12.0		径 18.0	
21	色絵粟鶉梅竹文皿		1670-90 年代	高 3.7	口径 18.4	底径 11.8	
22	色絵扇面秋草牡丹唐草文十二角皿		1670-90 年代	高 4.1	口径 25.1	底径 14.2	

23	色絵菊牡丹文壷		1670-90 年代	高 25.5	口径 11.5	底径 12.0	

（5）柿右衛門と欧州の模倣品

24	色絵婦人像		1670-90 年代	高 39.2		径 13.3×12.2	
25	色絵菊文蓋付壷		1670-90 年代	高 30.0	口径 11.5	底径 11.9	
26	色絵婦人像		1670-90 年代	高 39.3		径 14.3×11.8	
27	色絵獅子置物		1670-1700 年代	高 17.0		径 15.0×9.5	
28	色絵甕割唐子文八角皿		1670-90 年代	高 4.2	口径 22.7	底径 11.8	
29	色絵甕割唐子文皿		18 世紀	高 3.4	口径 18.9	底径 11.0	
30	色絵花卉文四方瓶		18 世紀頃	高 21.2	口径 1.9	底径 5.0	

（6）宮殿を飾った絢爛豪華な大作

31	色絵花盆文大皿		1700-30 年代	高 9.0	口径 55.5	底径 27.5	
32	色絵花鳥婦人文大皿		1700-30 年代	高 10.2	口径 54.7	底径 26.5	
33	色絵桜花鷲文大皿		1700-40 年代	高 8.0	口径 48.5	底径 25.0	
34	染付牡丹鳳凰文蓋付壷		1690-1730 年代	高 47.8	口径 15.5	底径 12.3	
35	染付牡丹鳳凰文瓶		1690-1730 年代	高 31.3	口径 16.3	底径 9.5	
36	色絵楼閣牡丹文蓋付大壷		1700-40 年代	高 49.2	口径 9.0	底径 10.0	
37	色絵山水牡丹文大瓶		1690-1710 年代	高 60.4	口径 19.5	底径 19.8	
38	色絵梅樹庭園文蓋付大壷		1700-30 年代	高 64.0	口径 18.0	底径 19.2	
39	色絵窓絵山水文蓋付大壷		1700-30 年代	高 60.0	口径 16.1	底径 19.0	
40	色絵牡丹文蓋付大壷		1730-60 年代	高 63.5	口径 16.5	底径 10.1	

（7）鍋島焼

41	染付柘榴文大皿		1700-50 年代	高 8.5	口径 31.0	底径 16.4	
42	色絵薔薇水仙文大皿		1700-30 年代	高 8.3	口径 30.2	底径 16.5	
43	青磁染付宝尽し文大皿		1690-1750 年代	高 8.4	口径 32.5	底径 15.9	
44	色絵芥子文皿		1690-1730 年代	高 5.8	口径 20.3	底径 11.0	
45	色絵柴垣椿文皿		18 世紀前半 - 中葉	高 5.1	口径 20.3	底径 11.0	
46	色絵花唐草文小皿		1690-1730 年代	高 4.3	口径 15.0	底径 8.0	
47	色絵椿文小皿		1690-1730 年代	高 4.5	口径 15.2	底径 8.2	
48	色絵霞木犀文皿		1690-1730 年代	高 5.4	口径 20.4	底径 11.2	
49	青磁色絵宝文輪花小皿		17 世紀末 -18 世紀前半	高 4.0	口径 14.8	底径 8.1	
50	青磁染付大根文小皿		1670-90 年代	高 4.0	口径 15.5	底径 8.2	

（8）同時開催：「陶芸界の巨匠　京都ゆかりの作家たち」

51	緑釉長皿	尾形乾山		高 2.4	口径 9.9×23.9		
52	〆焼水指	清水六兵衛（初代）		高 16.4		径 17.1	
53	色絵染付梅と竹模様瓶	富本憲吉		高 22.5		径 12.2	
54	茶碗	バーナード・リーチ		高 7.0	口径 15.0		
55	草花図扁壷	河井寛次郎		高 21.5		径 9.6×16.5	
56	色絵絵具星字文皿	浜田庄司		高 6.8	口径 29.4		
57	彩瑾藤飾皿	楠部弥弌	1962（昭和 37）年	高 3.5	口径 37.3		
58	柑釉茶碗	今井政之	1998（平成 10）年	高 8.4	口径 14.6		
59	伊賀釉水盤	北大路魯山人		高 8.0	口径 34.3		
60	備前水指	荒川豊蔵		高 16.7		径 14.3	
61	赤茶碗　銘「瑞雲」	楽吉左衛門（十四代覚入）		高 8.3	口径 11.8		
62	仁清手龍田川水指	永楽善五郎		高 17.2		径 17.5	
63	寒来暑往呉須赤絵皿	近藤悠三		高 4.8	口径 29.8		
64	赤繪方壷	島岡達三		高 22.8		径 10.3	

N0.57 の資料名は、2007（平成 19 年）発行『松濤園陶磁器館所蔵目録』では「彩延藤飾皿」と表記されているがこれを訂正し、「彩瑾藤飾皿」と表記する。

所蔵品展Ⅳ　磁器の魅力　中国磁器から伊万里へ

会期　2021（令和３）年１月 13 日（水）～４月５日（月）
会場　松濤園　陶磁器館

おもな関連記事、番組等
〇「市政だより くれ」２月号、呉市　〇「市政だより くれ」３月号、呉市　〇「市政だより くれ」４月号、呉市

〇「くれワンダーランド Journey」中国放送、2021（令和３）年２月５日放送

印刷物（ポスター、チラシは陶磁器館、御馳走一番館の２館共通）
●ポスター　B２判　10 枚
●チラシ　A４判　10,000 部
●出品目録　A４判（両面刷り）

目的
日本は中世以来中国磁器を最も高級なやきものとして盛んに輸入していた。武将たちの間では茶の湯が流行り、戦国大名などは競って中国磁器を手に入れようとしていた。江戸に入り、関ヶ原の戦いで西軍について敗れた大名たちは家康との関係修復のため中国磁器を献上するなど、磁器には贈答対象となる魅力があった。江戸初期に作られた国内初の磁器である伊万里焼はこの中国磁器をモデルとしているものが多く、中国磁器の需要を補う形で流通していった。
本展では当時の人々にとって伊万里焼がどれほどの価値を持つものであったか、伊万里焼の魅力に取りつかれた人々のエピソードとともに伊万里焼を紹介した。同時開催として、伊万里焼の技術がもたらした日本各地のやきものについて紹介した。

展示内容
（１）伊万里焼がめざした中国磁器
16 世紀末から 17 世紀にかけて作られた中国の染付磁器と色絵を紹介した。中国磁器には古染付と呼ばれる碗や皿などの食器と、日本の茶人の注文により作られた茶道具があり、初期の伊万里焼はこれに倣った。千利休により隆盛した茶の湯はその後、古田織部、小堀遠州により新しい趣向が反映された。織部時代には型を用いて成形した肉厚の葉型、動物型、富士山型など多様な中国磁器が好まれた。遠州時代には古染付の輸入も最後となり、織部時代とは違った洗練された磁器が取り上げられたことで、伊万里の茶道具にも注目が集まった。当時、日本の茶の湯の動向と密接に関係して中国磁器が作られたこと、また、初期の伊万里焼が中国磁器を見本としたことなどを紹介した。

（２）国産磁器の登場
1610 年代頃、肥前国有田で朝鮮人陶工の技術により誕生した日本初の磁器。茶の湯の流行を背景に千利休が高麗茶碗を珍重したことで朝鮮半島への関心が深まり、九州の諸大名も熱心に求めた。江戸に入っても高麗茶碗を求める動きは続き、さらに茶の湯外交による国内平定を目論む将軍家の動きを感じ取った鍋島藩は、自国で茶道具を焼かせ

展示風景

展示風景

る試みを盛んにおこなった。こうした諸大名、さらに最高権力者である将軍家の茶の湯への熱意が伊万里焼発展へとつながったことなど紹介した。

（3）輸出伊万里の誕生

輸出伊万里誕生の背景に非公式な交易を生業とする人物の存在があった。鄭成功（ていせいこう）とその一族は海上貿易で富を蓄え、やがて軍事力を手にし清の抵抗勢力となった。清朝成立後の 1656（明暦２）年、清政府の海禁政策により中国磁器の輸出が完全に中断した際、中国磁器に匹敵する焼き物として成功は伊万里焼に目を付けた。当時世界最高水準の品質だった中国磁器そっくりの磁器を作らせるため、中国から技術者を連れてきてついに中国磁器とほぼ変わらない高品質の伊万里が誕生したとする説を紹介した。

（4）王侯貴族を虜にした伊万里焼

17 世紀、欧州に輸出された伊万里焼は「白い黄金」として王侯貴族を魅了した。ヨーロッパではまだ厚みのある陶器しか作られておらず、薄く光をも透す磁器は欧州の有力者にとって憧れであり富と権威の象徴でもあった。柿右衛門様式を特別な価値を持つ磁器としてコレクションしたドイツのアウグスト強王は、自身の兵の命と引き換えに磁器を手に入れたエピソードなどを紹介した。

（5）鍋島焼

鍋島焼は、鍋島藩が将軍家への献上や大名や公家への贈答のため採算度外視で特別に作った磁器である。豊臣家につながる大名であった鍋島藩は処分を恐れ、将軍家への献上品にことのほか気を遣った。1650（慶安３）年頃から磁器開発が始まり、当時最先端の色絵技術を持った優秀な陶工を集め、その技術力を確かめるために中国磁器を見本に作らせるなどして完成させ、翌年将軍の内覧にまでこぎつける。その日は３代将軍家光が死去する前日だった。亡くなる直前まで見たいと思わせた伊万里焼は、新しく開発された最高級品の磁器としての地位を与えられたことなどを紹介した。

（6）同時開催：「伊万里焼の技術がもたらした日本各地の磁器」

伊万里焼と同時期に始まった磁器と、伊万里焼の技術で誕生した日本各地の磁器を紹介した。有田に隣接する大村藩領波佐見や平戸藩領三川内は有田とともに江戸時代の磁器生産の中核であった。波佐見では美しい発色の青磁を、三川内では精巧な細工や染付などを作り、平戸藩は将軍家への献上品としていた。また伊万里焼の技術は鍋島家と姻戚関係のあったところへ広がり、加賀大聖寺藩前田家、備後福山藩水野家、筑前藩黒田家へ技術者が貸与されたといわれている。そのうち大聖寺藩の九谷焼は伊万里焼の生産量が増えるにつれ一時消滅、その後江戸後期に復興しこの時代に作られたものが現代の九谷焼へとつながることを、九谷焼の技術を継承した徳田八十吉（三代）の新収蔵作品（令和元年度収蔵）とともに紹介した。

（土井基子／小川英史）

松濤園　陶磁器館　所蔵品展Ⅳ　「磁器の魅力　中国磁器から伊万里へ」　出品リスト　　＊無表記は財団所蔵

No.	資料名	産地・作家	時代・年代など	寸法（高）	寸法（口径）	寸法（その他）	所蔵
				（縦 × 横）cm			
（1）伊万里焼がめざした中国磁器							
1	色絵松竹梅文皿（南京赤絵）		明　末期	高 4.1	口径 18.7	底径 11.1	
2	色絵布袋文菱型皿（南京赤絵）		明　末期	高 3.3	口径 18.3×14.0	底径 11.6×8.3	
3	色絵網目蟹文小皿（天啓赤絵）		明　末期	高 3.5	口径 10.4	底径 4.0	
4	呉須赤絵魁文鉢		明　末期	高 11.0	口径 24.8	底径 10.0	
5	呉須赤絵双龍文大皿		明　末期	高 8.7	口径 38.5	底径 18.6	
6	呉須赤絵双龍文大皿		明　末期	高 8.6	口径 37.6	底径 20.0	
7	染付楼閣山水文富士形皿（古染付）		明　末期	高 4.8	口径 17.5×16.5		
8	染付吹墨法螺貝形向付（古染付）		明　末期	高 4.8	口径 19.0×9.0		
9	染付山水文扇形向付（古染付）		明　末期	高 3.5	口径 19.3×12.3		
10	染付魚文魚形向付（古染付）		明　末期	高 3.1	口径 17.7×10.3		
11	染付牛文牛形向付（古染付）		明　末期	高 4.1	口径 17.8×10.3		
12	染付馬文馬形向付（古染付）		明　末期	高 3.7	口径 16.6×10.3		
13	染付山水文葉形向付（古染付）		明　末期	高 3.7	口径 19.3×10.2		
14	染付蝶文蝶形向付（古染付）		明　末期	高 3.0	口径 12.0×12.0		
15	染付梅鶯文皿（祥瑞）		明　末期	高 3.1	口径 19.4	底径 14.5	
16	瑠璃釉州浜形皿（祥瑞）		明　末期	高 3.5	口径 22.0×22.0	底径 18.8×16.3	
17	染付花卉文角瓶		明　末期	高 25.5	口径 3.0	底径 10.0	

18	染付芙蓉手花卉文瓶		明　末期	高 32.5	口径 4.5	底径 11.3	
19	染付雉文大皿		明　末期	高 6.5	口径 35.6	底径 21.5	
20	染付芙蓉手花鳥文皿		明　末期	高 3.9	口径 20.1	底径 12.5	

（2）国産磁器の登場

21	染付吹墨梅文小皿		1630-40 年代	高 3.8	口径 15.2	底径 6.0	
22	染付吹墨山水文小皿		1630-40 年代	高 2.5	口径 14.0	底径 5.8	
23	染付竹鳥文皿		1640 年代頃	高 3.0	口径 18.7	底径 8.5	
24	染付山水文瓶		1630-40 年代	高 21.0	口径 5.0	底径 6.3	

（3）輸出伊万里の登場

25	染付富士山雲松文小皿		1650-70 年代	高 2.4	口径 14.4	底径 9.3	
26	染付椿文皿		1650 年代頃	高 2.7	口径 20.0	底径 9.5	
27	染付芙蓉手牡丹文大皿		1650-60 年代	高 6.5	口径 30.0	底径 14.9	
28	染付寒山拾得文壷		1650-80 年代	高 30.4	口径 14.7	底径 15.0	
29	染付山水唐人物文大瓶		1660-80 年代	高 43.8	口径 9.0	底径 13.5	
30	染付唐人物梅牡丹鳳凰文大皿		1680-1700 年代	高 10.5	口径 60.2	底径 29.0	
31	染付花壷文大皿		1690-1720 年代	高 8.1	口径 54.5	底径 26.5	
32	染付芙蓉手人物文大皿		1680-1710 年代	高 8.2	口径 52.0	底径 24.0	
33	染付芙蓉手花盆文大皿		1680-1710 年代	高 7.3	口径 42.5	底径 20.2	

（4）王侯貴族を虜にした伊万里焼

34	色絵菊文蓋付壷		1670-90 年代	高 30.0	口径 11.5	底径 11.9	
35	色絵花卉文六角壷		1670-90 年代	高 31.5	口径 11.0	底径 13.5	
36	色絵花卉文八角瓶		1670-90 年代	高 23.8	口径 1.9	底径 9.2	
37	色絵梅鳳凰団龍文八角鉢		1670-90 年代	高 11.0	口径 25.2	底径 11.5	
38	色絵竹虎文皿		1670-90 年代	高 4.0	口径 22.5	底径 14.8	
39	色絵牡丹獅子文輪花皿		1670-1700 年代	高 3.0	口径 18.0	底径 11.3	
40	色絵岩梅文八角鉢		1670-1700 年代	高 9.2	口径 18.5	底径 7.6	

（5）鍋島焼

41	染付柘榴文大皿		1700-50 年代	高 8.5	口径 31.0	底径 16.4	
42	色絵薔薇水仙文大皿		1700-30 年代	高 8.3	口径 30.2	底径 16.5	
43	青磁染付宝尽し文大皿		1690-1750 年代	高 8.4	口径 32.5	底径 15.9	
44	色絵蔦梅文変形皿		1640-50 年代	高 3.0	口径 17.0×14.0	底径 9.5×7.4	
45	色絵椿文小皿		1690-1730 年代	高 4.5	口径 15.2	底径 8.2	
46	色絵柴垣椿文皿		18 世紀前半 - 中葉	高 5.1	口径 20.3	底径 11.0	
47	染付椿文皿		1690-1740 年代	高 4.5	口径 20.3	底径 10.7	
48	染付桜流水文皿		18 世紀末	高 5.5	口径 20.3	底径 11.5	
49	染付松竹梅文大壷		19 世紀前半 - 中葉	高 48.0	口径 20.5	底径 20.5	

（6）同時開催：「伊万里焼の技術がもたらした日本各地の磁器」

50	色絵柘榴文皿	備後姫谷焼	1660-80 年代	高 2.5	口径 17.8	底径 10.2	
51	染付網目文皿	筑前須恵焼	19 世紀前半 - 中葉	高 4.4	口径 23.8	底径 15.3	
52	染付家屋山水文大皿	肥前志田焼	1820-60 年代	高 5.5	口径 31.8	底径 18.3	
53	青磁染付梅鶯文三足付皿	肥前波佐見焼	1670-1700 年代	高 7.5	口径 30.0	底径 10.0	
54	染付欧字文醤油瓶	肥前波佐見焼	1840-60 年代	高 19.1	口径 3.0	底径 8.3	
55	雉置物	肥前平戸焼	幕末－明治初期	高 21.0		径 13.0×18.0	
56	染付透し香炉	肥前平戸焼	明治中期	高 28.0		径 15.0×15.0	
57	染付麒麟鶴亀文蝉付花瓶	肥前平戸焼	江戸時代末期	高 33.5	口径 24.2	底径 11.3	
58	色絵花鳥文瓶	加賀九谷焼	19 世紀前半	高 22.0	口径 2.0	底径 6.5	
59	色絵楼閣人物文瓢形瓶	加賀九谷焼	19 世紀前半	高 22.0	口径 2.5	底径 6.1	
60	色絵松竹梅文台付鉢	加賀九谷焼	19 世紀前半	高 17.0	口径 27.0	底径 15.7	
61	色絵牡丹文鉢	加賀九谷焼	19 世紀前半	高 8.0	口径 26.0	底径 15.8	
62	色絵朝顔文皿	加賀九谷焼	19 世紀前半	高 3.0	口径 19.0	底径 10.7	
63	赤絵鉢	加賀九谷焼	江戸後期	高 9.0	口径 19.0	底径 9.0	
64	彩釉壷	徳田八十吉（三代）		高 22.0	口径 3.5		

65	色絵孔雀文大皿		1650 年代頃	高 7.0	口径 39.5	底径 16.7	
66	色絵椿文大皿		1650 年代頃	高 8.0	口径 38.0	底径 15.5	

所蔵品展Ⅰ　朝鮮通信使と異文化交流

会期　2020（令和２）年４月８日（水）～７月 13 日（月）
＊2020（令和２）年３月９日（月）から５月 10 日（日）まで新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館
会場　松濤園　御馳走一番館

おもな関連記事、番組など
○「市政だより くれ」４月号、呉市　○「市政だより くれ」５月号、呉市　○「市政だより くれ」６月号、呉市　○「月刊くれえばん」７月号、株式会社 SA メディアラボ

印刷物（ポスター、チラシは陶磁器館、御馳走一番館の２館共通）
●ポスターＢ２判　10 枚
●チラシＡ４判（両面刷り）10,000 部
●出品目録Ａ４判（両面刷り）

目的
朝鮮通信使が来日すると各地では異文化交流がおこなわれた。朝鮮通信使には儒学を修め高い教養を身に着けた使節が選ばれており、当時日本の儒学者などと盛んに交流を持ち、その様子はさまざまな形で記録として残っている。朝鮮通信使の訳官として来日し、日本語で和歌を詠み当時の日本人を驚かせた趙景安（チョウ・キョンアン）の書などを展示することにより、日本各地の交流の様子を紹介した。

展示内容
（１）常設展示　－体感！御馳走一番－
朝鮮通信使船、等身大人形、本陣復元模型、七五三の膳・三汁十五菜の膳の模型を常設で展示している。朝鮮通信使の旅程の様子、身に着けていた衣装、下蒲刈に来島した際の様子、もてなしの際の儀式料理、朝鮮通信使へ出されていた食事の様子を年間を通して展示し朝鮮通信使の歴史を学べる内容としている。

（２）朝鮮通信使と異文化交流
狩野清真の描いた絵に朝鮮通信使の李鵬溟（イ・ブンミョン）が賛文を付した瀟湘八景図巻や通信使の画員荷潭（ハダン）の描いた寿老人図に佐賀藩の儒学者古賀精里が賛文を付した作品の複製パネルを展示し、両国間で行われた文化交流の様子を紹介した。また所蔵資料の趙景安（チョウ・キョンアン）筆の書を展示し、日本人と通信使との間でおこなわれた異文化交流の様子を紹介した。

（３）朝鮮通信使の故郷－朝鮮の美術－
朝鮮通信使のふるさとである朝鮮半島の古美術を紹介した。花鳥故事図屏風を展示し、朝鮮時代後期、おもに新婚夫婦の部屋の装飾品として好まれたことなどを紹介した。また朝鮮磁器を展示し朝鮮王朝期に制作された磁器の魅力を紹介した。

（小川英史／土井基子）

展示風景

展示風景

松濤園　御馳走一番館　所蔵品展Ⅰ　「朝鮮通信使と異文化交流」 出品リスト　　＊無表記は財団所蔵

Ｎｏ．	資料名　＊作者　資料名	時代・年代など	おもな材質	形状	寸法（縦 × 横、その他）cm または（縦 × 横 × 奥行）cm	所蔵 復元模型／複製（所蔵先）

松濤園　御馳走一番館の資料のうち、絵図等の複製については原資料の時代・年代を表記し、おもな材質、形状は複製した状態を表記している。記載する寸法は本財団で計測したもの。

（1）常設展示　―体感！御馳走一番―

1	朝鮮通信使船					1／10 復元模型
2	北前船					復元模型
3	等身大人形と衣装					復元模型
4	本陣復元模型と行列人形					復元模型
5	七五三の膳				膳・各 25.5×41.0×41.0	復元模型
6	三汁十五菜の膳				台・32.5×105.0×65.0	復元模型
7	朝鮮人御用信楽長野村焼物雛形控		紙・プリント	額装		複製（個人）
8	通信使接待用陶器茶碗類					復元模型
9	雨森芳洲肖像	1748（延享５）年	紙・プリント	額装		複製（芳洲会）
10	韓使聘礼図（部分）	1837（天保８）年	紙・プリント	額装		複製（福禅寺）
11	狩野益信　朝鮮通信使歓待図屏風（部分）	17 世紀	紙・プリント	額装		複製（泉涌寺）

（2）朝鮮通信使と異文化交流

12	色絵朝鮮通信使行列絵巻之図大皿	明治時代	磁器	皿	高 7.0 口径 54.0	
13	色絵朝鮮通信使図大皿	幕末―明治	磁器	皿	高 5.8 口径 40.0	
14	文化度朝鮮通信使人物図巻	1811（文化８）年	紙・プリント	額装		複製（大阪歴史博物館）
15	狩野清真　瀟湘八景図巻	1682（天和２）年	紙・プリント			複製（大阪歴史博物館）
16	荷潭　寿老人図	1636（寛永 13）年	紙・プリント			複製（大阪歴史博物館）
17	朝鮮通信使行列図絵巻	江戸時代中期	紙本木版墨摺手彩色	巻子装	27.8×1710.0	
18	平安書林柳枝軒刊行　桑韓星槎答響	1718（享保４）年	紙本木版墨摺	冊子装	22.7×15.5	
19	平安書林柳枝軒刊行　桑韓星槎餘響	1719（享保４）年	紙本木版墨摺	冊子装	22.7×15.8	
20	正徳度朝鮮聘使録附言	1793（寛政５）年	紙本木版墨摺	冊子装	27.3×18.0	
21	水野徳方　白石新井君美先生肖像	1801（享和元）年	紙・プリント			複製（京都大学附属図書館）
22	朝鮮通信使歓待図屏風	江戸時代初期（1600 年代中頃）	紙本着色	二曲一隻	各 113.0×51.5	
23	趙景安　二行書	江戸時代中期	紙本墨書	軸装	94.3×32.5	
24	英一蝶　朝鮮通信使小童図	18 世紀	紙・プリント	額装		複製（大阪歴史博物館）
25	葛飾北斎　東海道五十三次　十七「由井」	江戸時代後期	紙・プリント	額装		複製（東京富士美術館）
26	狩野常信　趙泰億像	1711（正徳元）年	紙・プリント	額装		複製（国立中央博物館、韓国）
27	朝鮮人来朝覚備前御馳走船行烈図（部分）	1748（延享５）年	紙・プリント	額装		複製（財団所蔵）

（3）朝鮮通信使の故郷―朝鮮の美術―

28	花鳥故事図屏風	朝鮮　末期	紙本着色	十曲一隻	各（面）76.5×30.5	
29	染付龍文瓶	朝鮮　後期	磁器	瓶	高 31.5 口径 6.5 低径 15.5	
30	染付鶴文瓶	朝鮮　後期	磁器	瓶	高 25.9 口径 4.5 低径 10.0	
31	染付鳳凰文壷	朝鮮　後期	磁器	壷	高 20.8 口径 12.2 低径 11.0	
32	染付鯉文鉢	朝鮮　後期	磁器	壷	高 8.1 口径 17.1 低径 8.3	
33	バンダジ		木工		77.0×83.8×38.0	
34	バンダジ		木工		74.0×83.8×39.0	
35	衣装箱		木工		92.5×92.5×45.7	
36	竹張文匣		木工		46.5×81.7×32.5	
37	薬箪笥		木工		79.0×98.0×34.0	
38	米櫃		木工		92.3×92.5×57.4	

所蔵品展 II　朝鮮通信使が見た日本

会期　2020（令和２）年７月 15 日（水）～９月 28 日（月）
前期:2020（令和２）年７月 15 日（水）～８月 17 日（月）
後期:2020（令和２）年８月 19 日（水）～９月 28 日（月）
会場　松濤園　御馳走一番館

おもな関連記事、番組など
〇「市政だより くれ」８月号、呉市 〇「市政だより くれ」９月号、呉市　〇「り～ぶら」2020 年夏号、広島広域都市圏協議会

印刷物（ポスター、チラシは陶磁器館、御馳走一番館の２館共通）
●ポスター B２判　10 枚
●チラシ A４判（両面刷り）9,000 部
●出品目録 A４判（両面刷り）

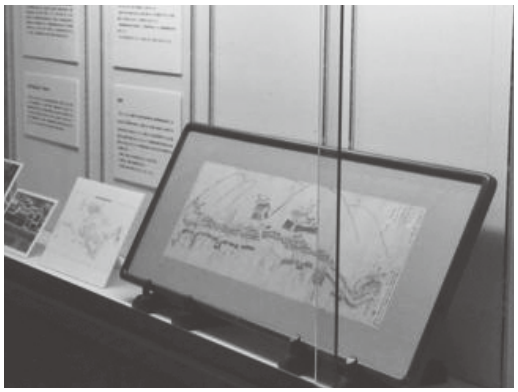
目的
　朝鮮通信使の画員の一人である李聖麟（イ・ソンリン）が日本各地の風景を描いた槎路勝区図を中心に、通信使が来日して目にした日本各地の風景を紹介した。

展示内容
（１）常設展示　－体感！御馳走一番－
　朝鮮通信使船、等身大人形、本陣復元模型、七五三の膳・三汁十五菜の膳の模型を常設で展示している。朝鮮通信使の旅程の様子、身に着けていた衣装、下蒲刈に来島した際の様子、もてなしの際の儀式料理、朝鮮通信使へ出されていた食事の様子を年間を通して展示し朝鮮通信使の歴史を学べる内容としている。

（２）朝鮮通信使が見た日本
　朝鮮通信使が江戸までの道中で目にした景勝地を描いた槎路勝区図により、当時の寄港地などの様子を紹介した。
　江戸後期、葛飾北斎が富士山と朝鮮通信使を描いた富嶽百景 「来朝の不二」や「東海道五十三次　原」を展示し、通信使と富士山とが、対比し描かれている様子を紹介した。また、円山応震筆「琵琶湖図」や画員の崔北（チェブク）が大坂の風景を描いた山水図を展示し、朝鮮通信使が見た当時の日本の風景を紹介した。

（３）朝鮮通信使の故郷－朝鮮の美術－
　朝鮮通信使のふるさとである朝鮮半島の古美術を紹介した。朝鮮磁器を展示し、朝鮮半島における磁器生産の歴史を紹介した。文字絵では、儒教の教えである八徳の文字が図案化された作品を展示し紹介した。

（小川英史／土井基子）


展示風景

展示風景

松濤園　御馳走一番館　所蔵品展Ⅱ　「朝鮮通信使が見た日本」　出品リスト　　＊無表記は財団所蔵

Ｎｏ．	資料名　＊作者　資料名	時代・年代など	おもな材質	形状	寸法（縦×横、その他）cm または（縦×横×奥行）cm	所蔵 復元模型／複製（所蔵先）

松濤園　御馳走一番館の資料のうち、絵図等の複製については原資料の時代・年代を表記し、おもな材質、形状は複製した状態を表記している。記載する寸法は本財団で計測したもの。

（1）常設展示　―体感！御馳走一番―

1	朝鮮通信使船					1／10 復元模型
2	北前船					復元模型
3	等身大人形と衣装					復元模型
4	本陣復元模型と行列人形					復元模型
5	七五三の膳				膳・各 25.5×41.0×41.0	復元模型
6	三汁十五菜の膳				台・32.5×105.0×65.0	復元模型
7	朝鮮人御用信楽長野村焼物雛形控		紙・プリント	額装		複製（個人）
8	通信使接待用陶器茶碗類					復元模型
9	雨森芳洲肖像	1748（延享５）年	紙・プリント	額装		複製（芳洲会）
10	韓使聘礼図（部分）	1837（天保８）年	紙・プリント	額装		複製（福禅寺）
11	狩野益信　朝鮮通信使歓待図屏風（部分）	17 世紀	紙・プリント	額装		複製（泉涌寺）

（2）朝鮮通信使が見た日本

12	三之瀬古地図		紙本墨画	額装	28.5×92.7	
13	李聖麟　槎路勝区図	1748（延享５）年	紙・プリント	額装		複製（国立中央博物館、韓国）
14	朝鮮人来朝道通り絵図	1764（宝暦 14）年	紙・プリント			複製（名古屋市蓬左文庫）
15	李彦邦揮毫、菅茶山扁額「日東第一景勝」扁額（拓本）	1711（正徳元）年	紙本墨摺	額装		拓本（福禅寺）
16	葛飾北斎　富嶽百景「来朝の不二」	1875（明治８）年	紙本墨摺	冊子装	22.6×710.0	
17	六十余州名所図会備後阿武門観音堂	江戸時代	紙本木版色摺	額装	26.5×36.5	
18	朝鮮通信使御楼船図屏風	18 世紀	紙・プリント			複製（大阪歴史博物館）
19	朝鮮通信使行列図	江戸時代	紙本着色	巻子装	24.3×710.0	
20	朝鮮通信使行列図巻		紙本木版	巻子装	15.8×1223.5	
21	宝永華洛細見図　第十巻	宝永年間	紙本墨摺	冊子装	26.5×19.0	
22	朝鮮人来朝物語	1748（延享５）年	紙・プリント			複製（京都大学附属図書館）
23	葛飾北斎　東海道五十三次のうち、「原」	江戸時代後期	紙・プリント			複製（名古屋市博物館）
24	狩野益信　朝鮮通信使歓待図屏風	17 世紀	紙・プリント			複製（御寺泉涌寺）
25	崔北　山水図	1748（延享５）年	紙本墨画淡彩	軸装	57.5×38.3	
26	市川君圭　朝鮮通信使富士賞賛図		紙本墨画	軸装		
27	赤間関信使屋并近辺図	1748（延享５）年	紙・プリント	額装		複製（岩国徴古館）
28	奥村政信　朝鮮人行列図	江戸時代　18 世紀	紙・プリント	額装		複製（東京国立博物館）
29	洛中洛外図（今井町本）	江戸時代中期	紙・プリント	額装		複製（個人）
30	朝鮮人来朝覚備前御馳走船行烈図（部分）	1748（延享５）年	紙・プリント	額装		複製（財団所蔵）

（3）朝鮮通信使の故郷―朝鮮の美術―

35	文字絵（前期）	朝鮮	紙本着色	額装	各 62.5×28.0	
36	花鳥図		紙本著色	額装	58.0×29.7	
37	青磁菊文瓶	高麗	磁器	瓶	高 30.7 口径 4.0 低径 10.7	
38	染付花鳥文壷	朝鮮　後期	磁器	壷	高 36.5 口径 14.0 低径 17.2	
39	白磁辰砂丸文壷	朝鮮　中期	磁器	壷	高 19.2 口径 12.2 低径 10.9	
40	白磁壷	朝鮮　後期	磁器	壷	高 36.2 口径 14.8 低径 13.1	
41	バンダジ		木工		77.0×83.8×38.0	
42	バンダジ		木工		74.0×83.8×39.0	
43	衣装箱		木工		92.5×92.5×45.7	
44	竹張文匣		木工		46.5×81.7×32.5	
45	薬箪笥		木工		79.0×98.0×34.0	
46	米櫃		木工		92.3×92.5×57.4	

No.16、19、22、35 は前半展示、No.17、20 は後半展示。

所蔵品展Ⅲ　朝鮮通信使と船の旅

会期　2020（令和２）年９月30日（水）～2021（令和３）年１月11日（月）
前期:2020（令和２）年９月30日（水）～11月23日（月）
後期:2020（令和２）年11月25日（水）～2021（令和３）年１月11日（月）
会場　松濤園　御馳走一番館

おもな関連記事、番組など
○「市政だより くれ」10月号、呉市　○「市政だより くれ」11月号、呉市　○「市政だより くれ」12月号、呉市　○「市政だより くれ」１月号、呉市

○「イマナマ！」中国放送、2020（令和２）年10月15日放送

印刷物（ポスター、チラシは陶磁器館、御馳走一番館の２館共通）
●ポスターＢ２判　10枚
●チラシＡ４判（両面刷り）10,000部
●出品目録Ａ４判（両面刷り）

目的
本展は前期・後期に分け、朝鮮通信使の長い旅の中で、朝鮮半島南端の釜山から大坂までの航海と、大坂河口から京都までの船旅の様子を紹介した。牛窓や室津、兵庫津などの宿割図と「朝鮮人来朝覚　備前御馳走船行烈図」を中心に、瀬戸内海を大船団を組み航海する様子を説明し、また、「朝人来朝図説」では大坂河口から川御座船に乗り替え航行する様子を紹介した。

展示内容
（１）常設展示　－体感！御馳走一番－
朝鮮通信使船、等身大人形、本陣復元模型、七五三の膳・三汁十五菜の膳の模型を常設で展示している。朝鮮通信使の旅程の様子、身に着けていた衣装、下蒲刈に来島した際の様子、もてなしの際の儀式料理、朝鮮通信使へ出されていた食事の様子を年間を通して展示し朝鮮通信使の歴史を学べる内容としている。

（２）朝鮮通信使と船の旅
朝鮮通信使の旅程の約半分は航路だった。朝鮮半島南端の釜山から大坂までは、大型の外洋船である朝鮮通信使船で進んだ。日本に伝世する記録物にも多く朝鮮通信使船が描かれている。中でも「朝鮮人来朝覚　備前御馳走船行烈図」は、瀬戸内海を航行する様子が詳しく描かれた貴重な資料で、前期展示の中心に据えた。後期展示では、大坂から京都まで淀川を豪華絢爛な川御座船で航行する様子を「朝鮮人来朝図説」や大阪歴史博物館所蔵の「正徳度朝鮮通信使国書先導船図屏風」の複製パネルを用い紹介した。

（３）朝鮮美術　－朝鮮半島のやきものの伝統－
前期展示では、朝鮮王朝時代に作られた磁器作品を展示し、後期展示では、朝鮮半島の伝統的なやきものの技法を受け継ぎ制作する李殷九（イ・ウンク）の作品と安東五（アン・ドンウォ）の作品を紹介した。また、朝鮮民画の主題

展示風景

展示風景

の中で、史話の一つとして愛された三国志の物語が描かれた屏風もあわせて紹介した。

（小川英史／土井基子）

松濤園　御馳走一番館　所蔵品展Ⅲ　「朝鮮通信使と船の旅」　出品リスト　　＊無表記は財団所蔵

Ｎｏ．	資料名　＊作者　資料名	時代・年代など	おもな材質	形状	寸法（縦 × 横、その他）cm または（縦 × 横 × 奥行）cm	所蔵 復元模型／複製（所蔵先）

松濤園　御馳走一番館の資料のうち、絵図等の複製については原資料の時代・年代を表記し、おもな材質、形状は複製した状態を表記している。記載する寸法は本財団で計測したもの。

（1）常設展示　―体感！御馳走一番―

1	朝鮮通信使船					1／10 復元模型
2	北前船					復元模型
3	等身大人形と衣装					復元模型
4	本陣復元模型と行列人形					復元模型
5	七五三の膳				膳・各 25.5×41.0×41.0	復元模型
6	三汁十五菜の膳				台・32.5×105.0×65.0	復元模型
7	朝鮮人御用信楽長野村焼物雛形控		紙・プリント	額装		複製（個人）
8	通信使接待用陶器茶碗類					復元模型
9	雨森芳洲肖像	1748（延享５）年	紙・プリント	額装		複製（芳洲会）
10	韓使聘礼図（部分）	1837（天保８）年	紙・プリント	額装		複製（福禅寺）
11	狩野益信　朝鮮通信使歓待図屏風（部分）	17 世紀	紙・プリント	額装		複製（泉涌寺）

（2）朝鮮通信使と船の旅

12	染付日本地図文大皿	1830-60 年代	磁器	皿	高 7.5 口径 47.6 底径 26.0	
13	染付日本地図文角大皿	1830-60 年代	磁器	皿	高 4.6 口径 33.0×27.5 底径 17.0	
14	金彩染付朝鮮通信使船図皿　５枚	江戸時代末期 - 明治時代	磁器		高 3.3 径 18.5	
15	巻物地図　朝鮮～蝦夷	紙本著色	巻子装			
16	文化度朝鮮人物図巻（部分）	1811（文化８）年	紙・プリント	額装		複製（大阪歴史博物館）
17	朝鮮人来朝覚備前御馳走船行列図（部分）	1748（延享５）年	紙・プリント	額装		複製（財団所蔵）
18	朝鮮通信使行列図		紙本着色	巻子装	24.3×710	
19	朝鮮通信使行列図絵巻	江戸時代中期	紙本著色	巻子装	27.8×1710.0	
20	朝鮮人来朝覚備前御馳走船行烈図	1748（延享５）年	紙本着色	巻子装	14.5×824.9	
21	弥太郎　朝鮮通信使来朝図説	1855（安政２）年	紙本著色	巻子装	25.5×817.0	
22	御茶屋絵図	江戸時代中期	紙・プリント			複製（岡山大学附属図書館）
23	朝鮮通信使室津入港図	宝暦 14（1764）年	紙・プリント			複製（個人蔵）
24	朝鮮通信使兵庫津上陸・宿割図	江戸時代後期	紙・プリント			複製（神戸市立博物館）
25	正徳度朝鮮通信使国書先導船図屏風	1711 年頃	紙・プリント			複製（大阪歴史博物館）
26	寛延元年美濃路佐渡川船橋絵図	1748（延享５）年	紙・プリント			複製（岐阜県歴史資料館）
27	正徳度美濃路佐渡川船橋絵図	1711（正徳元）年	紙・プリント			複製（岐阜県歴史資料館）
28	朝鮮通信使船大坂河口之図屏風		紙本着色	六曲一隻	118.0×276.0	
29	朝鮮船図					
30	三木屋喜左衛門板元　朝鮮人渡海船之図	1811（文化８）年	紙・プリント	額装		複製（大阪歴史博物館）
32	朝鮮通信船上関来航図	18 世紀	紙・プリント	額装		複製（超専寺）
33	朝鮮船対馬入湊図	1811（文化８）年	紙・プリント	額装		複製（個人）
34	草場珮川　韓船仰面図・韓船開帆図	1811（文化８）年	紙・プリント	額装		複製（多久市郷土資料館）
35	大船用文（部分）	1763（宝暦 13）年	紙・プリント	額装		複製（天理大学附属図書館天理図書館）
36	朝鮮船図	1811（文化８）年	紙・プリント	額装		複製（個人）

（3）朝鮮美術―朝鮮半島のやきものの伝統―

37	狩猟図	朝鮮	紙本着色	額装	99.2×47.0	
38	飴釉面取瓶	朝鮮　後期	磁器	瓶	高 27.9 口径 4.0 底径 9.3	
39	染付龍文瓶	朝鮮　後期	磁器	瓶	高 31.5 口径 6.5 底径 15.5	

No.12～14、16、18、20、28、37～41 は前半展示、No.15、17、19、21、29、42～45 は後半展示。

40	白磁壷	朝鮮　中期	磁器	壷	高 25.0 口径 14.5 底径 14.7	
41	白磁三耳付壷	朝鮮　中期	磁器	壷	高 25.0 口径 19.1 底径 15.0	
42	朝鮮屏風	朝鮮	紙本着色	六曲一隻	65.9×277.5	
43	安東五　李朝伝統白磁壷		磁器	壷	高 57.0 径 46.9	
44	李殷九　粉青粉引牡丹長壷		陶器	壷	高 38.5 径 22.5	
45	李殷九　粉青唐草紋壷		陶器	壷	高 33.0 径 29.6	
46	バンダジ		木工		77.0×83.8×38.0	
47	バンダジ		木工		74.0×83.8×39.0	
48	衣装箱		木工		92.5×92.5×45.7	
49	竹張文匣		木工		46.5×81.7×32.5	
50	薬箪笥		木工		79.0×98.0×34.0	
51	米櫃		木工		92.3×92.5×57.4	

所蔵品展Ⅳ　朝鮮通信使と饗応

会期　2021（令和３）年１月 13 日（水）～４月５日（月）
会場　松濤園　御馳走一番館

おもな関連記事、番組など
〇「市政だより くれ」２月号、呉市 〇「市政だより くれ」３月号、呉市

印刷物（ポスター、チラシは陶磁器館、御馳走一番館の２館共通）
●ポスターＢ２判　10 枚
●チラシＡ４判（両面刷り）10,000 部
●出品目録Ａ４判（片面刷り）

目的
　江戸時代に国賓として来日した朝鮮通信使。一行が江戸までの道中で立ち寄る各地では藩を挙げた豪華なおもてなしがなされていた。本展では各地でおこなわれた饗応の様子と、その準備の様子などを紹介した。

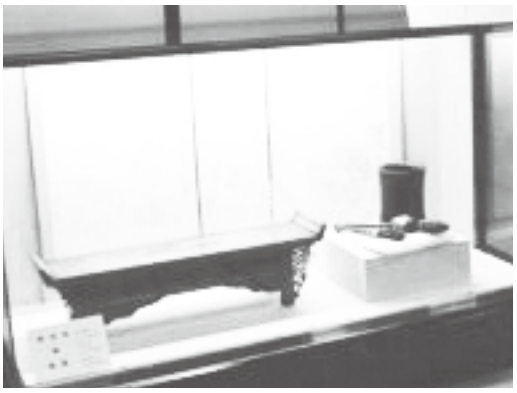
展示内容
（１）常設展示　－体感！御馳走一番－
　朝鮮通信使船、等身大人形、本陣復元模型、七五三の膳・三汁十五菜の膳の模型を常設で展示している。朝鮮通信使の旅程の様子、身に着けていた衣装、下蒲刈に来島した際の様子、もてなしの際の儀式料理、朝鮮通信使へ出されていた食事の様子を年間を通して展示し朝鮮通信使の歴史を学べる内容としている。

（２）朝鮮通信使と饗応
　お祝いの食べ物や料理を出し儀式に臨む行事を祝言といい、江戸時代前期の祝言の記録である「祝言膳部次第」を全巻展示することにより、江戸前期の饗応の記録を来館者へ紹介した。また、朝鮮通信使の饗応の記録として、「朝鮮人御饗応献立」、福禅寺の「韓使聘礼図」の複製パネルを活用し、実際にどのような形で饗応がおこなわれていたかを視覚的に分かりやすく紹介した。

（３）朝鮮の美術－十長生図衝立・両班（ヤンバン）の暮らし
　朝鮮通信使のふるさとである朝鮮半島の古美術を紹介した。その中で、不老長寿や吉祥の意味が込められた十長生（じっちょうせい）図衝立を紹介した。また、朝鮮王朝時代の両班（ヤンバン）の暮らしの中で重宝され、文房四宝（ぶんぼうしほう）と呼ばれた。墨や筆、筆筒や長机などを展示し紹介した。

（小川英史／土井基子）

展示風景


展示風景

松濤園　御馳走一番館　所蔵品展Ⅳ　「朝鮮通信使と饗応」　出品リスト　　＊無表記は財団所蔵

Ｎｏ．	資料名　＊作者　資料名	時代・年代など	おもな材質	形状	寸法（縦 × 横、その他）cm または（縦 × 横 × 奥行）cm	所蔵 復元模型／複製（所蔵先）

松濤園　御馳走一番館の資料のうち、絵図等の複製については原資料の時代・年代を表記し、おもな材質、形状は複製した状態を表記している。記載する寸法は本財団で計測したもの。

（1）常設展示　―体感！御馳走一番―

1	朝鮮通信使船					1／10 復元模型
2	北前船					復元模型
3	等身大人形と衣装					復元模型
4	本陣復元模型と行列人形					復元模型
5	七五三の膳				膳・各 25.5×41.0×41.0	復元模型
6	三汁十五菜の膳				台・32.5×105.0×65.0	復元模型
7	朝鮮人御用信楽長野村焼物雛形控		紙・プリント	額装		複製（個人）
8	通信使接待用陶器茶碗類					復元模型
9	雨森芳洲肖像	1748（延享５）年	紙・プリント	額装		複製（芳洲会）
10	韓使聘礼図（部分）	1837（天保８）年	紙・プリント	額装		複製（福禅寺）
11	狩野益信　朝鮮通信使歓待図屏風（部分）	17 世紀	紙・プリント	額装		複製（泉涌寺）

（2）朝鮮通信使と饗応

12	色絵朝鮮通信使滄洲漢詩入保命酒徳利	江戸後期	陶器		22.5×13.5	
13	色絵保命酒徳利	江戸後期	陶器		17.0×25.3	
14	保命酒徳利（大）	江戸後期～明治時代	陶器		36.2×14.7×14.7	
15	保命酒徳利（小）	江戸後期～明治時代	陶器		30.2×12.2×12.2	
16	文化度朝鮮人物図巻	1811（文化８）年	紙・プリント	額装		複製（大阪歴史博物館）
17	猪飼正㱿　朝鮮人御饗応七五三膳部図	19 世紀	紙・プリント			複製（名古屋市蓬左文庫）
18	祝言膳部次第	1628（寛永５）年	紙本着色	巻子装	35.3×768.0	
19	朝鮮人御饗応献立	1748（延享５）年	紙本墨書	冊子装	23.0×15.6	
20	韓使聘礼図	1837（天保８）年	紙・プリント			複製（福禅寺）
21	朝鮮通信使歓待図屏風	江戸時代初期（1600 年代中頃）	紙本着色	二曲一隻	各 113.0×51.5	
22	朝鮮人来朝物語	1748（延享５）年	紙・プリント	額装		複製（京都大学附属図書館）
23	韓使饗饌図		紙・プリント	額装		複製（慶應義塾図書館）
24	津島日記（食器図）	1811（文化８）年	紙・プリント	額装		複製（佐賀大学附属図書館）
25	赤間関信使屋并近辺図	1748（延享５）年	紙・プリント	額装		複製（岩国徴古館）
26	朝鮮人来朝覚備前御馳走船行烈図（複製）	1748（延享５）年	紙・プリント	額装		複製（財団所蔵）

（3）朝鮮の美術－十長生図衝立・両班（ヤンバン）の暮らし

27	十長生図衝立	朝鮮	紙本着色	衝立	90.1×170.5	
28	長台机	朝鮮	木工		26.1×89.9×22.8	
29	大筆（２本）	朝鮮	木工		48.0×7.5×7.5（大）　36.0×3.9×3.9（小）	
30	筆筒	朝鮮	木工		21.2×17.5×17.5	
31	古墨「十大高僧墨」（10 個組）	朝鮮	墨		2.0×21.1×29.2	
32	古墨「十二生套墨」（12 個組）	朝鮮	墨		2.4×20.5×29.5	
33	古墨「十二生肖蔵墨」（12 個組）	朝鮮	墨		2.2×21.0×31.8	
34	バンダジ		木工		77.0×83.8×38.0	
35	バンダジ		木工		74.0×83.8×39.0	
36	衣装箱		木工		92.5×92.5×45.7	
37	竹張文匣		木工		46.5×81.7×32.5	
38	薬箪笥		木工		79.0×98.0×34.0	
39	米櫃		木工		92.3×92.5×57.4	

通年展示

運営する施設のうち、地域の歴史や所蔵品に関連する貴重な資料については年間を通して展示公開している。その展示内容とおもな展示資料を下記にまとめた。

□三之瀬御本陣芸術文化館の通年展示ー須田国太郎思い出の部屋

須田国太郎愛用の品々を展示。油絵道具一式、イーゼルなどの油彩画の道具や、戸外制作に出かける際、須田が用いた固形水彩やパレットなどの愛用画材や関連資料を紹介している。また、スペインに留学していた時に使用したトランクや、戸外スケッチの時にいつもかぶっていた帽子などの身の回りの品を紹介。さらに、須田国太郎が好んで収集していた 715 点のグリコのおまけのおもちゃを展示している。

三之瀬御本陣芸術文化館　須田国太郎思い出の部屋・展示室内その他　2020（令和２）年度通年展示資料一覧　＊無表記は財団所蔵

須田国太郎遺品・愛用品資料のうち、写真資料以外の製造年代、形状は省略する。また、記載する寸法は本財団で計測したもの。写真は複製した際の寸法。

No.	資料名（須田国太郎遺品・愛用品資料）	時代・年代など	おもな材質	形状	寸法（縦×横）cm または（縦×横×奥行）cm	所蔵
1	江崎グリコ株式会社 グリコのおまけのおもちゃ（715 点）	1945 年代～1960 年代	プラスチック他		ー	
2	須田国太郎肖像写真 (田中真知男撮影)	1954（昭和 29）年	紙・プリント	パネル	54.0×43.0	
3	須田国太郎肖像写真 ＊第 11 回独立美術展会場で撮影されたもの（部分）	1941（昭和 16）年	紙・プリント	パネル	43.0×54.0	
4	パレット（油絵用）絵具つき		プラスチック板		49.0×37.5	
5	二つ折り持ち運び用パレット (油絵用)		木製		36.0×25.0	
6	WINSOR & NEWTON 社製 油壺（蓋つき）		陶器		13.0×8.0	
7	WINSOR & NEWTON 社製 油壺（蓋なし）		陶器		12.5×8.5	
8	筆立（小）		陶器		13.5×10.0×10.0	
9	筆立（大）		木製		1.0×25.0	
10	筆類：18 本 ＊鳥の羽３本、つけペン１本、鉛筆２本、筆 12 本		木製			
11	筆類：筆９本、つけペン１本、鉛筆４本、ナイフ１本		木製他		10.0～30.0	
12	絵具箱（油絵具７本）		紙箱		13.0×8.0	
13	絵具箱（油絵具・レンチ）		金属製箱		4.5×36.0×13.0	
14	油絵具一式		木箱		11.5×42.5×30.5	
15	絵具箱 ＊筆５本、絵具 25 本、油壺１本、油入１つ		木製		8.0×40.0×16.0	
16	書見台		木製		20.0×30.0×20.0	
17	WINSOR & NEWTON 社製 固形水彩付パレット（小）		金属製		1.5×21.0×13.0	
18	WINSOR & NEWTON 社製 固形水彩付パレット（大）		金属製		1.5×23.0×22.0	
19	東京大日本文具株式会社製 Pentel 水彩絵具セット 10 本		紙箱			
20	トランク		革張り、金属		34.0×51.0×96.0	
21	革帽子		革		16.0×30.0×33.0	
22	イーゼル		木製		193.0×73.0×58.0	
23	須田国太郎撮影 渡欧写真（複製） （ダロカ・スペイン）	1922（大正 11）年	紙・プリント		30.0×39.0	
24	須田国太郎撮影 渡欧写真（複製） ＊バレンシア / ドスアグアス侯爵邸（スペイン）	1922（大正 11）年	紙・プリント		39.0×30.0	
25	須田国太郎撮影 渡欧写真（複製） ＊バレンシアの河東（スペイン）	1922（大正 11）年	紙・プリント		39.0×30.0	
26	須田国太郎撮影 渡欧写真（複製） ＊サント・ドミンゴ (シグエンサ・スペイン)	1921（大正 10）年 11 月 17 日	紙・プリント		39.0×30.0	

□三之瀬御本陣芸術文化館の通年展示ーエントランス、ロビー、その他

三之瀬を含む下蒲刈の歴史･文化を写真パネルで年間を通して展示している。また、近世の貴人の様子を垣間見る目的として、嫁入り時に使用された姫駕籠を始め、甲冑や火縄銃などの武具などを紹介している。

（1）下蒲刈の文化と歴史

1748（延享 5）年来日の第 10 回朝鮮通信使一行の画員・李聖麟が、釜山から江戸までの路程を描いた槎路勝区図のうち、蒲刈を描いた図（複製）や当時の地図、福島雁木についてなど、歴史資料を展示。また、本陣の変遷を明治や昭和初期の三之瀬付近の写真で紹介している。

（2）自然と歴史・文化にもとづくまちづくり～下蒲刈ガーデンアイランド構想の実現～

江戸時代に朝鮮通信使を迎えるに当たり詠まれた『蒲刈八景』をテーマに整備された下蒲刈島の公共デザインを紹介。その八景のうちの一つ、白崎園を展示パネルで紹介。白崎園に設置され島のシンボルとなった、陶芸家の今井眞正のモニュメント作品「生ー土・火・知・空・水ー」や白崎園内に建つ頼山陽の詩碑を紹介している。

（3）江戸時代の甲冑、近世の姫駕篭、火縄銃、薙刀

福島正則が幕命でこの地に本陣を設けて以降、三之瀬が重要な寄港地であった頃の様子を垣間見るため、江戸時代の甲冑を始め火縄銃、薙刀などの武具類を展示している。また彦根藩、井伊家への輿入れの際に使用されたとされる姫駕籠を紹介している。

三之瀬御本陣芸術文化館　エントランス、ロビー、その他　通年展示資料一覧　　＊無表記は財団所蔵

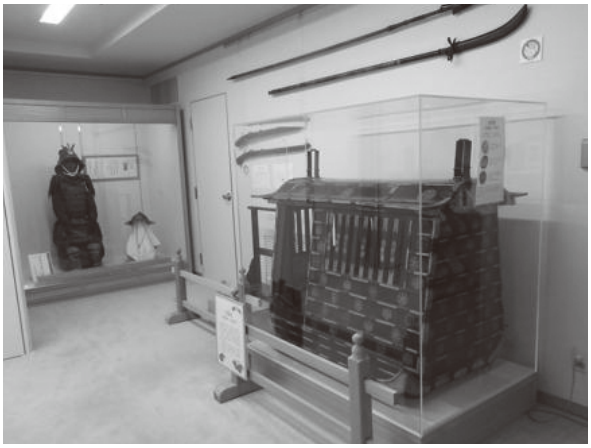
No.	資料名	時代・年代など	おもな材質	寸法（縦 × 横）cm または（縦 × 横 × 奥行）cm	所蔵

（1）（2）の下蒲刈の紹介コーナーを除き、（3）の展示資料を記す。甲冑の材質、寸法は省略。火縄銃、火縄銃立の材質は省略。

（3）江戸時代の甲冑、近世の姫駕篭、火縄銃、薙刀

1	鉄金箔押亀甲金鎖繋二枚胴具足	江戸時代中期			
2	姫駕籠	制作年不詳		119.0×127.0×79.0	
3	並河源以作 火縄銃	制作年不詳		全長 108.8 銃身長 75.8 口径 1.6	
4	火縄銃	制作年不詳		全長 115.4 銃身長 84.5 口径 1.4	
5	火縄銃立	制作年不詳	漆工	74.5×67.5× 25.8	
6	吉信作 凪鉈	制作年不詳	漆工	鞘付全長 229.0 本体全長 221.5	
7	槍	制作年不詳	刀剣	鞘付全長 280.0 本体全長 276.0	

記載する寸法は 2019（平成 31) 年度に本財団で計測したもの。火縄銃の寸法表記は全長、銃身長、口径の順。凪鉈、槍の寸法表記は鞘付全長、本体全長の順。
なお、薙刀の資料名は当財団の登録資料上の漢字表記とした。



□松濤園の通年展示　あかりの館

山口県上関町から移築した旧吉田邸を活用し、世界の珍しい灯火器のコレクションを展示している。呉市有形文化財に指定されている旧吉田邸は移築前の姿を残し、江戸時代からの古い商家の造りを実際に体感しながら見ることができる。その中で、灯火器も含めた昔の暮らしの道具も紹介し、歴史を感じる展示をおこなっている。

（1）日本のあかり

提灯や行灯など、かつて日本で実際に使われていた灯火器を、旧吉田邸の趣ある座敷を利用して展示している。提灯も行燈もそれぞれ、用途が違えば形が違うことを、並べて展示することで紹介している。また、多彩な和ろうそくも紹介している。

（2）世界のあかり

世界有数の灯火器コレクターである高田一郎氏のコレクションを中心に、紀元前のテラコッタランプや、電気が普及するまで利用されていたオイルランプを紹介している。光を灯す道具がいかに発展してきたかを総覧できるよう紹介している。

（3）旧吉田邸コレクション

移築の際に、建物とともに譲り受けた貴重な家具や資料を紹介。家具の中には、豪商ならではの帳場の設えなどを紹介している。吉田家に出入りのあった長州ゆかりの幕末志士の遺した資料などを一部紹介している。

松濤園　あかりの館　通年展示資料概要（＊各コーナーごとのおもな資料）

（1）日本のあかり	おもな資料：置き行灯四角枕元行灯、置き行灯六角枕元行灯、置き行灯面取形枕元行灯、〈置き行灯〉名古屋行灯、〈置き行灯〉円周行灯、鉄製あこだ形吊り灯籠、鉄製吊り灯籠、鉄製六角吊り灯籠、など
（2）世界のあかり	おもな資料：テラコッタ、石ランプ、人面ペンダント油灯、鳥ランプ、カルダン時計ランプ、クリックライト（5灯式）、オイルランプ、シナンプラ冠ランプ、シナンプランプ、キャンドルスタンド（祭壇用）、など
（3）旧吉田邸コレクション	おもな資料：帳場家具一式、衣裳箪笥一式、長火鉢、ダイスけやき（大）、茶釜（大）、火鉢、吉田健造墓名、石臼、階段箪笥（箱階段）、など

□松濤園の通年展示ー復元蒲刈島御番所

江戸時代に下蒲刈島に設置された番所を、現存している山口県上関町の番所を参考にして復元している。江戸時代に海駅に指定され、瀬戸内海の交通の要衝として重要な港であった下蒲刈島のことを紹介している。

（1）高札場

幕府の統治上の基本的な法及び重要な施策が掲示された高札場を再現している。ここでは特に、朝鮮通信使来島にあたっての特別な対応を掲示し、朝鮮通信使来島がいかに幕府や藩にとって一大事であったかを紹介している。

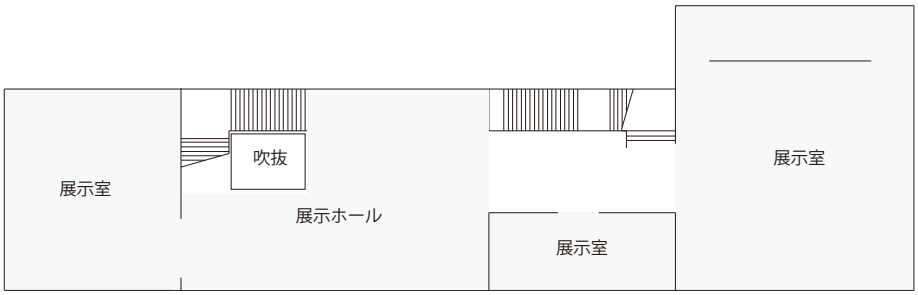
（2）弓・鉄砲・道具立て

弓や鉄砲の他に、突棒・ガリ棒（袖搦み）・サス棒（刺又）の三つ道具と消火用水桶の備えを再現して展示している。番所は、海・港の安全を守るための現在の警察的役割のほかに、火事に備えた消防的役割も担っていたことを紹介している。

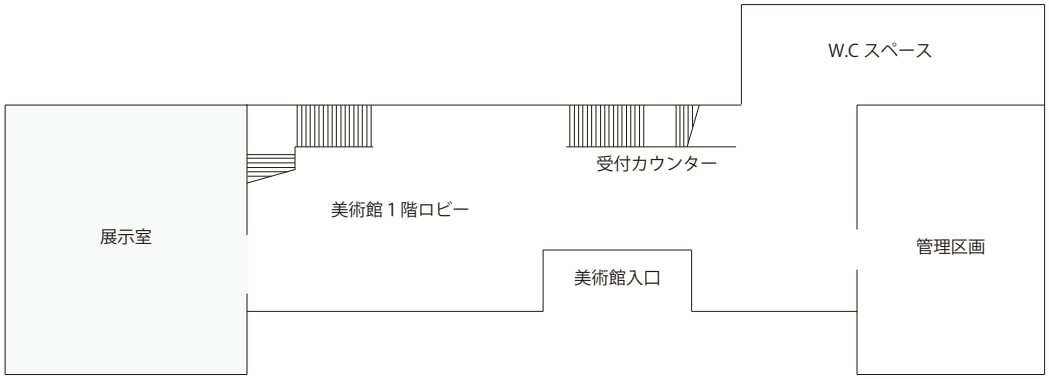
公開スペース一覧

□蘭島閣美術館

	構造	敷地面積	建築面積	延べ床面積	施設概要
蘭島閣美術館	木造２階建 （一部３階、一部地下）	1,401.07 ㎡	625.84 ㎡	1,056.65 ㎡	展示面積 541.04 ㎡／展示壁長 166.30 ㎡



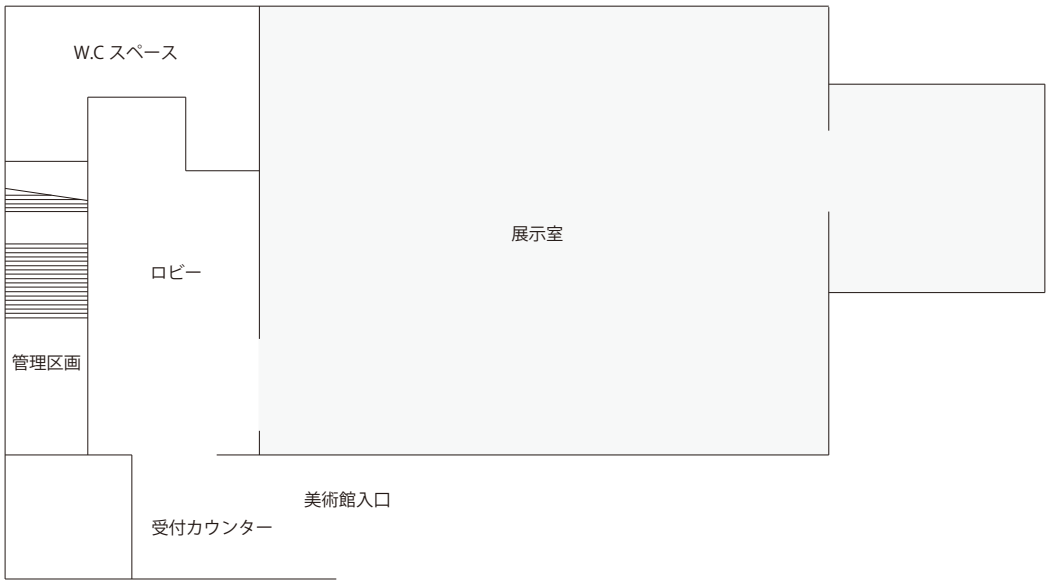
２階



１階

□蘭島閣美術館別館

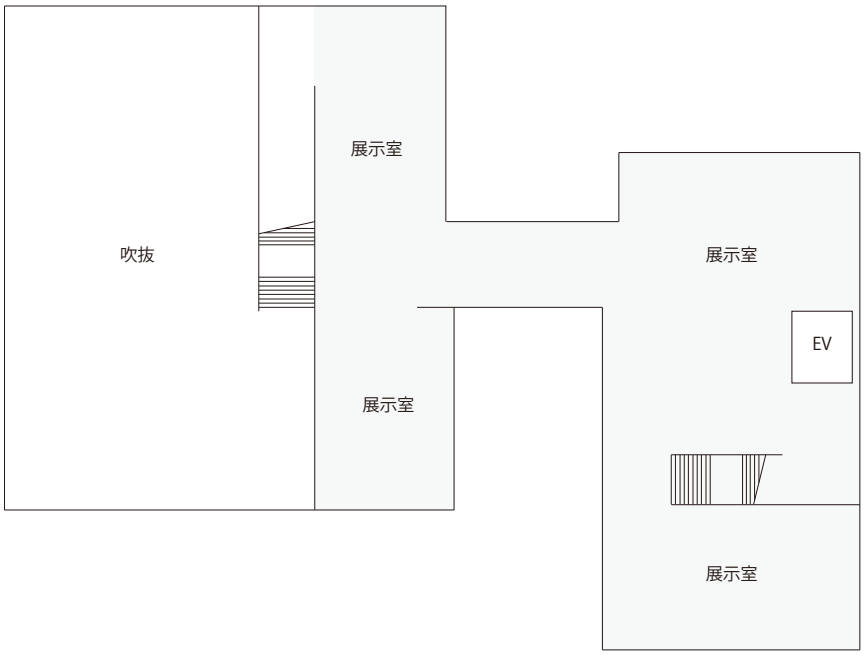
	構造	敷地面積	建築面積	延べ床面積	施設概要
蘭島閣美術館別館	木造瓦葺 1 階建	592.12 ㎡	291.51 ㎡	368.44 ㎡	展示面積 148.22 ㎡／展示壁長 58.60 ㎡



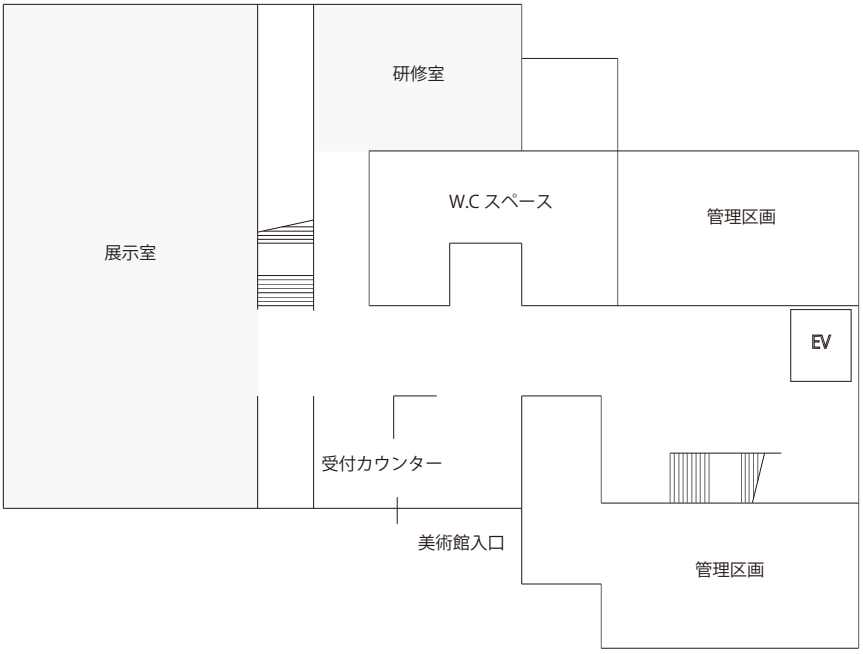
1 階

□三之瀬御本陣芸術文化館

	構造	敷地面積	建築面積	延べ床面積	施設概要
三之瀬御本陣芸術文化館	鉄筋２階建 （一部地下）	852.77 ㎡	533.97 ㎡	1,064.95 ㎡	展示面積 401.80 ㎡／展示壁長 96.90 ㎡



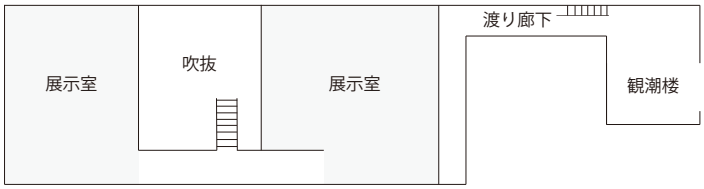
２階



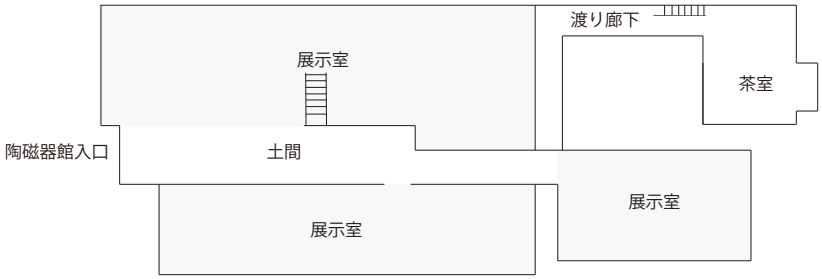
１階

□松濤園　陶磁器館

	構造	敷地面積	建築面積	延べ床面積	施設概要
陶磁器館（旧木上邸）	木造瓦葺２階建 茶室茅葺２階建	4,376.35 ㎡ （松濤園全体）	153.28 ㎡	233.04 ㎡	―



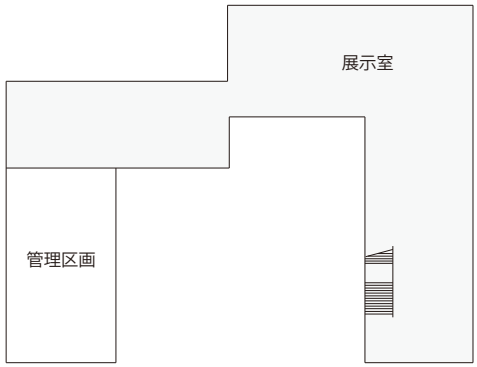
２階



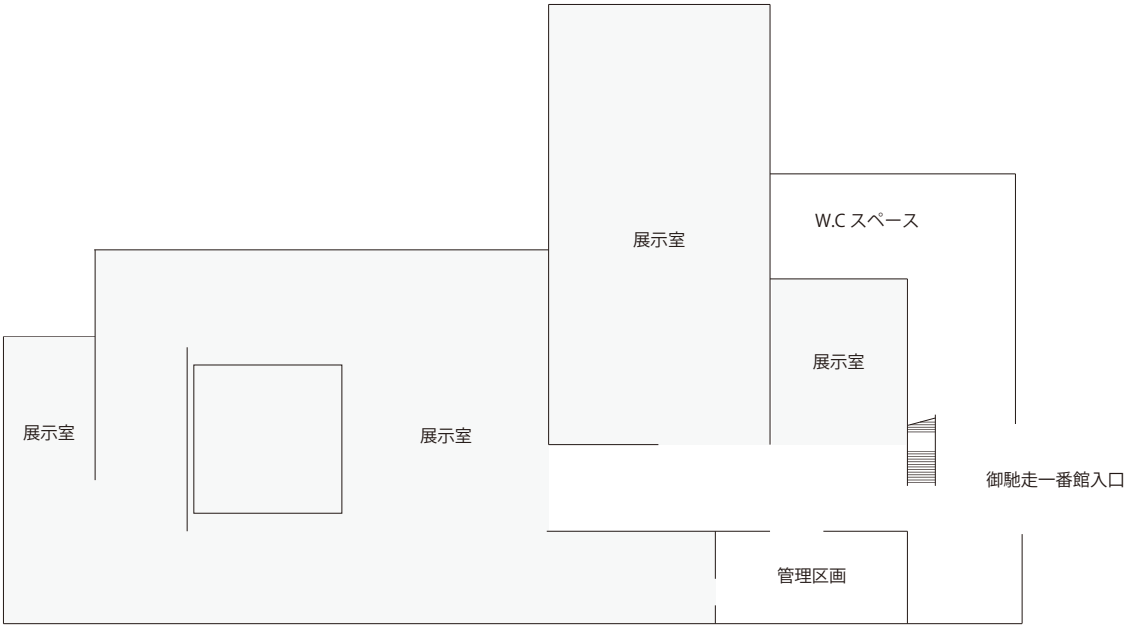
１階

□松濤園　御馳走一番館（朝鮮通信使資料館）

	構造	敷地面積	建築面積	延べ床面積	施設概要
御馳走一番館（旧有川邸）	木造板葺及び瓦葺２階建	4,376.35 ㎡ （松濤園全体）	521.91 ㎡	576.57 ㎡	―



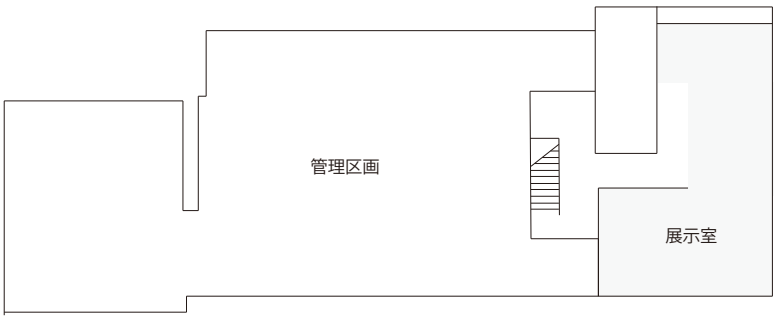
２階



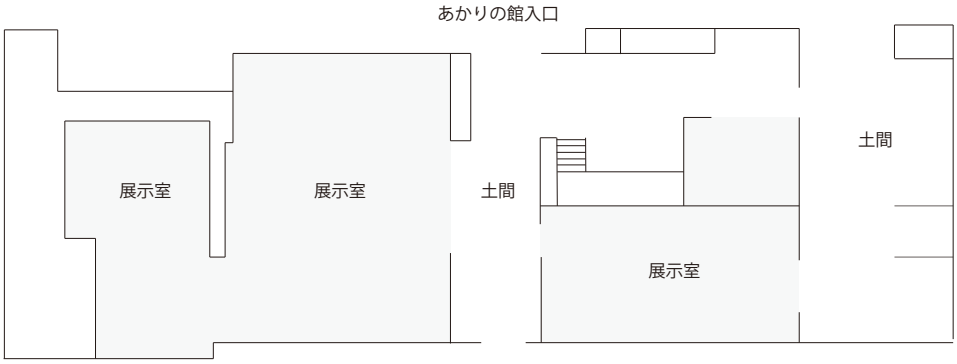
１階

□松濤園　あかりの館

	構造	敷地面積	建築面積	延べ床面積	施設概要
あかりの館（旧吉田邸）	木造本瓦葺２階建	4,376.35 ㎡ （松濤園全体）	294.22 ㎡	464.96 ㎡	―



２階



１階

□松濤園　蒲刈島御番所

	構造	敷地面積	建築面積	延べ床面積	施設概要
蒲刈島御番所	木造平屋建	4,376.35 ㎡ （松濤園全体）	67.65 ㎡	67.65 ㎡	―

1 階

＊指定管理する施設のうち、白雪楼、昆虫の家「頑愚庵」、春蘭荘、松藾亭及び煎茶室は除く。
＊公開スペースの図は、展示区画の見取り図として作成。収蔵庫、空調設備などを含む管理区画は除く。

その他の公開

インターネットでの資料公開・資料貸出・画像提供・資料閲覧

インターネットでの資料公開

□インターネットでの資料公開
2020（令和２）年度の展示公開事業にあわせて展覧会情報を掲載し、主要資料をホームページで公開した。

（更新順）

展覧会名	作者	資料名	掲載期間
蘭島閣美術館別館所蔵品展Ⅰ 童画の登場－大正・昭和初期の新メディア	寺内萬治郎	挿絵　くたびれごま	2020.2.5～2020.8.25
松濤園陶磁器館所蔵品展Ⅰ 色絵磁器の変遷	―	色絵花卉文六角壷	2020.5.10～2020.7.14
	―	色絵山水丸文折紙形小皿	
	―	色絵孔雀文大皿	
松濤園御馳走一番館所蔵品展Ⅰ 朝鮮通信使と異文化交流	趙景安	二行書	2020.5.10～2020.7.14
	―	朝鮮通信使行列図絵巻	
三之瀬御本陣芸術文化館所蔵品展Ⅰ 三岸節子　花より花らしく 同時開催：須田国太郎の見つめた自然	三岸節子	高原の花	2020.5.10～2020.8.4
	須田国太郎	花山天文台遠望	
		雑草	
蘭島閣美術館所蔵品展Ⅰ 花ひらく芸術－院展の作家を中心に－	横山大観	冬の海	2020.5.20～2020.7.21
	川合玉堂	松山遠嶺	
松濤園陶磁器館所蔵品展Ⅱ やきもの動物園	―	色絵鶴文十二角皿	2020.7.15～2020.9.29
	―	染付波兎雲文皿	
松濤園御馳走一番館所蔵品展Ⅱ 朝鮮通信使が見た日本	崔北	山水図	2020.7.15～2020.9.29
	―	三之瀬古地図	
蘭島閣美術館所蔵品展Ⅱ 水の表現一絵画から工芸まで	南薫造	瀬戸の夕陽	2020.7.22～2020.9.8
	黒田清輝	伊豆大島遠望	
	―	色絵椿文小皿	
三之瀬御本陣芸術文化館所蔵品展Ⅱ 須田国太郎と能－芸に魅せられた画家たち－	須田国太郎	能（角田川）	2020.8.5～2020.9.24
		能（角田川）	
		能（盛久）	
	池田栄廣	能衣裳	
	池田琳子	かげぼうし	
	楊洲周延	土蜘	
蘭島閣美術館別館所蔵品展Ⅱ 裸婦を描いて－寺内萬治郎の世界－	寺内萬治郎	裸婦	2020.8.26～2020.12.22
特別展 はしもとみお彫刻展　海からはじまるいきものたち （会場：蘭島閣美術館）	はしもとみお	猫布団	2020.9.9～2020.11.25
		月くん	
		動物たち１	
		動物たち２	
秋季特別展 京都近代日本画の精華 （会場：三之瀬御本陣芸術文化館）	竹内栖鳳	秋深・敗荷白鷺（所蔵：海の見える杜美術館）	2020.9.25～2020.11.10
	橋本関雪	琴高騎鯉図（所蔵：華鴒大塚美術館）	
	森寛斎	春秋図（秋）	
		春秋図（春）	
	金島桂華	蓮池（所蔵：華鴒大塚美術館）	
松濤園陶磁器館所蔵品展Ⅲ 海を渡った伊万里たち	―	染付花盆唐草文手付水注	2020.9.30～2021.1.12
	―	色絵甕割唐子文八角皿	
松濤園御馳走一番館所蔵品展Ⅲ 朝鮮通信使と船の旅	―	朝鮮通信使船大坂河口之図屏風	2020.9.30～2021.1.12
	弥太郎	朝鮮通信使来朝図説	
三之瀬御本陣芸術文化館所蔵品展Ⅲ 池田栄廣の世界 同時開催：須田国太郎の描く生き物	池田栄廣	シャム猫	2020.11.11～2021.1.26
		手術室	
	須田国太郎	大鶴	
		牛	
蘭島閣美術館所蔵品展Ⅲ 画家たちのまなざし－広島の画家たちが描いた世界－ 同時開催：ふるさとの絶景六選	南薫造	瀬戸内風景	2020.11.26～2021.2.2
		浴後	
	靉光	パーサーの像	

	奥田元宋	妙義秋耀	
蘭島閣美術館別館所蔵品展Ⅲ　寺内萬治郎の歩み（１）	寺内萬治郎	裸婦	2020.12.23 ～ 2021. 5 .11
松濤園陶磁器館所蔵品展Ⅳ 磁器の魅力　中国磁器から伊万里へ	―	色絵菊文蓋付壷	2021. 1 .13 ～ 2021. 4 . 6
	―	呉須赤絵魁字文鉢	
松濤園御馳走一番館所蔵品展Ⅳ 朝鮮通信使と饗応	―	祝言膳部次第	2021. 1 .13 ～ 2021. 4 . 6
	―	七五三膳（復元模型）	
三之瀬御本陣芸術文化館所蔵品展Ⅳ 須田国太郎の黒 -Suda’s black- 画家たちの黒	須田国太郎	花山天文台遠望	2021. 1 27 ～ 2021. 4 .20
		月瀬平	
	長谷川利行	新宿風景	
	香月泰男	運ぶ人	
蘭島閣美術館所蔵品展Ⅳ 旅した画家たちが魅せられた世界	佐伯祐三	パリの教会堂	2021. 2 . 3 ～ 2021. 4 .13
	小野竹喬	春日野	

資料貸出

□資料貸出

博物館・美術館、教育機関などからの申請に基づき、他館の展示公開事業に資料を貸出した。

（敬称略）

	作者	資料名	会場	展覧会名	展覧会会期
1	熊谷守一	くしけづる女	伊丹市立美術館	生誕 140 周年熊谷守一展 わたしはわたし	2020. 6 .23 ～ 7 .31
		つつぢに揚羽蝶	天童市美術館		2020. 9 .26 ～ 10.25
		農家	奥田元宋・小由女美術館		2020.11. 3 ～ 12.20
		あやめ	石川県立美術館		2021. 2 .11 ～ 3 .14
2	榊原紫峰	白菊	下関市立美術館	特別展　自然の秘密をさぐる ―高島北海没後 90 年記念―	2021. 1 .30 ～ 3 .14
	福田平八郎	春雨			
	小林和作	海（室戸岬）			
	堅山南風	オイカワ			
		テナガエビ			
		マルタ			
		モクズガニ			
		リュウキン・クロデメキン・ワキン			
	川合玉堂	松山遠嶺			
	石井柏亭	水辺			
3	南薫造	海辺の造船所	東京ステーションギャラリー 広島県立美術館 久留米市美術館	没後 70 年　南薫造	2021. 2 .20 ～ 4 .11 2021. 4 .20 ～ 6 .13 2021. 7 . 3 ～ 8 .29
		房州の小道			
		木立と池			
		木のある風景			
		公園風景			
		朝鮮風景			
		朝鮮の寺と山			
		瀬戸内風景・岩壁			
		白楊堂旅日記			

画像提供

□美術資料　（敬称略）

	利用者	目的	作者	資料名	許可日
1	株式会社大伸社（ライブアートブックス）	ポストカード制作のため	熊谷守一	つつぢに揚羽蝶	2020.4.16
2	株式会社求龍堂	カレンダーへ図版掲載のため	熊谷守一	つつぢに揚羽蝶	2020.5.14
3	佐藤有紗（岡田美術館学芸員）	執筆論文へ掲載のため	安田靫彦	女楽偶人	2020.7.19
4	二本松市大山忠作美術館	複製物展示のため（資料パネル）	大山忠作	俑	2020.8.7
5	NHK プロモーション展博事業本部	展覧会図録へ掲載および広報媒体で利用のため	南薫造	海辺の造船所	2020.11.6
				房州の小道	
				木立と池	
				木のある風景	
				公園風景	
				朝鮮風景	
				朝鮮の寺と山	
				瀬戸内風景・岩壁	
				白楊堂旅日記	
6	金田晉	公開講座で利用のため	灰谷正夫	不詳	2020.11.23
				柿	
				赤土	
				黄土	
				風景	
7	杉並戦略的アートプロジェクト	運営サイトへ掲載のため	棟方志功	文殊菩薩の柵	2020.12.7
				羅睺羅の柵	
				魔訶迦葉の柵	
				富楼那の柵	
				迦旃延の柵	
				阿那律の柵	
				舎利弗の柵	
				優婆離の柵	
				須菩提の柵	
				目犍連の柵	
				阿難陀の柵	
				普賢菩薩の柵	
8	広島県立美術館	展示関連印刷物へ図版掲載のため	南薫造	串山のみかん畑	2021.3.19

□歴史資料、陶磁器他　（敬称略）

	利用者	目的	作者	資料名	許可日
1	呉市	観光振興用動画で放映のため	―	朝鮮人来朝覚備前御馳走船行烈図	2020.7.17
2	舞鶴引揚記念館	複製物展示のため（資料パネル）	―	朝鮮人来朝覚備前御馳走船行烈図	2020.8.20
3	株式会社 NHK エデュケーショナル	番組内で放映のため	―	朝鮮通信使行列図絵巻	2020.8.28
			（復元模型）	朝鮮通信使船 10 分の 1 復元模型	
4	株式会社吉川弘文館	書籍および電子書籍へ図版掲載のため	―	朝鮮人来朝覚備前御馳走船行烈図	2020.9.12
5	みらくる TV	番組内で放映のため	―	朝鮮人来朝覚備前御馳走船行烈図	2020.9.26
6	教育出版株式会社	中学校用電子教材へ図版掲載のため	―	朝鮮人来朝覚備前御馳走船行烈図	2020.10.15
7	NPO 法人朝鮮通信使縁地連絡協議会	機関紙へ図版掲載のため	―	朝鮮人来朝覚備前御馳走船行烈図	2020.11.27
8	福山オートサービス株式会社	広報用チラシへ図版掲載のため	（復元模型）	七五三膳、本陣模型	2020.12.24
9	株式会社現代書館	ムック誌へ図版掲載のため	（復元模型）	七五三膳	2021.1.20

資料閲覧

□資料閲覧

調査研究を目的とした博物館・美術館、教育機関などからの申請に基づき資料を閲覧に供した。

（敬称略）

	調査者	目的	作者	資料名	閲覧日
1	永井造形教室 （永井雅人）	雑誌論考執筆調査のため	須田国太郎・絵画関連資料	油彩用パレット６点、絵具箱３点	2020. 6 .1
2	広島県立美術館	展覧会企画調査のため	南薫造	海辺の造船所	2020. 7 .15
				房州の小道	
				海（房州）	
				朝鮮の寺と山	
				朝鮮風景	
				公園風景	
				木のある風景	
				木立と池	
				林	
				瀬戸内風景・岩壁	
				瀬戸内風景	
				白楊堂旅日記	
3	下関市立美術館	展覧会企画調査のため	福田平八郎	春雨	2020.10. 6
			小林和作	海（室戸岬）	
			堅山南風	オイカワ	
				テナガエビ	
				マルタ	
				モクズガニ	
				リュウキン・クロデメキン・ワキン	

普及事業・市民サービス・財団事業

普及事業　ギャラリートーク・講演会・ワークショップ

市民の美術教養の向上と教育普及を目的とし、普及事業としてギャラリートーク、講演会を開催した。また、創作活動の推進を図るためワークショップを開催した。

ただし、新型コロナウイルス感染拡大防止のため前年度末にあたる 2020（令和２）年３月９日（月）から本年度５月 10 日（日）までは臨時休館の措置を取り、予定していたすべての事業を中止した。さらに、5 月 10 日（日）以降は感染拡大の状況などを見て事業開催の可否を判断し、感染拡大防止の措置を講じて各種普及事業をおこなった。以下、開催した普及事業を記す。

蘭島閣美術館

蘭島閣美術館　ギャラリートーク

（新型コロナウイルス感染拡大防止のため、本年度は対面式のギャラリートークの企画立案を取り止め開催を見送った。）

蘭島閣美術館　講演会

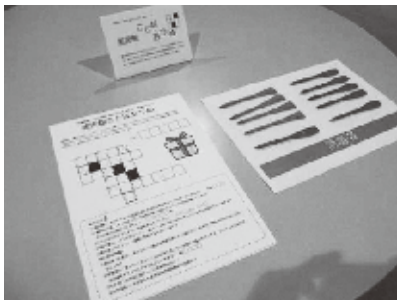
（新型コロナウイルス感染拡大防止のため、本年度予定していた講演会、スペシャルトークなどの開催を中止した。）

蘭島閣美術館　ワークショップ・関連イベント

●所蔵品展Ⅱ　「水の表現－絵画から工芸まで」関連イベント
［美術館ことばあつめ］
2020（令和２）年７月 22 日（水）～９月７日（月）

開催日数：42 日
参加者：135 人
場所：蘭島閣美術館

（内容）
オリジナルのクロスワードクイズを作成し、展示作品を鑑賞しながら該当する答えを探してもらった。全問正解者には絵はがきか特別展チケットをプレゼントした。クイズは展示作品や作家解説キャプションをヒントにして回答できるように作成したので、参加者は作品やキャプションをじっくり見ながらクイズを解いていた。クイズが難しかったがとてもやりがいがあったなど感想をいただいた。

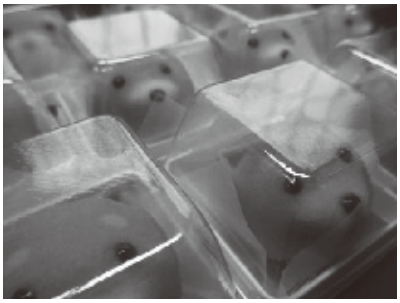


●特別展「はしもとみお彫刻展　海からはじまるいきものたち」関連イベント
［シルエットクイズ］
2020（令和２）年 10 月 31 日（土）、11 月１日（日）

開催日数：２日
参加者：42 名（10 月 31 日）、42 名（11 月１日）
場所：蘭島閣美術館

（内容）
シルエットクイズのワークシートを参加希望者に配布し、展示作品を鑑賞しながら該当する答えを探してもらった。全問正解者には特別展オリジナルの犬の和菓子をプレゼントした。彫刻のシルエットを撮影するアングルを工夫して

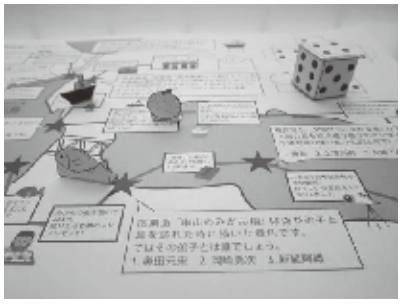
クイズを作成し、ワークシートを使って彫刻作品をさまざまな角度から楽しみ、理解できる内容とした。参加希望者は子どもが多く、クイズを解きながら家族で楽しく鑑賞できたと感想をいただいた。



●所蔵品展Ⅲ　「画家たちのまなざし－広島の画家たちが描いた世界－」関連イベント
［クイズラリー］
2020（令和２）年 11 月 27 日（金）～ 2021（令和３） 2 月 1 日（月）

開催日数 :55 日
参加者：99 名
場所：蘭島閣美術館

（内容）
　展覧会では下蒲刈島や上蒲刈島を描いた作品を展示していたため、それらの作品に関連したワークシートを作成し館内に設置した。ワークシートは下蒲刈島と上蒲刈島の地図にマスを入れたすごろく形式にして、サイコロやコマも印刷し、来館者が持ち帰っても遊べるようにした。クイズとあわせて各島の観光名所や名産品に関連付けたマスも作成し、展示作品だけでなく島にも興味を持ってもらうように努めた。クイズの題材にした作品にはヒントとして解説のキャプションを設置し、参加者はそれらを読みながら熱心にクイズを解いてまわっていた。



蘭島閣美術館別館

蘭島閣美術館別館　ワークショップ・関連イベント

●所蔵品展Ⅱ　　関連イベント
［海いろ空いろ絵描き島］
2020（令和２）年８月 26 日（水）～12 月 21 日（月）期間中の金・土・日・祝日

開催日数：55 日
参加者：１名
場所：蘭島閣美術館別館敷地内

（内容）
　館内ロビーで、下蒲刈島内を描いた所蔵品を紹介し三之瀬風景の見どころを説明したパネル展を開催するとともに、来場者用にスケッチ道具を用意した。普段見ている風景に意識を向けてもらい、気軽にスケッチができる環境を提供した。

三之瀬御本陣芸術文化館

三之瀬御本陣芸術文化館　ギャラリートーク

（新型コロナウイルス感染拡大防止のため、本年度は対面式のギャラリートークの企画立案を取り止め開催を見送った。）

三之瀬御本陣芸術文化館　ワークショップ・関連イベント

●秋季特別展「京都近代日本画の精華」関連イベント
ワークショップ［ミニ屏風をつくってみよう！］
2020（令和２）年 10 月 24 日（土）、10 月 25 日（日）
午前 10 時から 12 時まで／午後１時から午後３時まで（各日計８回）
定員：予約制、各回上限２名まで

開催日数：２日
参加者：13 名（24 日）、12 名（25 日）
場所：三之瀬御本陣芸術文化館

（内容）
　はがきが飾れるミニ屏風を制作するワークショップをおこなった。新型コロナウイルスの感染拡大防止対策を講じて、30 分に２人ずつの予約制で実施。約 20 分の制作時間で、制作後 10 分は机、椅子、使用した道具のアルコール消毒をおこなう時間配分とした。20 分という短い制作時間に加え、参加者と指導者の接触をなるべく少なくするため、当館オリジナルのミニ屏風制作キットを考案した。
　実際の屏風と同じ蝶番の仕組みなど、ミニサイズの屏風を作ることで、日本の文化を知ってもらう一環とした。展示室では、森寛斎「春秋図」、土田麦僊「竹雀図」、金島桂華「蓮池」の３点の屏風を展示していたため、制作後、あらためて屏風のつなぎ目を見てもらうなど、普段気が付かない部分の鑑賞の楽しさも体感してもらった。紙で独特の丈夫なつなぎ目を施し、前後に自在に動かすことができる仕組みに参加者は「知らなかった、すごい知恵ですね」と古人の匠に感心していた。

●所蔵品展Ⅳ「須田国太郎の黒　–Suda’s Black– 画家たちの黒」関連イベント
ワークショップ［ひっかきお絵かき　缶バッジプラス +］
2021（令和３）年２月７日（日）、３月７日（日）
午前 10 時から午後２時
定員：１時間につき３名

開催日数：２日
参加者：11 名（２月７日）、10 名（３月７日）
場所：三之瀬御本陣芸術文化館

（内容）
　指定の画用紙にクレヨンで、何色もの好きな色を自由に塗った後、その上を黒いクレヨンで真っ黒に塗りつぶす。完成した黒い画面を、竹串や割り箸でひっかいて好きな絵を描くと、カラフルな線や面が下から出てきて不思議な風合いの作品が出来上がる。それをカットして、当館考案のオリジナルの保護シートなどを使用して、缶バッジに仕上げた。参加者は早速、胸元や、カバンにつけて楽しんでいた。
　黒を使った色の不思議や面白さを体感してもらった。

松濤園（陶磁器館・御馳走一番館）

（新型コロナウイルス感染拡大防止のため、本年度は対面式のギャラリートーク、講演会、ワークショップなどの企画立案を取り止め開催を見送った。）

市民サービス　秋の茶会・梅見茶会 島の美術館ピアノ

松濤園　秋の茶会

（新型コロナウイルス感染拡大防止のため、本年度は対面式の茶会の企画立案を取り止め開催を見送った。）

松濤園　梅見茶会

（新型コロナウイルス感染拡大防止のため、本年度は対面式の茶会の企画立案を取り止め開催を見送った。）

蘭島閣美術館別館　島の美術館ピアノ

蘭島閣美術館別館に設置されているグランドピアノを活用し、来場者にピアノ演奏を楽しむ環境を提供した。歴史を刻む1957（昭和32）年製のスタインウェイ社のグランドピアノを開放し、作品鑑賞とともに誰でも気軽にピアノの音色を楽しみ、ゆとりのある時間を美術館で体験できるよう配慮した。

会期　2020（令和２）年 12 月 26 日（土）～2021（令和３）年５月９日（日）
の期間中の土・日のべ計 40 日
午前９時から午後４時（演奏終了時間）
午前９時から１時間１枠で予約／利用
場所　蘭島閣美術館別館

参加者　73 名
参加費　無料

おもな関連記事、番組など
〇「イベント情報」中国新聞、2021（令和３）年１月 23 日　〇『関西・中国・四国じゃらん』2021（令和３）年３月号、株式会社リクルート　〇「イベントコーナー」『くれえばん』１月号、株式会社 SA メディアラボ　〇「市政だより くれ」４月号、呉市

（目的）
下蒲刈島に寄贈されたグランドピアノを活用し、来館者に気軽に本格的なピアノに触れる機会を提供するもの。小規模な別館の特長を活かし、館内備品を有効に活用しながらお客様に美術館に親しんでもらうことを目指す。

（内容）
事前予約者を優先し、それ以外の時間は当日申し込みもできるようにした。ピアノ演奏希望者にはピアノ利用の注意点を説明後、１人１時間の利用時間でピアノを提供した。

財団事業　朝鮮通信使再現行列・昆虫教室・海岸教室ギャラリーコンサート

朝鮮通信使再現行列

（新型コロナウイルス感染拡大防止のため、本年度は朝鮮通信使再現行列の企画立案を取り止め開催を見送った。）

ふれあい昆虫教室

（新型コロナウイルス感染拡大防止のため、本年度はふれあい昆虫教室の企画立案を取り止め開催を見送った。）

ふれあい海岸教室

（新型コロナウイルス感染拡大防止のため、本年度はふれあい海岸教室の企画立案を取り止め開催を見送った。）

ギャラリーコンサート

蘭島閣美術館の１階ロビーを利用し、美術と音楽の調和によってもたらされる芸術の楽しさと奥深さを享受してもらうために、クラシックを中心とするコンサートを開催した。2001（平成 13）年１月から毎月第３土曜日に実施しているもので、2020（令和２）年２月で 230 回を数えた。誰でも気軽に参加できるように入場料を抑え、かつ子どもたちの来場を促すために高校生以下は無料としている。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、４月から９月までと、１月から３月までは中止となり、10 月から 12 月までは会場と時間を変更して実施した。関連イベントでは、音楽関係者による講演会やワークショップは中止となり、地元の学校でのミニコンサートは感染予防対策をしたうえで実施した。

＊詳しくは別表「2020（令和２）年度ギャラリーコンサート一覧」の通り

会　　場　４月～９月：（中止）
10 月～ 12 月：ベイノロホール（呉市川尻まちづくりセンター３階）
１月～３月：（中止）
実 施 日　毎月第３土曜日（年間３回／４月から９月、１月～３月は中止となったため）
実施時間　４月～９月：午後６時 30 分から午後８時 20 分（いずれも中止）
10 月～ 12 月：午後４時から午後５時（１月～３月は中止）
入 場 料　1,500 円（大人１名１回分／高校生以下は無料）
主　　催　呉市／公益財団法人蘭島文化振興財団

関連行事
＊詳しくは別表「2020（令和２）年度ギャラリーコンサート関連行事」の通り

●ミニコンサート
ギャラリーコンサート出演者の協力を得て、蒲刈中学校に出向いての「ミニコンサート」を実施し、子どもたちに対して音楽に親しむ機会を提供した。
会　　場　呉市立蒲刈中学校体育館
実施日時　11 月 20 日（金）午後２時 45 分から午後３時 15 分
入 場 料　無料
出　　演　澤原行正（テノール）、越前皓也（ピアノ）
参 加 者　呉市立蒲刈中学校、呉市立蒲刈小学校の生徒・教員 108 名
●コンサート講演会【中止】
音楽への理解を深めてもらうことを目的に、ギャラリーコンサート開演前の時間を利用して、クラシックに関する講演会を開催予定だったが、中止となった。
●ミュージック＆アーツ【中止】
ギャラリーコンサート出演者の協力を得て、子どもたちを対象に、音楽を聴いて絵画を描くイベントを開催予定だったが中止となった。

印刷物（年間）（全て財団内のプリンタ―で印刷）
●ポスターＡ１判　３部
●ポスターＡ４判　６部
●広報用プログラム（両面印刷）1,560 部

□2020（令和２）年度ギャラリーコンサート一覧

＊新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった開催月及び予定していた出演者等内容も下記一覧表に記す。

開催月	公演名	出演者	開催日時	入場者数
4月	第 232 回～夢のかけはし～蘭島閣ギャラリーコンサート 【中止】	正戸里佳（バイオリン） 岡田将（ピアノ） 【中止】	2020（令和２）年４月 18 日（土） 午後６時 30 分から午後８時 20 分 【中止】	―
5月	第 233 回～夢のかけはし～蘭島閣ギャラリーコンサート 【中止】	山下洋輔（ジャズピアノ） 【中止】	2020（令和２）年５月 16 日（土） 午後６時 30 分から午後８時 20 分 【中止】	―
6月	第 234 回～夢のかけはし～蘭島閣ギャラリーコンサート 【中止】	石岡久乃（ピアノ） 安宅薫（ピアノ） 【中止】	2020（令和２）年６月 20 日（土） 午後６時 30 分から午後８時 20 分 【中止】	―
7月	第 235 回～夢のかけはし～蘭島閣ギャラリーコンサート 【中止】	渡辺玲子（バイオリン） 林絵里（ピアノ） 【中止】	2020（令和２）年７月 18 日（土） 午後６時 30 分から午後８時 20 分 【中止】	―
8月	第 236 回～夢のかけはし～蘭島閣ギャラリーコンサート 【中止】	上野耕平（サクソフォン） 山中惇史（ピアノ） 【中止】	2020（令和２）年８月 15 日（土） 午後６時 30 分から午後８時 20 分 【中止】	―
9月	第 237 回～夢のかけはし～蘭島閣ギャラリーコンサート 【中止】	伊藤圭（クラリネット） 榊原紀保子（ピアノ） 【中止】	2020（令和２）年９月 19 日（土） 午後６時 30 分から午後８時 20 分 【中止】	―
10 月	第 238 回～夢のかけはし～蘭島閣ギャラリーコンサート	徳永二男（バイオリン） 坂野伊都子（ピアノ）	2020（令和２）年 10 月 17 日（土） 午後４時から午後５時	98 人
11 月	第 239 回～夢のかけはし～蘭島閣ギャラリーコンサート	澤原行正（テノール） 越前皓也（ピアノ）	2020（令和２）年 11 月 21 日（土） 午後４時から午後５時	70 人
12 月	第 240 回～夢のかけはし～蘭島閣ギャラリーコンサート	小山実稚恵（ピアノ）	2020（令和２）年 12 月 19 日（土） 午後４時から午後５時	115 人
1月	第 241 回～夢のかけはし～蘭島閣ギャラリーコンサート 【中止】	通崎睦美（木琴） 松園洋二（ピアノ） 【中止】	2021（令和３）年１月 16 日（土） 午後４時から午後５時 【中止】	―
2月	第 242 回～夢のかけはし～蘭島閣ギャラリーコンサート 【中止】	津田裕也（ピアノ） 【中止】	2021（令和３）年２月 20 日（土） 午後４時から午後５時 【中止】	―
3月	第 243 回～夢のかけはし～蘭島閣ギャラリーコンサート 【中止】	ハンスイェルク・シェレンベルガー （オーボエ） 仁賀環（ピアノ） 【中止】	2021（令和３）年３月 20 日（土） 午後４時から午後５時 【中止】	―

□2020（令和２）年度ギャラリーコンサート関連行事　ミニコンサート（会場：呉市立蒲刈中学校体育館）

開催月	公演名	出演者	開催日時	入場者数
11 月	子どもたちのためのミニコンサート	澤原行正（テノール） 越前皓也（ピアノ）	2020（令和２）年 11 月 20 日（金） 午後２時 45 分から午後３時 15 分	108 人

運営データ

収集・保存・整理・協力・広報・入館者数・関係法規

収集・保存・整理

□新収蔵資料

所蔵品に関連する資料で、寄贈、寄託の申請があった場合は、調査に基づき必要と認められた場合に収集をおこなっている。2020（令和２）年度は寄贈、寄託の申請はなし。

□修復・修繕

2020（令和２）年度は資料の修復、修繕をおこなっていない。

□燻蒸

2020（令和２）年７月 28 日、蘭島閣美術館、蘭島閣美術館別館、三之瀬御本陣芸術文化館、松濤園、昆虫の家を対象に燻蒸作業をおこなった。

□整理

資料情報の統合、再整理を視野に調査を継続している。

□2020（令和２) 年度までの収蔵資料（分類別）＊寄託をのぞく。

美術系資料

分類	油彩画	日本画	素描	水彩	版画	彫塑	漆工	金工	鋳造	ガラス	書	その他
点数	450	423	810	174	118	10	39	7	10	31	38	5

陶磁器、朝鮮通信使関連資料、その他の歴史系資料

分類	陶磁器	東洋画	木工	漆工	金工	鋳造	石彫	洋ランプ	和ランプ	その他
点数	1,029	423	75	6	2	27	14	270	163	29

協力・広報

□学芸員の対外協力

項目	内容	協力先	担当	日付
講師派遣	蒲刈中学校「総合的な学習の時間（職業講話）」へ講師派遣（学芸員の仕事、文化振興について講話）	呉市立蒲刈中学校 於：呉市立蒲刈中学校	小川英史（学芸員）	2020.10.14

□その他の対外協力

項目	内容	協力先	担当	日付
制作協力	蘭島文化施設の紹介	西日本高速道路サービス・ホールディングス株式会社中国支社 「中国四国おすすめドライブ」『遊・悠・WesT別冊中四国版春号』 2020（令和２）年４月 17 日発行	西野玲奈（主事）	2020.4.2
取材協力	松濤園、蘭島閣美術館の紹介	コープこうべ 「瀬戸内海の島旅へ」『ステーション』 2020（令和２）年５月 10 日発行	西野玲奈（主事）	2020.2.26
取材協力	白雪楼の紹介	株式会社大阪宣伝研究所 「ミタイケンヒロシマ」『せとうち広島デスティネーションキャンペーン』 2020（令和２）年 10 月 1 日～ 2020（令和２）年 12 月 31 日掲載	西野玲奈（主事）	2020.6.2
事業協力	デジタルスタンプラリーを活用した観光イベントへの参加	中国みなとオアシス協議会、STU48、JAF 『みなとオアシス スマホ de スタンプラリー』 2020（令和２）年８月 1 日～ 2021（令和３）年 1 月 31 日の期間	坂本卓也（主査）	2020.7.31
取材協力	三之瀬御本陣芸術文化館秋季特別展の紹介	呉市役所総務部　秘書広報課　広報広聴グループ 「三之瀬御本陣芸術文化館の魅力」『くれワンダーランド Journey』 2020（令和２）年９月 18 日 18：56 ～ 19：00 RCC 放送	西野玲奈（主事）	2020.8.19
取材協力	松濤園所蔵品展Ⅳの紹介	呉市役所総務部　秘書広報課　広報広聴グループ 「松濤園の魅力」『くれワンダーランド Journey』 2021（令和３）年２月５日 18：56 ～ 19：00 RCC 放送	西野玲奈（主事）	2021.1.13
制作協力	松濤園の紹介	株式会社 JTB パブリッシング 「大人の１ＤＡＹドライブ」『大人の日帰り旅 中国四国 2022』 2021（令和３）年３月 10 日発行	西野玲奈（主事）	2021.2.7

入館者数

□2020（令和２）年度　施設別入館（利用）者数

施設名	年間入館者数
蘭島閣美術館	9,477
蘭島閣美術館別館	432
三之瀬御本陣芸術文化館	2,728
松濤園（陶磁器館、御馳走一番館〈朝鮮通信使資料館〉、あかりの館、下蒲刈御番所）	7,567
白雪楼	2,368
昆虫の家〈頑愚庵〉	1,186
春蘭荘	43
松藾亭、煎茶室	147
合計	23,948

＊入館（利用）者数は、指定管理する施設すべての施設分を記載している。
＊新型コロナウイルス感染拡大防止のため 2020（令和２）年３月９日（月）～2020（令和２）年５月 10 日（日）まで全施設臨時休館した。
（白雪楼、春蘭荘、松藾亭は５月 19 日（火）まで休館。）

関係法規

蘭島文化振興施設条例

平成 15 年 3 月 14 日
呉市条例第 33 号

(目的及び設置)

第 1 条　美術、歴史遺産及び自然科学資料に関する市民の知識及び教養の向上を図り、文 化の発展及び生命の尊厳を学び、並びに教育、学術研究及び文化交流に資するための施設を次のように設置する。

名称	位置
蘭島文化振興施設	呉市下蒲刈町地内

（事業）

第 2 条　蘭島文化振興施設は、次の事業を行う。

（1）　美術品、朝鮮通信使・頼家に関する資料等の歴史的資料 (以下「歴史的資料」とい う。）昆虫を始めとする自然科学資料 (以下「自然科学資料」という。) 等を収集し、保管し、及び展示して市民の利用に供すること。

（2）　美術品、歴史的資料、自然科学資料等に関する調査・研究、教育、指導及び知識の普及に関すること。

（3）　美術、歴史文化、自然科学等に関する講演会、講習会、講座等を開催すること。

（4）　自然保護に関する調査・研究及び技術的指導に関すること。

（5）　市内外の人々の交流及びコミュニティの場を提供すること。

（6）　前各号に掲げるもののほか、市長が必要と認める事業。

一部改正〔平成 27 年条例 2 号〕(指定管理者による管理)

第 2 条の 2　市長は、第 1 条に規定する目的を効果的に達成するために必要があると認めるときは、指定管理者 (地方自治法 (昭和 22 年法律第 67 号) 第 244 条の 2 第 3 項に規定する指定管理者をいう。以下同じ。) に蘭島文化振興施設の管理を行わせることができる。

追加〔平成 17 年条例 116 号〕、一部改正〔平成 27 年条例 2 号〕

(指定管理者が行う業務)

第 2 条の 3　指定管理者が行う業務は、次のとおりとする。

（1）　蘭島文化振興施設の施設、設備、展示品等 (以下「施設等」という。) の維持及び管理に関する業務

（2）　第 2 条各号に掲げる事業に関する業務

（3）　蘭島文化振興施設のうち、別表第 1 に掲げる施設への入館及び別表第 2 に掲げる施 設 (以下「許可施設」という。) の使用の許可に関する業務

（4）　前 3 号に掲げる業務に付随する業務追加〔平成 17 年条例 116 号〕

(指定管理者が行う管理の基準)

第 2 条の 4　指定管理者は、法令、この条例、この条例に基づく規則その他市長が定めるところに従い蘭島文化振興施設の管理を行わなければならない。

追加〔平成 17 年条例 116 号〕、一部改正〔平成 27 年条例 2 号〕

(開所時間及び休所日)

第 3 条　蘭島文化振興施設の開所時間及び休所日は、規則で定める。

全部改正〔平成 17 年条例 116 号〕、一部改正〔平成 27 年条例 2 号〕

(使用の許可)

第 3 条の 2　許可施設を使用しようとする者は、市長 (蘭島文化振興施設の管理を指定管理者に行わせる場合は指定管理者。以下この条、第 6 条及び第 7 条において同じ。) の許可を受けなければならない。

2　市長は、前項の許可に際し、蘭島文化振興施設の管理運営上必要があるときは、その使用について条件を付することができる。

追加〔平成 17 年条例 116 号〕、一部改正〔平成 27 年条例 2 号〕

(入館料等)

第 4 条　蘭島文化振興施設のうち、別表第 1 に掲げる施設に入館しようとする者は入館料を、許可施設について前条第 1 項の規定により使用の許可を受けた者 (以下「使用者」という。) は施設使用料を市長に納付しなければならない。ただし、指定管理者に蘭島文化振興施設の管理を行わせる場合は、この限りでない。

2　入館料及び施設使用料 (以下「入館料等」という。) の額は、別表第 1 及び別表第 2 に定める額とする。

一部改正〔平成 17 年条例 116 号〕

(利用料金)

第 4 条の 2　蘭島文化振興施設のうち別表第 1 に掲げる施設に入館しようとする者又は使用者は、前条第 1 項ただし書に規定する場合は、蘭島文化振興施設の利用に係る料金 (以下「利用料金」という。) を指定管理者に支払わなければならない。

2　利用料金の額は、別表第 1 及び別表第 2 に定める額の範囲内において、指定管理者が あらかじめ市長の承認を得て定める。

3　利用料金は、指定管理者にその収入として収受させる。

追加〔平成 17 年条例 116 号〕

(入館料等の前納)

第 4 条の 3　蘭島文化振興施設のうち別表第 1 に掲げる施設に入館しようとする者又は使用者は、入館料等又は利用料金を前納しなければならない。ただし、市長 (蘭島文化振興施設の管理を指定管理者に行わせる場合は指定管理者。第 5 条において同じ。) が特別な 理由があると認めたときは、この限りでない。

追加〔平成 17 年条例 116 号〕

(入館料等の減免)

第 4 条の 4　市長は、特別な理由があると認めたときは、入館料等を減免することができる。ただし、指定管理者に蘭島文化振興施設の管理を行わせる場合は、この限りでない。

2　指定管理者は、前項ただし書に規定する場合は、市長が定める基準に従い、利用料金を減免することができる。

追加〔平成 17 年条例 116 号〕

(入館料等の返還)

第５条　既納の入館料等又は利用料金は、これを返還しない。ただし、市長が特別な理由があると認めたときは、入館料等又は利用料金の全部又は一部を返還することができる。

一部改正〔平成 17 年条例 116 号〕

(入館及び使用の許可の制限)

第６条　市長は、蘭島文化振興施設に入館し、又は許可施設を使用しようとする者が、次の各号のいずれかに該当するときは、当該入館又は許可施設の使用を拒否することができる。

（1）　公益を害するおそれがあると認められるとき。

（2）　風致を害し、又は風紀を乱すおそれがあると認められるとき。

（3）　施設等を滅失し、又は損傷するおそれがあると認められるとき。

（4）　専ら営利を図る目的で使用するおそれがあると認められるとき。

（5）　その他管理上支障があると認められるとき。

一部改正〔平成 17 年条例 116 号・27 年２号〕

(退去命令及び使用の許可の取消し等)

第７条　市長は、入館者又は使用者 (以下「入館者等」という。) が、次の各号のいずれかに該当するときは、蘭島文化振興施設からの退去を命じ、又は当該使用の許可を取り消 すことができる。この場合において、入館者等が損害を受けることがあっても、市又は指定管理者は、その責めを負わない。

（1）　この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。

（2）　前条各号のいずれかに該当することとなったとき。

（3）　許可された目的以外に許可施設を使用したとき。

（4）　使用の許可に係る条件に違反したとき。

一部改正〔平成 17 年条例 116 号・27 年２号〕

(原状回復)

第８条　使用者は、その使用を終了したとき又は使用の許可を取り消されたときは、直ちに使用場所を原状に回復しなければならない。

一部改正〔平成 17 年条例 116 号〕

(損害賠償)

第９条　入館者等は、施設等を滅失し、又は損傷した場合は、不可抗力によるときを除き、その損害を賠償しなければならない。

一部改正〔平成 17 年条例 116 号〕第 10 条 削除〔平成 17 年条例 116 号〕

(施行規定)

第 11 条　この条例に定めるもののほか、蘭島文化振興施設の管理運営について必要な事項 は、規則で定める。

一部改正〔平成 17 年条例 116 号・27 年２号〕

付 則

この条例は、平成 15 年４月１日から施行する。

付 則 (平成 17 年 12 月 27 日条例第 116 号)

(施行期日)

1　この条例は、公布の日から施行する。

(経過措置)

2　この条例の施行の際現に改正前の第 10 条第１項の規定により公共的団体に管理を委託 している蘭島文化振興施設の管理については、地方自治法 (昭和 22 年法律第 67 号) 第 244 条の２第３項の規定により蘭島文化振興施設の管理に係る指定をする日までの間は、なお 従前の例による。

付 則 (平成 18 年 12 月 25 日条例第 65 号)

この条例は、平成 19 年４月１日から施行する。

付 則 (平成 24 年 12 月 19 日条例第 50 号)

(施行期日)

1　この条例は、平成 25 年４月１日から施行する。

(経過措置)

2　この条例の施行の日前になされた申請に係る使用料については、なお従前の例による。

付 則 (平成 27 年１月８日条例第２号抄)

(施行期日)

1　この条例は、平成 27 年４月１日から施行する。

付 則（令和元年 12 月 27 日条例第 40 号）

（施行期日）

1　この条例は、令和２年４月１日から施行する。

（経過措置）

2　この条例の施行の日前になされた申請に係る使用料については、なお従前の例による。

別表第１ (第２条の３、第４条、第４条の２、第４条の３関係)

名称	種別		金額（一人１回につき）
蘭島閣美術館	一般	個人	500 円
		20 人以上の団体	400 円
	高校生	個人	300 円
		20 人以上の団体	240 円
	小・中学生	個人	200 円
		20 人以上の団体	160 円
蘭島閣美術館別館	一般	個人	300 円
		20 人以上の団体	240 円
	高校生	個人	180 円
		20 人以上の団体	140 円
	小・中学生	個人	120 円
		20 人以上の団体	90 円
白雪楼	一般	個人	400 円
		20 人以上の団体	320 円
	高校生	個人	240 円
		20 人以上の団体	190 円
	小・中学生	個人	160 円
		20 人以上の団体	120 円
松濤園	一般	個人	800 円
		20 人以上の団体	640 円
	高校生	個人	480 円
		20 人以上の団体	380 円
	小・中学生	個人	320 円
		20 人以上の団体	250 円
昆虫の家「頑愚庵」	一般	個人	300 円
		20 人以上の団体	240 円
	高校生	個人	180 円
		20 人以上の団体	140 円
	小・中学生	個人	120 円
		20 人以上の団体	90 円
三之瀬御本陣芸術文化館	一般	個人	300 円
		20 人以上の団体	240 円
	高校生	個人	300 円
		20 人以上の団体	240 円
	小・中学生	個人	200 円
		20 人以上の団体	160 円

備考

1　この表において、「高校生」とは 15 歳に達する日以後の最初の 4 月 1 日から 18 歳に達する日以後の最初の 3 月 31 日までの間にある者並びにこれ以外の者で学校教育法 (昭和 22 年法律第 26 号) 第 1 条に規定する高等学校、高等専門学校 (第 4 学年及び第 5 学年に在学する者を除く。) 及びこれらに準ずる学校に在学するものをいい、「小・中学生」とは同条に規定する小学校、中学校及びこれらに準ずる学校に在学する者をいい、「一般」とは「高校生」、「小・中学生」及び小学生未満の未就学児以外の者をいう。

2　呉市に在住し、又は呉市内の学校に通学する高校生及び小・中学生は、無料とする。

全部改正〔平成 18 年条例 65 号〕、一部改正〔平成 24 年条例 50 号〕

別表第 2 (第 2 条の 3、第 4 条、第 4 条の 2 関係)

施設	利用区分	金額
春蘭荘	1 日につき (20 時間以内)	60,000 円
	宿泊加算料金	一人につき 1 泊 1,200 円
松藾亭	1 回につき (5 時間以内)	1,400 円
	超過料金	1 時間までごとに 300 円
煎茶室	1 回につき (5 時間以内)	800 円
	超過料金	1 時間までごとに 160 円

一部改正〔平成 17 年条例 116 号・24 年 50 号・令和元年 40 号〕

蘭島文化振興施設条例施行規則

平成 27 年 3 月 31 日
呉市規則第 35 号

(趣旨)

第 1 条　この規則は、蘭島文化振興施設条例 (平成 15 年呉市条例第 33 号。以下「条例」と いう。) 第 11 条の規定により、蘭島文化振興施設の管理運営について必要な事項を定めるものとする。

(開所時間)

第 2 条　条例第 3 条の規定により規則で定める蘭島文化振興施設の開所時間は、次のとおりとする。

(1)　条例別表第 1 及び別表第 2 に掲げる施設 (春蘭荘を除く。) 午前 9 時から午後 5 時まで。

(2)　春蘭荘　全日

2　前項の規定にかかわらず、市長 (蘭島文化振興施設の管理を指定管理者 (条例第 2 条 の 2 に規定する指定管理者をいう。以下同じ。) に行わせる場合は指定管理者。第 4 条、第 5 5 及び第 7 条において同じ。) は、必要により同項の開所時間を伸縮することができる。

(休所日)

第 3 条　条例第 3 条の規定により規則で定める蘭島文化振興施設の休所日は、次のとおりとする。

(1) 条例別表第 1 に掲げる施設

ア　1 月 1 日から 1 月 3 日まで及び 12 月 29 日から 12 月 31 日まで。

イ　火曜日。ただし、火曜日が国民の祝日に関する法律 (昭和 23 年法律第 178 号) に規定 する休日 (以下この号において「休日」という。) に当たるときは、その翌日とし、当該 翌日が休日に当たるときは、その直後の休日でない日。

(2)　条例別表第 2 に掲げる施設 1 月 1 日から 1 月 3 日まで及び 12 月 29 日から 12 月 31 日 まで。

2　前項の規定にかかわらず、市長が必要と認めるときは、同項の休所日以外の日において臨時に休所し、又は同項の休所日において臨時に開所することができる。

3　市長は、前項の規定により、臨時に休所し、又は開所しようとするときは、あらかじめ告示するものとする。

(使用の手続)

第 4 条　条例別表第 2 に掲げる施設 (以下「許可施設」という。) の使用に係る許可を得 ようとする者は、蘭島文化振興施設使用申請書を市長に提出し、その許可を受けなければならない。

2　市長は、前項の許可をしたときは、蘭島文化振興施設使用許可書 (以下「許可書」という。) を交付する。

3　第 1 項の許可を受けた者 (以下「使用者」という。) は、使用を開始する前に許可書を提示し、市長の指示に従わなければならない。

(使用期間の制限)

第 5 条　許可施設の使用は、引き続き 5 日間を超えることができない。ただし、市長が特別な理由があると認めたときは、この限りでない。

(優待券等)

第 6 条　市長は、特別の理由があると認める者に対して、優待券又は招待券を発行することができる。ただし、指定管理者に蘭島文化振興施設の管理を行わせる場合は、この限りでない。

(入館者等の遵守事項)

第 7 条　入館者又は使用者は、次に掲げる事項を守らなければならない。

(1)　展示品に触れないこと。

(2)　許可なく展示品の模写又は撮影を行わないこと。

(3)　所定の場所以外で飲食又は火気の使用をしないこと。

(4)　所定の場所以外に出入りしないこと。

(5)　他の入館者又は使用者の迷惑となるような行為をしないこと。

(6)　市長の指示に従うこと。

(帳票の様式)

第 8 条　この規則の施行に関し必要な帳票は、市長が別に定める。ただし、指定管理者に蘭島文化振興施設の管理を行わせる場合は、この限りでない。

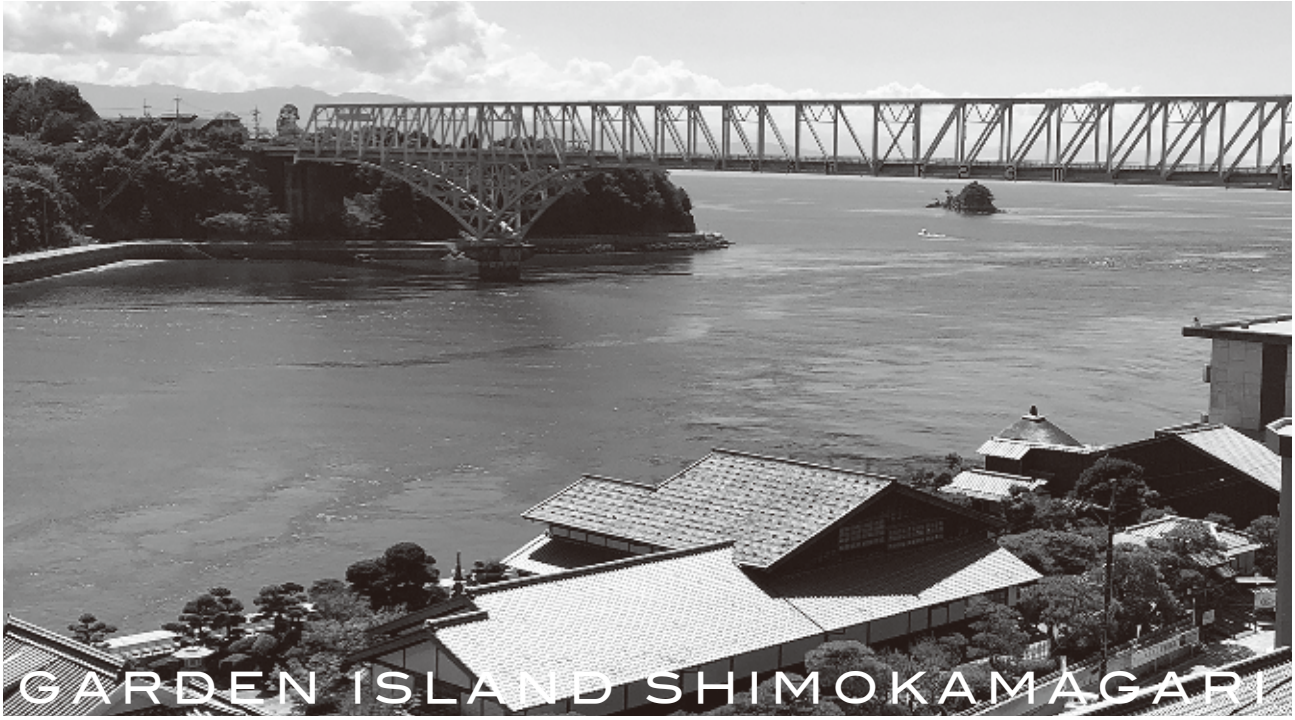
(委任)

第 9 条　この規則に定めるもののほか、蘭島文化振興施設の管理運営について必要な事項 は、市長が別に定める。

付 則

この規則は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

利用案内



利用案内

主要施設

蘭島閣美術館

開館時間 9:00～17:00（入館は 16:30 まで） 火曜日休館、祝日の場合は翌日

らんとうかくびじゅつかん
〒737-0301 広島県呉市下蒲刈町三之瀬 200-1 TEL 0823-65-3066 FAX 0823-70-8022

蘭島閣美術館の入館料

一般 500 円（400 円） 高校生 300 円（240 円） 小・中学生 200 円（160 円） （ ）内は 20 名以上の団体料金

蘭島閣美術館別館

開館時間 9:00～17:00（入館は 16:30 まで） 火曜日休館、祝日の場合は翌日

らんとうかくびじゅつかんべっかん
〒737-0301 広島県呉市下蒲刈町三之瀬 195 TEL ＆FAX 0823-65-2500

蘭島閣美術館別館の入館料

一般 300 円（240 円） 高校生 180 円（140 円） 小・中学生 120 円（90 円） （ ）内は 20 名以上の団体料金

三之瀬御本陣芸術文化館

開館時間 9:00～17:00（入館は 16:30 まで） 火曜日休館、祝日の場合は翌日

さんのせごほんじんげいじゅつぶんかかん
〒737-0301 広島県呉市下蒲刈町三之瀬 311 TEL 0823-70-8088 FAX 0823-70-8044

三之瀬御本陣芸術文化館の入館料

一般 500 円（400 円） 高校生 300 円（240 円） 小・中学生 200 円（160 円） （ ）内は 20 名以上の団体料金

松濤園

開館時間 9:00～17:00（入館は 16:30 まで） 火曜日休館、祝日の場合は翌日

しょうとうえん
〒737-0301 広島県呉市下蒲刈町下島 2277-3 TEL 0823-65-2900 FAX 0823-65-2711

松濤園の入館料

一般 800 円（640 円） 高校生 480 円（380 円） 小・中学生 320 円（250 円） （ ）内は 20 名以上の団体料金

白雪楼

開館時間 9:00～17:00（入館は 16:30 まで） 火曜日休館、祝日の場合は翌日

はくせつろう
〒737-0301 広島県呉市下蒲刈町三之瀬 197　＊お問い合せは蘭島閣美術館へ。

白雪楼の入館料

一般 400 円（320 円） 高校生 240 円（190 円） 小・中学生 160 円（120 円） （ ）内は 20 名以上の団体料金

昆虫の家「頑愚庵」

開館時間 9:00～17:00（入館は 16:30 まで） 火曜日休館、祝日の場合は翌日

こんちゅうのいえ「がんぐあん」
〒737-0301 広島県呉市下蒲刈町下島 2364-3 TEL＆FAX 0823-70-8007

昆虫の家の入館料

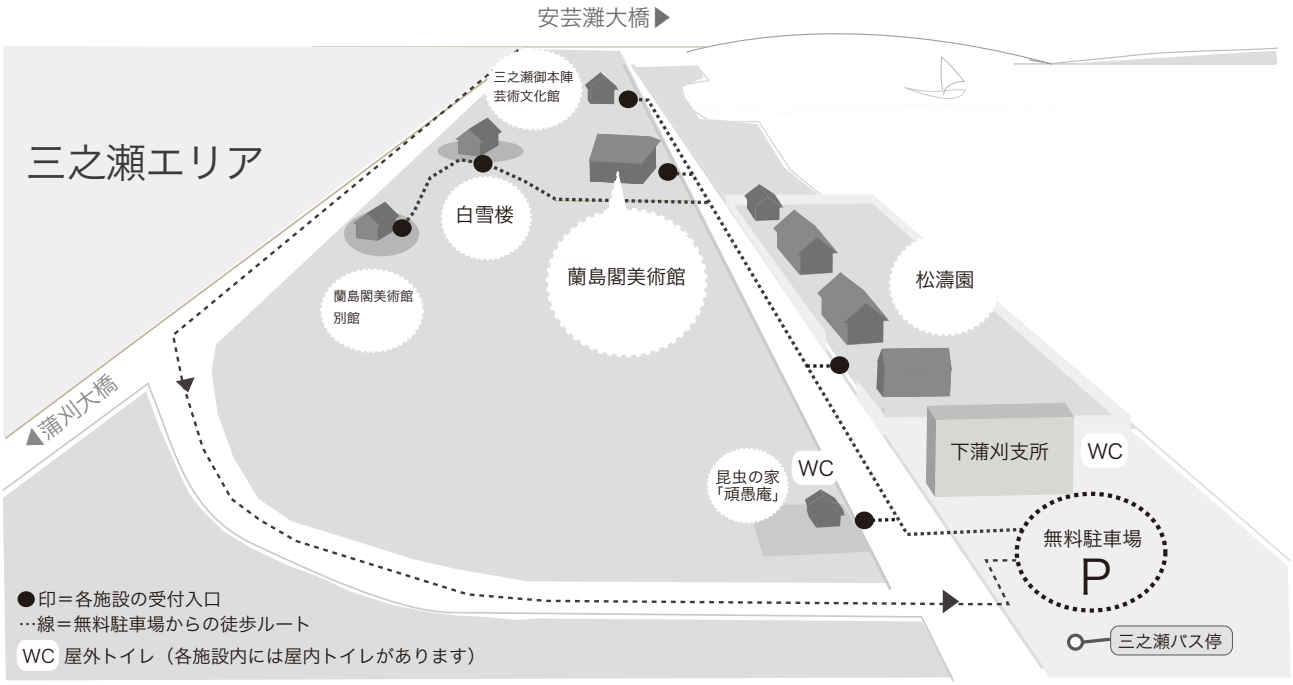
一般 300 円（240 円） 高校生 180 円（140 円） 小・中学生 120 円（90 円） （ ）内は 20 名以上の団体料金

全館共通▶入場料免除／特別割引対象

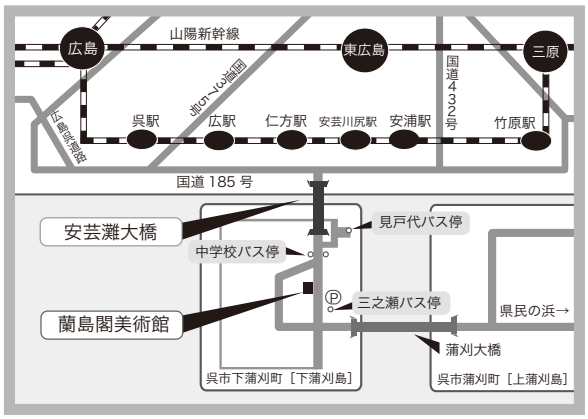
呉市内と圏域（竹原市・東広島市・江田島市・熊野町・海田町・坂町・大崎上島町）居住の高校生、小・中学生は入館無料です。
呉市敬老優待証、被爆者健康手帳、呉市はたちのパスポート、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳をお持ちの方は入館無料です。
＊手帳をお持ちの方の介護者免除対象もございます。

特別割引　JAF カード、ちゅーピーカード、中国新聞文化センター会員証、エルフルカードご提示により、１枚につき３名様まで団体料金で入館できます。

美術館周辺



地図



バスに関するお問い合せ　瀬戸内産交株式会社　TEL 0823-70-7051

アクセス方法

マイカー

■広島市内から車で 60 分
呉市内より国道 185 号線を竹原方面へ。安芸灘大橋（有料）を渡る。最初の島が下蒲刈町です。下蒲刈市民センター前の無料駐車場をご利用できます。駐車場から徒歩 260m。

バス

■広島市内からバス利用の場合
広島バスセンターから、さんようバス株式会社運行のバス「蒲刈．豊浜・豊」行き乗車。下蒲刈町内の「見戸代桟橋」停留所で接続する後続バスに乗り換え。
「見戸代桟橋」停留所から後続バスに乗り「三之瀬」停留所下車。美術館まで徒歩 260m。

○行き（広島市内／広島バスセンター発）　10:03
○帰り（下蒲刈町内／三之瀬発）　14:51

電車とバス

■呉市内から電車・バス利用の場合
JR 呉線で広駅または仁方駅で下車。駅前最寄りバス停留所より瀬戸内産交株式会社運行のバス「とびしまライナー（豊・豊島・蒲刈方面行）」乗車。下蒲刈町内「三之瀬」停留所下車。美術館まで 260m。（バスは上下線とも毎時 1 本運行しています。）

所要時間

■広島市内から車で 60 分
広島市内 ― 呉市下蒲刈町

■広島市内からバス利用で 85 分
広島バスセンター ‥‥ 見戸代バス停（のりかえ） ‥‥ 三之瀬バス停

■JR 広駅からバス利用で 23 分
JR 広駅前 ‥‥ 三之瀬バス停

■JR 呉駅からバス利用で 50 分
JR 呉駅そごう前 ‥‥ 見戸代バス停（のりかえ） ‥‥ 三之瀬バス停

＊利用案内は、指定管理する施設のうち、三之瀬エリアを中心として所在する施設を記載した。
その他の、春蘭荘、松藾亭及び煎茶室は除く。

公益財団法人蘭島文化振興財団年報　2020（令和２）年度

発　行　日　2021（令和３）年 12 月
編集・発行　公益財団法人蘭島文化振興財団
〒737-0301 広島県呉市下蒲刈町下島 2361-7
TEL.0823-65-2029
FAX.0823-70-8079
http://www.shimokamagari.jp

© 2021 公益財団法人蘭島文化振興財団

公益財団法人蘭島文化振興財団

GARDEN ISLAND SHIMOKAMAGARI

公益財団法人蘭島文化振興財団

GARDEN ISLAND SHIMOKAMAGARI